

## 基本計画書

基本計画書									
事項	記入欄								備考
計画の区分	大学の収容定員に係る学則変更								
フリガナ設置者	ガクコウホクジツン セイゼンジョウガクイン 学校法人 清泉女学院								
フリガナ大学の名称	セイゼンジョウガクインダク 清泉女学院大学								
大学本部の位置	長野県長野市上野2丁目120-8								
大学の目的	本学は、教育基本法に則り、学術研究を深めると共に、キリスト教の精神に基づく全人教育を教育理念として、知的及び道徳的に高い見識と広い教養を養い、弛まぬ自己開発を通して文化の向上と社会の福祉のために貢献しうる人人を育成することを目的とする。								
新設学部等の目的	清泉女学院大学と清泉女学院短期大学では建学の精神の下、地方の小規模大学・短大としての、教学組織の改組も含めた本学ビジョンを明確にし、このビジョン「地域社会と国際社会が最も必要とする教育・研究組織」実現のため、体系的、統合的かつ効率的な教育研究と経営を目指して、本学の質を高めることを目指し進めてきた。その一環として、令和7年4月に全学共学化をし、人文社会科学部を設置する。既存学部学科のこれまでの収容定員率などをふまえ、かつ地域が求める地域社会の課題解決の能力を持った人材をこれまで以上に輩出していくため、大学全体の収容定員を変更する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	人間学部 [Faculty of Human Studies]	年	人	年次人	人			年 月 第 年次	
	心理コミュニケーション学科 [The Department of Psychology and Communication]	4	68	—	272	学士（人間学） [Bachelor of Human Studies]	文学関係	平成15年4月 第1年次	長野県長野市上野2丁目120-8
	文化学科 [Department of Culture]	4	0 (32)	—	0 (128)	学士（人間学） [Bachelor of Human Studies]	文学関係	平成30年4月 第1年次	同上
	人文社会科学部 [Faculty of Humanities and Social Sciences]								
情報コミュニケーション学科 [Department of Information and Communication]	4	40 (0)	—	160 (0)	学士（人文社会科学） [Bachelor of Humanities and Social Sciences]	文学関係	令和7年4月 第1年次	長野県長野市上野2丁目120-8	
文化芸術学科 [Department of Culture and Arts]	4	32 (0)	—	128 (0)	学士（人文社会科学） [Bachelor of Humanities and Social Sciences]	文学関係	令和7年4月 第1年次	同上	

※令和6年5月設置届出

看護学部 [Faculty of Nursing]									
看護学科 [Department of Nursing]	4	76	—	304	学士（看護学） [Bachelor of Nursing]	保健衛生学関係 （看護学関係）	平成31年4月 第1年次	長野県長野市 栗田2277	
計		216 (176)	—	864 (704)					

同一設置者内における 変更状況 （定員の移行、 名称の変更等）	清泉女学院大学 令和7年4月名称変更予定 清泉女学院大学→清泉大学 人文社会科学部 情報コミュニケーション学科 (40) (令和6年5月届出) 文化芸術学科 (32) (令和6年5月届出) 人間学部 文化学科(廃止) (△32) ※令和7年4月学生募集停止
	清泉女学院大学大学院 令和7年4月名称変更予定 清泉女学院大学大学院→清泉大学大学院 看護学研究科 (8)
	清泉女学院短期大学 令和7年4月名称変更予定 清泉女学院短期大学→清泉大学短期大学部 令和7年4月名称変更予定 幼児教育科→こども学科 (100) 国際コミュニケーション科(廃止) (△80) ※令和7年4月学生募集停止

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数	
		講義	演習	実験・実習	計	単位	単位
	-	- 科目	- 科目	- 科目	- 科目	-	単位

学部等の名称	基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)
	教授	准教授	講師	助教	計		
新設 人間学部 心理コミュニケーション学科	5人 (5)	3人 (3)	2人 (2)	0人 (0)	10人 (10)	0人 (0)	21人 (21)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (5)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	10 (10)	/	/
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計（a～b）	5 (5)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	10 (10)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	5 (5)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	10 (10)		

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 8人

新	人文社会科学部 情報コミュニケーション学科	5人 (5)	1人 (1)	2人 (2)	0人 (0)	8人 (8)	0人 (0)	17人 (17)	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 4人			
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (5)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	8 (8)	/	/				
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
	小計（a～b）	5 (5)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	8 (8)						
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
	計（a～d）	5 (5)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	8 (8)						
	人文社会科学部 文化芸術学科	5人 (5)	1人 (1)	2人 (2)	1人 (1)	9人 (9)				0人 (0)	13人 (13)	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 4人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (5)	1 (1)	2 (2)	1 (1)	9 (9)				/	/	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
	小計（a～b）	5 (5)	1 (1)	2 (2)	1 (1)	9 (9)						
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
	計（a～d）	5 (5)	1 (1)	2 (2)	1 (1)	9 (9)						
	看護学部 看護学科	9人 (9)	5人 (5)	4人 (4)	9人 (9)	27人 (27)						0人 (0)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	8 (8)	3 (3)	3 (3)	1 (1)	15 (15)	/			/			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	1 (1)	2 (2)	1 (1)	8 (8)	12 (12)							
小計（a～b）	9 (9)	5 (5)	4 (4)	9 (9)	27 (27)							
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)							
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)							
計（a～d）	9 (9)	5 (5)	4 (4)	9 (9)	27 (27)							
計	24 (24)	10 (10)	10 (10)	10 (10)	54 (54)		0 (0)	86 (86)				
分												

既 設 分	該当なし		— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの		— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）		— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	
	小計（a～b）		— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）		— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	
	計（a～d）		— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	
計		— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	
合計		24 (24)	10 (10)	10 (10)	10 (10)	54 (54)	0 (0)	86 (86)		
職 種		専 属		そ の 他		計				
事 務 職 員		23 (23) 人		27 (27) 人		50 (50) 人				
技 術 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)				
図 書 館 職 員		1 (1)		3 (3)		4 (4)				
そ の 他 の 職 員		10 (10)		0 (0)		10 (10)				
指 導 補 助 者		0 (0)		0 (0)		0 (0)				
計		34 (34)		30 (30)		64 (64)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計		清泉女学院短期 大学(必要面積 2,000.00㎡)と共用 [収容定員：200 人] 借用地面積 1,621.00㎡ 借用期間44年 11ヶ月		
	校 舎 敷 地	1,512.64㎡	12,871.56㎡	—		14,384.20㎡				
	そ の 他	108.36㎡	6,963.17㎡	—		7,071.53㎡				
	合 計	1,621.00㎡	19,834.73㎡	—		21,455.73㎡				
校 舎	校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計		清泉女学院短期 大学(必要面積 2,644.00㎡)と共用 [収容定員：200 人] 借用地面積 1,148.60㎡ 借用期間44年 11ヶ月		
		5,819.01㎡	9,963.97㎡	—		15,782.98㎡				
		( 5,819.01㎡)	( 9,963.97㎡)	( — ㎡)		( 15,782.98㎡)				
教室・教員研究室	教 室	60室	教 員 研 究 室	54室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕		機械・器具 点	標本 点	学部単位での算 出不能なため、 大学及び併設の 短期大学全体で の共用分を含む		
		冊	電子図書 〔うち外国書〕	種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕					
	大学全体	95,749 [14,255] (92,561 [14,231])	0 [0]	262 [103] (262 [103])	11 [3] (11 [3])	7,752 (7,752)	17 (17)			
	計	95,749 [14,255] (92,561 [14,231])	0 [0]	262 [103] (262 [103])	11 [3] (11 [3])	7,752 (7,752)	17 (17)			
スポーツ施設等	スポーツ施設		講堂		厚生補導施設		大学全体			
	1,200.47㎡		—		1,073.84㎡					

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	大学全体 図書費には電子 ジャーナル・ データベースの 整備費（運用コ スト）を含む	
	経費の見積り	教員1人当り研究費等		400千円	400千円	400千円	400千円	—		—
		共同研究費等		1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	—		—
		図書購入費		6,000千円	6,000千円	6,000千円	6,000千円	—		—
		設備購入費		2,500千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円	—		—
学生1人当り 納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		人間学部 人文社会科学部 看護学部	
		1,270千円	1,020千円	1,020千円	1,020千円	—	—			
		1,320千円	1,070千円	1,070千円	1,070千円	—	—			
		1,870千円	1,550千円	1,550千円	1,550千円	—	—			
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常経費補助金、寄付金、雑収入 他								
既設大学等の状況										
大学等の名称		清泉女学院大学								
学部等の名称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	収容定員 充足率	開設 年度	所在地	
人間学部		年	人	年次 人	人		倍		長野県長野市上野 2丁目120-8	
心理コミュニケーション学科		4	68	—	272	学士（人間学）	1.07 《1.06》	平成15年度		
文化学科		4	32	—	128	学士（人間学）	0.94 《0.93》	平成30年度		
看護学部									長野県長野市栗田 2277	
看護学科		4	76	—	304	学士（看護学）	1.03 《1.02》	令和元年度		
大学等の名称		清泉女学院大学大学院								
学部等の名称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	収容定員 充足率	開設 年度	所在地	
看護学研究科		年	人	年次 人	人		倍		長野県長野市栗田 2277	
看護学専攻		2	8	—	16	修士（看護学）	0.75	令和3年度		
大学等の名称		清泉女学院短期大学								
学部等の名称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	収容定員 充足率	開設 年度	所在地	
幼児教育科		2	100	—	200	短期大学士（幼 児教育）	0.80	昭和56年度	長野県長野市上野 2丁目120-8	
国際コミュニケーション科		2	80	—	160	短期大学士（国際コ ミュニケーション）	0.61	平成4年度		
附属施設の概要		なし								

## 学校法人清泉女学院 収容定員に係る認可申請等に関する組織の移行表

令和6年度	入学 定員	編入 学定員	収容 定員	令和7年度	入学 定員	編入 学定員	収容 定員	変更の事由
<b>清泉女学院大学</b>				<b>清泉大学</b> <span style="float: right;">名称変更</span>				
人間学部				人間学部				
心理コミュニケーション学科	68	-	272	心理コミュニケーション学科	68	-	272	
文化学科	32	-	128	文化学科	<u>0</u>	-	<u>0</u>	令和7年4月学生募集停止
看護学部				看護学部				
看護学科	76	-	304	看護学科	76	-	304	
				<u>人文社会科学部</u>				学部の設置(届出申請)
				<u>情報コミュニケーション学科</u>	<u>40</u>	-	<u>160</u>	
				<u>文化芸術学科</u>	<u>32</u>	-	<u>128</u>	
人間学専攻科	5	-	5	人間学専攻科	5	-	5	
助産学専攻科	5	-	5	助産学専攻科	5	-	5	
計	186	-	714	計	<u>226</u>	-	<u>874</u>	
<b>清泉女学院大学大学院</b>				<b>清泉大学大学院</b> <span style="float: right;">名称変更</span>				
看護学研究科				看護学研究科				
看護学専攻	8	-	16	看護学専攻	8	-	16	
計	8	-	16	計	8	-	16	
<b>清泉女学院短期大学</b>				<b>清泉大学短期大学部</b> <span style="float: right;">名称変更</span>				
幼児教育科	100	-	200	こども学科	100	-	200	名称変更
国際コミュニケーション科	80	-	160	文化学科	<u>0</u>	-	<u>0</u>	令和7年4月学生募集停止
計	180	-	360	計	<u>100</u>	-	<u>200</u>	

## 校地校舎等の図面

### (1) 都道府県内における位置関係の図面①

清泉女学院大学

(令和 7(2025)年度より清泉大学に名称変更予定)



長野県長野市全体地図



校地校舎等の図面

(1) 都道府県内における位置関係の図面②

■上野キャンパス  
長野県長野市上野2-120-8

■長野駅東口キャンパス  
長野県長野市栗田2277

直線距離: 約6.3km

上野キャンパス

しなの鉄道  
三才駅

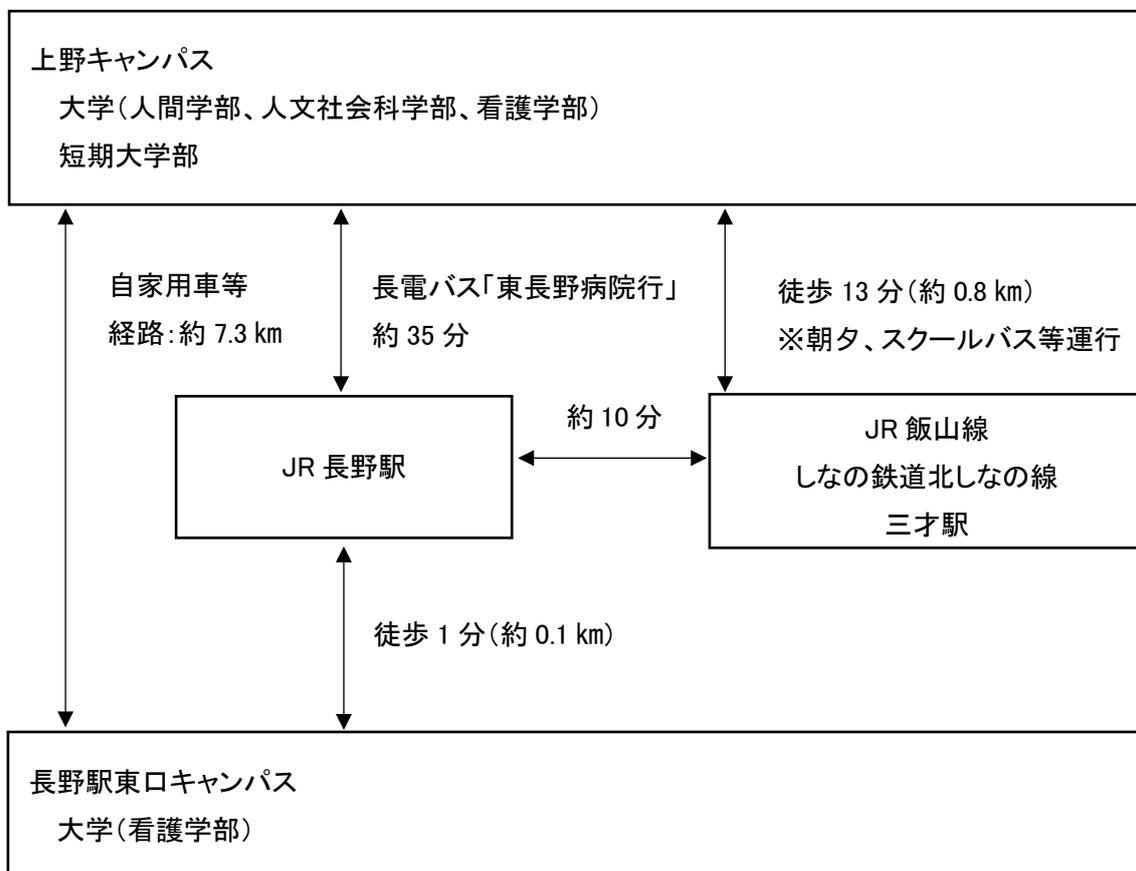


長野駅

長野駅東口キャンパス

## 校地校舎等の図面

### (2) 最寄り駅からの距離、交通機関及び所要時間がわかる図面

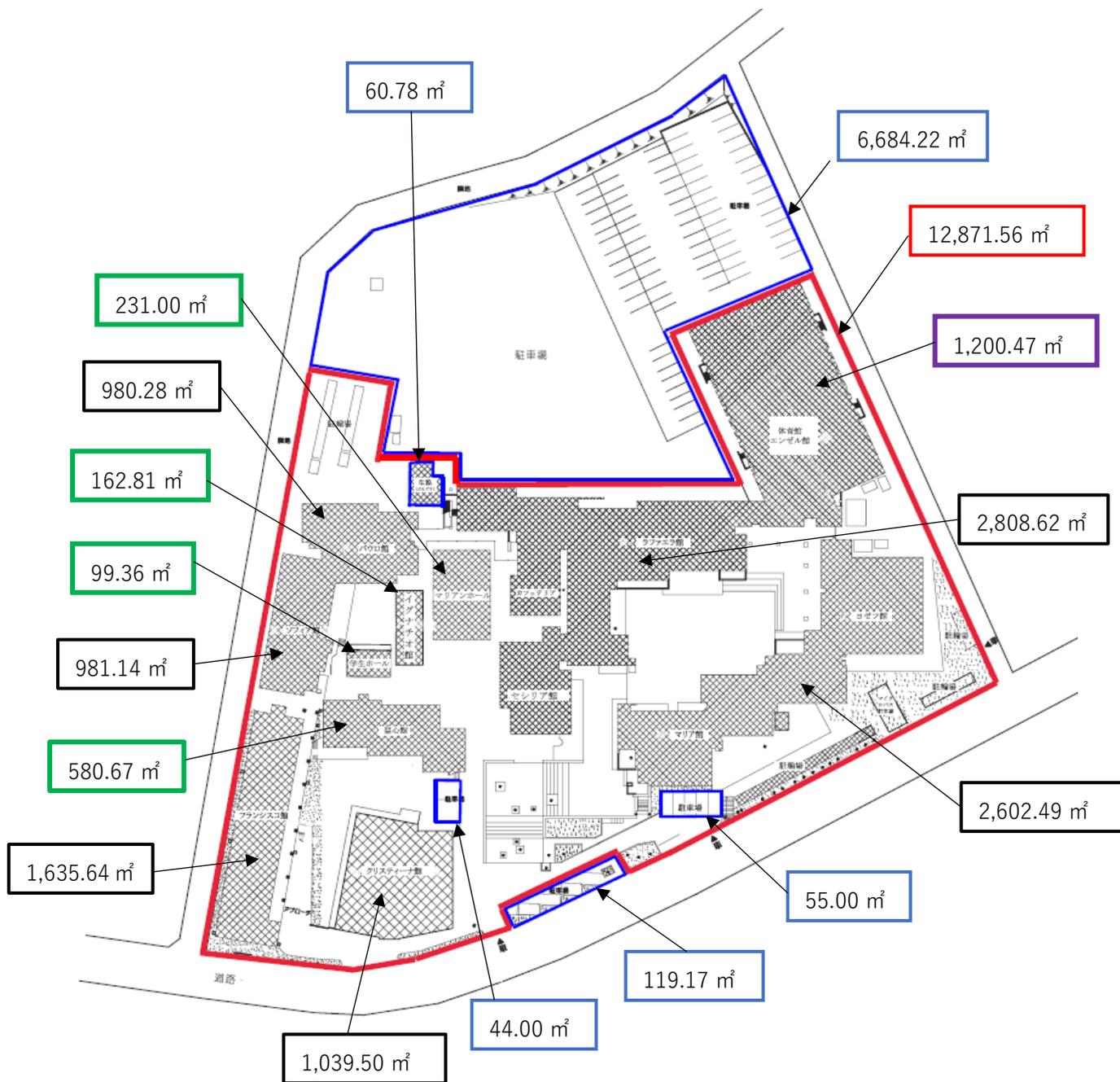


校地校舎の図面

(3) 校舎、運動場等の配置図 (完成年度のもの)

①上野キャンパス

校地はすべて大学・短期大学部の共用



【校地面積他】	
■校舎等敷地	12,871.56 m <sup>2</sup>
■不算入施設用地 (駐車場・生協)	6,963.17 m <sup>2</sup>

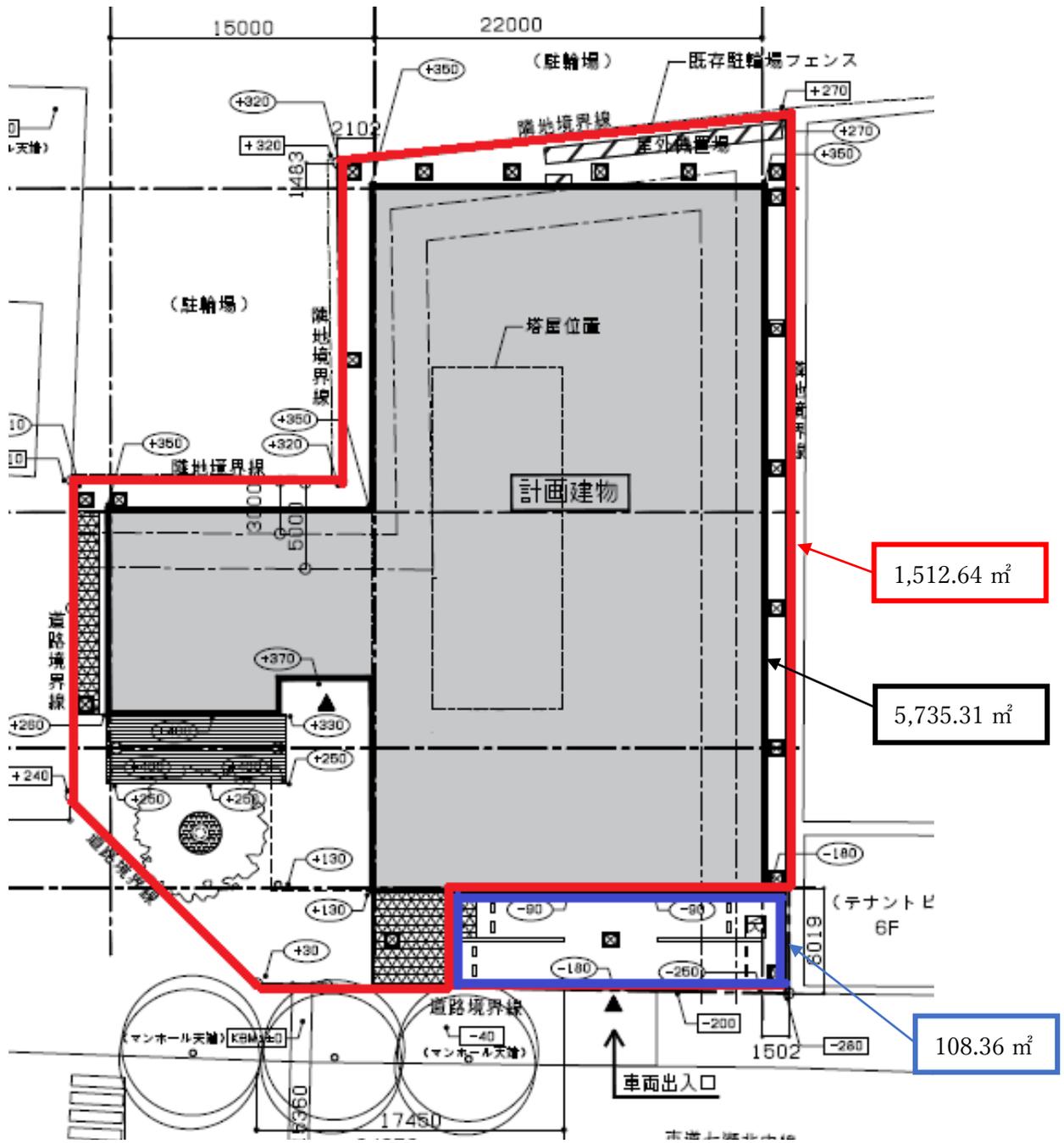
【校舎面積他】	
■校舎	10,047.67 m <sup>2</sup>
■体育館	1,200.47 m <sup>2</sup>
■厚生補導施設	1,073.84 m <sup>2</sup>

校地校舎の図面

(3) 校舎、運動場等の配置図 (完成年度のもの)

②長野駅東口キャンパス

校地・校舎はすべて大学の専用



【校地面積】		【校舎面積】	
■ 校舎等敷地	1,512.64 m <sup>2</sup>	■ 校舎	5,735.31 m <sup>2</sup>
■ 不算入施設用地 (駐車場)	108.36 m <sup>2</sup>		

# (1) 学則案の全文

## 清泉大学 学則 (案)

### 第1章 目的及び使命

(目的及び使命)

**第1条** 本学は、教育基本法に則り、学術研究を深めると共に、キリスト教の精神に基づく全人教育を教育理念として、知的及び道徳的に高い見識と広い教養を養い、弛まぬ自己開発を通して文化の向上と社会の福祉のために貢献しうる人人を育成することを目的とする。

2 本学は、共生の精神を教育の基盤として、心の問題への取り組みを通して他者のために自分を役立てる人人の育成を使命とする。

(自己点検及び自己評価)

**第2条** 本学は、教育水準の向上をはかり、前条の目的及び使命を達成するために本学における教育研究活動等の状況について、自ら点検及び評価を行うものとする。

2 本学は、教育研究等の総合的な状況について、学校教育法施行令で定める期間ごとに、文部科学大臣の認定を受けた認証評価機関による評価を受けるものとする。

3 自己点検・評価を含む大学評価の点検項目及び実施体制については、別に定める。

### 第2章 組織

(教育内容等の改善)

**第3条** 本学は、授業内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

2 前項の組織的な研修及び研究の実施については、別に定める。

(学部、学科及び学生定員)

**第4条** 本学に置く学部、学科及び学生定員は、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	収容定員
人間学部	心理コミュニケーション学科	68名	272名
人文社会科学部	情報コミュニケーション学科	40名	160名
	文化芸術学科	32名	128名
看護学部	看護学科	76名	304名
合計		216名	864名

2 本学の学部、学科の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

人間学部

人間学部は、本学の目的、使命を果たすために、本学の建学の精神である「キリスト教（カトリック）ヒューマニズム」に基づき、教養を重視した全人教育を通じて、幅ひろい教養と人間学領域の学知・技能を教授し、コミュニティとともに生き、常に自らを高め、共生のこころをもって、他者のために考え、行動し、地域と世界に貢献できる情操豊かな人人を育成することを目的とする。

心理コミュニケーション学科

心理コミュニケーション学科は、コミュニケーションを共通項に、心の働きを理解し、コミュニケーションを通じた共生関係を積極的に形成し、地域や社会での諸問題を解決する能力を有する人材を育成することを目的とする。

人文社会科学部

人文社会科学部は、本学の目的、使命を果たすために、本学の建学の精神である「キリスト教（カトリック）ヒューマニズム」に基づき、教養を重視した全人教育と、未来予測が困難な現代社会に必要な学際的な学びや社会科学に関する学びを人文科学領域の学知・技能と結び付けることで、課題解決に挑み、社会と地域に貢献できる人人を育成することを目的とする。

情報コミュニケーション学科

情報コミュニケーション学科は、高度情報社会のなかで必要となるコミュニケーションスキルを有し、人文科学を基盤としてビジネス、グローバル、デジタルに関する知識を関連させながら学際的・総合的に学び、情報・データの活用と他者とのコミュニケーションを通じて課題解決に貢献できる人材を育成することを目的とする。

文化芸術学科

文化芸術学科は、文化芸術に関する諸学の幅広く学際的な知識と自らが帰属する社会、地域、共同体の多様性・多元性の正しい理解に基づき、行動力をもって文化の諸活動を主体

的に行い、文化の創造に貢献し、文化の学びを課題解決につなげられる人材を育成することを目的とする。

#### 看護学部

看護学部看護学科は、本学の目的、使命を果たすために、本学建学の精神である「キリスト教（カトリック）ヒューマニズム」に基づき、教養を重視した全人教育と看護学領域の専門職教育を統合し、地域社会の保健医療・看護におけるケアの質と安全を考究する体系的・継続的教育により、豊かな教養と適切な判断力・適応力・倫理観を培った看護実践力を修め、学びの文化、ケアの文化、共生の文化の創生をとおして、社会に貢献できる人人を育成することを目的とする。

（教職員組織）

**第5条** 本学に、学長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、技術職員及びその他必要な教職員を置く。

（教授会）

**第6条** 本学に、教授会を置く。

2 教授会の運営、審議事項等については、別に定める。

### 第3章 学年、学期及び休業日

（学年）

**第7条** 学年は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

（学期）

**第8条** 学期は、次の2期に分ける。

- (1) 春学期 4月1日から9月30日まで
- (2) 秋学期 10月1日から翌年3月31日まで

（休業日）

**第9条** 授業を行わない日（以下「休業日」という。）は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日
  - (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
  - (3) クリスマス 12月25日
  - (4) 春期休業日
  - (5) 夏期休業日
  - (6) 冬期休業日
- 2 前項第4号、第5号及び第6号の期間については、年度初めに学長が定める。
- 3 学長は、第1項の規定にかかわらず、特別の必要があるときは、臨時に休業日を定め又は休業日であっても臨時に授業を行うことができる。

（修業年限）

**第10条** 本学の修業年限は、4年とする。

- 2 学校教育法に該当する者は、この限りではない。
  - 3 第1項の規定にかかわらず、修業年限を超えて在学を希望する者があるときは、教授会において学生の学習意欲等を総合的に判断し、学長が在学を認めることができる。
- （在学期間）

**第11条** 学生は、8年を越えて在学することはできない。ただし、教授会の審議を経て学長が所定の年限を越えて在学することを認めた場合は、この限りではない。

- 2 第18条、第19条及び第20条までの規定により入学を許可された学生については、それぞれの規定により定められた在学年数の2倍に相当する期間を超えて在学することはできない。ただし、教授会の審議を経て学長が所定の年限を越えて在学することを認めた場合は、この限りではない。

### 第4章 入学

（入学の時期）

**第12条** 入学の時期は、学年の始めとする。ただし、転入学、再入学等特別の事情があり、かつ、教育上支障がないと認められる場合には、学期の始めとすることができる。

（入学資格）

**第13条** 本学に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 高等学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む。）
- (3) 外国において、学校教育における12年の教育課程を修了した者（又はこれと同等以上の学力があると認められる当該国の検定に合格した者）で、18歳に達した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

- (5) 学校教育法施行規則により文部科学大臣の指定した者
- (6) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成 17 年文部科学省令第 1 号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（省令附則第 2 条による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和 26 年文部省令第 13 号）による大学入学資格検定に合格した者を含む。）及び本学の当該入学試験年度の 3 月 31 日までに合格見込みの者
- (7) その他相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると本学において認められた者

（入学の志願）

**第 14 条** 本学に入学を志願する者は、所定の書類に入学検定料を添えて提出しなければならない。提出の時期、方法、提出すべき書類等については、別に定める。

（入学者の選考）

**第 15 条** 前条の入学志願者については、別に定めるところにより、選考を行う。

（入学手続及び入学許可）

**第 16 条** 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに所定の書類を提出するとともに、入学金を納付しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

（入学許可の取消し）

**第 17 条** 前条第 1 項の提出書類に虚偽又は不正があった場合には、入学の許可を取り消すことがある。

（編入学）

**第 18 条** 次の各号のいずれかに該当する者で、本学への入学を志願する者については、選考のうえ、教授会の審議を経て、学長が 2 年次又は 3 年次に編入学を許可する。

- (1) 他の大学を卒業した者又は退学した者
- (2) 短期大学、又は高等専門学校を卒業した者
- (3) 専修学校の専門課程（文部科学大臣の定める基準を満たすもの）を修了した者
- (4) 学校教育法施行規則に規定する者

（転入学）

**第 19 条** 他の大学に在学する者で、本学への入学を志願する者については、選考のうえ、教授会の審議を経て、学長が相当年次に転入学を許可する。

（再入学）

**第 20 条** 本学を退学した者で、再度本学への入学を志願する者については、選考のうえ、教授会の審議を経て、学長が相当年次に再入学を許可する。

（編入学等の場合の取扱い）

**第 21 条** 前 3 条に規定する入学を許可された者の既に修得した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、教授会の審議を経て、学長が決定する。

## 第 5 章 授業科目及び履修方法

（授業科目等）

**第 22 条** 授業科目は、共通教育科目及び専門教育科目とする。

2 授業科目及び単位数は、別表（1）のとおりとする。

（履修科目の登録）

**第 23 条** 学生は、履修しようとする授業科目を登録しなければならない。

（授業方法及び授業単位の算定規準）

**第 24 条** 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 第 1 項の授業の一部を、校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。

4 授業科目の単位数は、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することとし、次の規準により単位数を算定するものとする。

(1) 講義及び演習については、15 時間の授業と 30 時間の授業外の学修活動をもって 1 単位とみなす。

(2) 実験、実習及び実技については、30 時間の授業及び指導と 15 時間の授業外学修活動をもって 1 単位とみなす。

5 前 4 項の規定にかかわらず、卒業研究については、8 単位とする。

（1 年間の授業期間）

**第 25 条** 1 年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35 週にわたることを原則とする。

（卒業に必要な単位数）

**第 26 条** 卒業に必要な単位数は、別表（2）のとおりとする。

2 卒業の要件として修得すべき単位数のうち、第 24 条第 2 項の授業の方法により修得す

る単位数は、60 単位を超えないものとする。

(単位の授与)

**第 27 条** 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。

(試験)

**第 28 条** 授業科目の学修修了の認定は、試験等の成績評価による。

2 試験の種類及び実施方法については、別に定める。

(学修の評価)

**第 29 条** 履修成績の評価は、次のとおりとする。

秀	S	(100 点～90 点)	}	合格
優	A	( 89 点～80 点)		
良	B	( 79 点～70 点)		
可	C	( 69 点～60 点)		
不可	D	( 59 点～ 0 点)		不合格

2 前項にかかわらず履修成績の評価は、次のように表すことができる。

P ( P a s s ) 合格

3 再試験については、別に定める。

(他の大学等における授業科目の履修等)

**第 30 条** 本学が教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学との協議に基づき、学生に当該他の大学又は短期大学の授業科目を履修させることができる。

2 前項の規定により修得した単位は、60 単位を超えない範囲で本学において修得したものとみなすことができる。

(大学以外の教育施設等における学修)

**第 31 条** 本学が教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又はその他文部科学大臣が定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、別に定めるところにより単位を与えることができる。

2 前項により与えることができる単位数は、前条により本学において修得したものとみなす単位数と合せて60単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位等の認定)

**第 32 条** 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位(当該他の大学又は短期大学において科目等履修生として修得した単位を含む)は、本学に入学した後の本学における授業科目により修得したものとみなすことができる。

2 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第 1 項に規定する学修は、本学における授業科目の履修とみなし、別に定めるところにより単位を与えることができる。

3 前 2 項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、第 18 条の編入学、第 19 条の転入学の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、合せて 60 単位を超えないものとする。

## 第 6 章 休学、復学、転学、転学部、転学科、留学、退学及び除籍

(休学及び復学)

**第 33 条** 学生は、病気その他やむを得ない理由により 3 ヶ月以上修学することができないときは、学長の許可を得て、休学することができる。

2 休学期間は、1 年以内とする。ただし、学長は特別の理由があると認めるときは、休学の延長を許可することができる。

3 休学期間は、通算して 4 年を超えることができない。

4 休学期間は、第 11 条の在学期間には算入しない。

5 学生は、休学の理由が消滅したことにより復学しようとするときは、学長の許可を得て復学することができる。

(転学)

**第 34 条** 学生は、他の大学への入学又は転入学をするときは、学長の許可を得なければならない。

(転学部)

**第 35 条** 他学部への転学部を希望する者については、教授会の審議を経て、学長が許可することができる。

2 転学部については、別に定める。

(転学科)

**第 36 条** 他学科への転学科を希望する者については、教授会の審議を経て、学長が許可することができる。

2 転学科については、別に定める。

(留学)

- 第 37 条** 外国の大学又は短期大学で学修することを希望する者は、学長の許可を得て在学のまま留学することができる。
- 2 留学を希望する場合は、所定の期日までに保証人連署の上、留学願を提出し、許可を受けなければならない。
- 3 前項の許可を得て留学する期間は、第 40 条に規定する在学期間に含めることができる。
- 4 第 30 条第 1 項の規定は、第 1 項の留学について準用する。
- 5 留学に関する規定は、別に定める。

(退学)

**第 38 条** 退学しようとする者は、退学願を提出し、学長の許可を受けなければならない。  
(除籍)

**第 39 条** 次の各号のいずれかに該当する学生は、教授会の審議を経て、学長が除籍することができる。

- (1) 授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- (2) 第 11 条に規定する在学期間を超えた者。ただし、学長が所定の年限を越えて在学することを認めた者を除く。
- (3) 第 33 条第 3 項に規定する休学期間を超えた者
- (4) 長期にわたる欠席その他の事由で成業の見込みのない者

## 第 7 章 卒業、学位及び免許状等

(卒業)

**第 40 条** 本学に 4 年（ただし、第 18 条、第 19 条及び第 20 条のいずれかの規定により入学した者については、第 21 条の規定により定められた在学すべき年数）以上在学し、卒業に必要な単位数を取得した者について、教授会の審議を経て、学長が卒業を認定する。

(学位)

**第 41 条** 本学を卒業した者に、学位を授与する。

学部	学科	学位
人間学部	心理コミュニケーション学科	学士(人間学)
人文社会科学部	情報コミュニケーション学科	学士(人文社会科学)
	文化芸術学科	学士(人文社会科学)
看護学部	看護学科	学士(看護学)

(教育職員免許)

**第 42 条** 本学を卒業し、教育職員免許法（昭和 24 年文部省令第 147 号）及び教育職員免許法施行規則（昭和 29 年文部省令第 26 号）に定めるところに従って単位を修得したものは、本人の申請に基づいて教育職員免許状の授与を受けることができる。

- 2 教育職員免許に関する授業科目並びに単位数については、別に定める。
- 3 本学において取得できる免許状は、次のとおりである。

学部	学科	免許状の種類	教科
人間学部	心理コミュニケーション学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	英語 英語
看護学部	看護学科	養護教諭一種免許状	

(学芸員及び司書資格)

**第 43 条** 学芸員の資格を取得しようとする者は、博物館法及び博物館法施行規則に定める科目を履修し、その単位を修得しなければならない。

- 2 司書の資格を取得しようとする者は、図書館法及び図書館法施行規則に定める科目を履修し、その単位を取得しなければならない。
- 3 それぞれの資格を取得するために必要な科目及び単位数については、別に定める。

(看護師受験資格)

**第 44 条** 看護師の受験資格を取得しようとする者は、第 40 条の規定によるほか、保健師助産師看護師法、同法施行規則及び保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める科目を履修し、その単位を修得しなければならない。

## 第 8 章 専攻科

(専攻科名称)

**第 45 条** 大学に次の専攻科を置く。

基礎となる学部	専攻科名称
人間学部	人間学専攻科
看護学部	助産学専攻科

(目的)

**第46条** 専攻科の目的は以下の通りとする。

専攻科	目的
人間学専攻科	人間学専攻科は、本学の建学の精神にもとづき、学部、学科の教育の基礎の上に、より高度な専門教育、リカレント教育、社会教育及び生涯学習を目指す学生各々の才能、個性を尊重して、更なる専門研究を継続深化させることを目的とする。
助産学専攻科	助産学専攻科は、学部等の段階の教育で養成された看護学分野の基礎的かつ基本的な資質能力の修得の上に立って、助産に関する専門的な知識と技術の教授、研究を通して、地域の母子保健の発展と向上に寄与することのできる助産師を育成することを目的とする。

(学生定員)

**第47条** 専攻科の定員は、次のとおりとする。

専攻科	入学定員
人間学専攻科	5人
助産学専攻科	5人

(組織及び運営)

**第48条** 専攻科に専攻科委員会を置き、専攻科の運営に関する重要事項を審議する。

2 専攻科委員会については別に定める。

(修業年限及び在学期間)

**第49条** 専攻科の修業年限は、1年とし、2年を超えて在学することができない。ただし、長期履修生の修業年限については別に定める。

(入学資格)

**第50条** 専攻科に入学することができる者は、第1号から第7号のいずれかに該当する者とする。上記に加え、助産学専攻科に入学できる者は、第8号に該当する者とする。

- (1) 大学（学校教育法に定める大学をいう。以下同じ。）を卒業した者
- (2) 学校教育法の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (6) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (7) 文部科学大臣の指定した者
- (8) 看護師資格を有する者

(編入学、転入学及び再入学)

**第51条** 専攻科への編入学、転入学及び再入学は、これを認めない。

(教育課程及び履修方法等)

**第52条** 専攻科の授業科目及びその単位数並びに履修方法については、別表1に定める。

2 前項に規定するものの他、履修方法等については、第23条、第24条を準用する。

(修了)

**第53条** 修了要件は次の通りとする。

専攻科	修了要件
人間学専攻科	本専攻科に1年以上在学し、専攻科科目より12単位以上、指導教員が指定する学部共通科目から8単位以上の合計20単位以上を修得
助産学専攻科	本学の専攻科に1年以上在学し、別に定めるところにより35単位以上を修得

2 前項の要件を満たした者には、教授会の議を経て、学長が修了を認定し修了証書を授与する。  
(資格の取得)

**第54条** 専攻科において取得できる資格は、次のとおりとする。

専攻科	取得できる資格
助産学専攻科	助産師国家試験受験資格

(規程の準用)

**第55条** 専攻科に関して本章に定める以外のことについては、この学則及び関連規程を準用する。

## 第9章 賞罰

(表彰)

**第56条** 学生として表彰に価する行為があった者は、教授会の審議を経て学長が表彰することができる。

(懲戒)

**第57条** 本学の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者は、教授会の審議を経て、学長が懲戒することができる。

- 懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。
- 退学は、次のいずれかに該当する者に対して行う。
  - 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
  - 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
  - 正当な理由がなく、出席が常でない者
  - 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

## 第10章 福利厚生施設

(福利厚生施設)

**第58条** 本学に、保健室、学生相談室その他の福利厚生施設を置く。

## 第11章 科目等履修生、聴講生、特別聴講生及び長期履修学生等

(科目等履修生)

**第59条** 本学において、一又は複数の授業科目の履修を志願する者があるときは、本学の教育研究に支障のない範囲において、選考のうえ、教授会の審議を経て、学長が科目等履修生として入学を許可する。

- 前項の科目等履修生として入学できる者は、第13条各号のいずれかに該当する者とする。
- 学長は、科目等履修生に対し、単位を与えることができる。

(聴講生)

**第60条** 本学の学生以外の者で、一又は複数の授業科目を履修することを志願する者があるときは、選考のうえ、学生の修学に支障がない場合に限り、教授会の審議を経て学長が聴講生として入学を許可する。

(特別聴講生)

**第61条** 他の大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む）の学生で、本学において一又は複数の授業科目を履修することを志願する者があるときは、当該他の大学又は短期大学との協議に基づき、選考のうえ、教授会の審議を経て、学長が特別聴講生として入学を許可する。

- 学長は、特別聴講生に対し、単位を与えることができる。

(研究生)

**第62条** 本学において特定の専門事項について研究することを志願する者があるときは、

本学の教育研究に支障のない範囲において、選考のうえ、教授会の審議を経て、学長が研究生として入学を許可する。

- 2 研究生として入学することのできる者は、大学を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると学長が認めた者とする。
- 3 研究期間は1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、その期間を延長することができる。

(研修員)

**第63条** 大学その他の団体からその所属する職員に特定の専門事項について研修させるため本学に派遣の申し入れがあるときは、本学の教育研究に支障のない範囲において、選考のうえ、教授会の審議を経て、学長が研修員として受け入れる。

- 2 研修員として受け入れることのできる者は、大学を卒業した者又は同等以上の学力があると学長が認めた者とする。

(長期履修学生)

**第64条** 第10条第3項に定める修業年限を超え一定の期間にわたり授業科目を履修することを目的として、本学に入学を志願する者があるときは、選考のうえ、長期履修学生として入学を許可する。

(外国人留学生)

**第65条** 外国人で、本学に入学及び編入学を志願する者があるときは、選考のうえ教授会の審議を経て、学長が外国人留学生として入学を許可する。

(科目等履修生等に関する事項)

**第66条** 科目等履修生、聴講生、特別聴講生、研究生、研修員、長期履修学生及び外国人留学生に関し必要な事項は、別に定める。

## 第12章 入学検定料及び学生納付金等

(入学検定料等)

**第67条** 入学検定料及び学生納付金等については、別表(3)に定める。

- 2 休学者、復学者、再入学者、編入学者、転学部者、転学科者、留学者、退学者、停学者及び留年者等の学生納付金については、別表(4)に定める。
- 3 長期履修学生の学生納付金については、長期履修学生規程に定める。

## 第13章 図書館

(図書館)

**第68条** 本学に図書館を置く。

- 2 図書館に関して必要な事項は、別に定める。

## 第14章 大学開放

(大学開放)

**第69条** 本学の教育研究活動とその成果を広く地域社会に公開し、生涯学習の機会を提供するために、大学の施設の開放等を行うとともに、公開講座等を開設する。

## 第15章 補則

(委任)

**第70条** この規則の施行に関し必要な事項は、理事長の承認を得て、学長が別に定める。

**附 則** (平成15年3月20日理事会承認)

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

**附 則** (平成15年12月5日理事会承認)

- 1 この規則の一部改正は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 第57条の2(長期履修学生)は、平成15年4月1日の編入学生から適用し、その施行細則は別に定める。
- 3 第36条(留学)は、平成15年度秋学期の留学生から適用し、その施行細則は別に定める。

**附 則** (平成16年3月26日理事会承認)

この規則の一部改正は、平成16年4月1日から施行する。

**附 則** (平成16年12月10日理事会承認)

この規則の一部改正は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**（平成 17 年 2 月 18 日理事会承認）

この規則の一部改正は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**（平成 17 年 3 月 25 日理事会承認）

この規則の一部改正は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**（平成 17 年 5 月 20 日理事会承認）

この規則の一部改正は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**（平成 17 年 12 月 9 日理事会承認）

この規則の一部改正は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**（平成 18 年 3 月 24 日理事会承認）

この規則の一部改正は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**（平成 18 年 5 月 19 日理事会承認）

1 この規則の一部改正は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

2 ただし、第 4 条第 2 項の入学定員 100 名は、平成 19 年 4 月 1 日から適用する。

	平成 18 年度まで	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
入学定員	135 名	100 名	100 名	100 名	100 名
3 年次編入	10 名	10 名	10 名	10 名	10 名
収容定員	560 名	525 名	490 名	455 名	420 名

**附 則**（平成 18 年 12 月 8 日理事会承認）

この規則の一部改正は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**（平成 19 年 3 月 30 日理事会承認）

この規則の一部改正は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**（平成 19 年 12 月 7 日理事会承認）

1 この規則の一部改正は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

2 ただし、第 1 章 第 4 条の学科名、及び、第 7 章 第 40、42 条の学科名及び学士名は下記表に従い、平成 20 年度における 1 年次新入学学生及び平成 22 年度の 3 年次編入学生より適用する。

入学年次	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度（1 年次入学生） 平成 22 年度（3 年次編入生）
学科名	文化心理学科	文化心理学科	文化心理学科	心理コミュニケーション学科
学士名	文化心理	文化心理	文化心理	人間学

**附 則**（平成 20 年 3 月 21 日理事会承認）

この規則の一部改正は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**（平成 20 年 10 月 31 日理事会承認）

1 この規則の一部改正は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

2 保健室及び学生相談室については、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**（平成 20 年 12 月 12 日理事会承認）

1 この規則の一部改正は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

2 第 4 条第 2 項の 3 年次編入定員の削減は、平成 21 年 4 月 1 日の編入学生から適用する。

	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
入学定員	100 名	100 名	100 名
3 年次編入	10 名	0 名	0 名
収容定員	490 名	445 名	400 名

**附 則**（平成 21 年 3 月 27 日理事会承認）

この規則の一部改正は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**（平成 21 年 6 月 26 日理事会承認）

この規則の一部改正は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**（平成 21 年 9 月 25 日理事会承認）

この規則の一部改正は、平成 21 年 10 月 1 日から施行する。

**附 則**（平成 22 年 3 月 26 日理事会承認）

この規則の一部改正は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**（平成 22 年 2 月 12 日理事会承認）

この規則の一部改正は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**（平成 23 年 2 月 18 日理事会承認）

この規則の一部改正は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**（平成 23 年 12 月 9 日理事会承認）

この規則の一部改正は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**（平成 24 年 1 月 27 日理事会承認）

（施行日）

**第 1 条** この規則の一部改正は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。ただし、別表（4）の一部改正は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

（経過措置）

**第 2 条** 第 30 条の規定は、平成 24 年 4 月 1 日以後の入学者から適用し、平成 24 年 3 月 31 日以前の入学者は、なお従前の例による。

**附 則**（平成 24 年 9 月 21 日理事会承認）

この規則の一部改正は、平成 24 年 8 月 1 日から適用する。

**附 則**（平成 25 年 3 月 22 日理事会承認）

この規則の一部改正は、平成 25 年 4 月 1 日から適用する。

**附 則**（平成 26 年 2 月 14 日理事会承認）

この規則の一部改正は、平成 26 年 4 月 1 日から適用する。

**附 則**（平成 26 年 5 月 23 日理事会承認）

この規則の一部改正は、平成 26 年 6 月 1 日から適用する。

**附 則**

この規則の一部改正は、平成 27 年 4 月 1 日から適用する。

**附 則**

この規則の一部改正は、平成 29 年 4 月 1 日から適用する。

平成 29 年度以降の収容定員は以下の通りとする。

	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
入学定員	80 名	80 名	80 名	80 名
収容定員	380 名	360 名	340 名	320 名

**附 則**

この規則の一部改正は、平成 30 年 4 月 1 日から適用する。

**附 則**

この規則の一部改正は、2019 年 4 月 1 日から施行する。

2019 年度以降の収容定員は以下のとおりとする。

	2019 年度 平成 31 年度	2020 年度 令和 2 年度	2021 年度 令和 3 年度	2022 年度 令和 4 年度
入学定員	156 名	156 名	156 名	156 名
収容定員	416 名	472 名	548 名	624 名

**附 則**

この規則の一部改正は、2021 年 4 月 1 日から施行する。

第 4 条の規定にかかわらず、2021 年度以降の収容定員は以下のとおりとする。

	2021 年度 令和 3 年度	2022 年度 令和 4 年度	2023 年度 令和 5 年度	2024 年度 令和 6 年度
入学定員	182 名	182 名	182 名	182 名
収容定員	568 名	664 名	684 名	704 名

**附 則**

この規則の一部改正は、2022 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**

この規則の一部改正は、2023 年 4 月 1 日から施行する。

## 附 則

この規則の一部改正は、2024年4月1日から施行する。

## 附 則

- 1 この規則の一部改正は、2025年4月1日から施行する。
- 2 清泉女学院大学から清泉大学に名称変更する。
- 3 文化学科の学生については、従前のおりとする。なお、文化学科は、2025年度学生募集を停止し、在籍する学生の卒業をもって廃止する。
- 4 第4条の規定にかかわらず、2025年度以降の学生定員は以下のとおりとする。

	2025年度 令和7年度	2026年度 令和8年度	2027年度 令和9年度	2028年度 令和10年度
入学定員	216名	216名	216名	216名
収容定員	744名	784名	824名	864名

学則別表(1) 教育課程表

共通教育課程(2025年度以後入学者)

区分	科目名	配当 年次	単位数		授業 形態	備考
			必修	選択		
建学の精神	人間学	1	2		講	
	キリスト教概論	1	2		講	
	清泉講座	1・2	2		講	
教養	聖書の物語	1・2		2	講	
	キリスト教とケア	1・2		2	講	
	キリスト教と世界の文化	1・2		2	講	
	キリスト教と現代	1・2		2	講	
	自己発見の方法	1・2		2	講	
	Critical Thinking	1・2		2	講	
	哲学概論	1・2		2	講	
	経済学入門	1・2		2	講	
	日本国憲法	1・2		2	講	
	ジェンダーと社会	1・2		2	講	
	いのちと社会	1・2		2	講	
	ビジネス思考法	1・2		2	講	
	歴史と文化	1・2		2	講	
	文化共生論	1・2		2	講	
	ワールド・スタディーズ	1・2		2	講	
	国際交流概論	1・2		2	講	
	心理学入門	1・2		2	講	
	身近な自然や技術と人類の未来	1・2		2	講	
	宇宙と生命の歴史	1・2		2	講	
	化学・生物基礎	1・2		2	講	
	生命の倫理	1・2		2	講	
	文学とメディア	1・2		2	講	
	文学入門	1・2		2	講	
	日本語表現	1・2		2	講	
データサイエンスとAI	1・2		2	講		
コンピュータサイエンス I	1・2		2	講		
ウェブデザイン	1・2		2	演		
データ処理論	1・2		2	演		
プログラミング I	1・2		2	演		
AI活用とデータエンジニアリング I	1・2		2	演		
外国語	英語基礎 I	1		2	演	
	English Communication I	1		2	演	
	English & World Cultures	1		2	演	
	中国語	1		2	演	
	ハンガール	1		2	演	
	スペイン語	1		2	演	
	諸外国語	1		2	演	
	英語基礎 II	1		2	演	
	English Communication II	1		2	演	
	実践中国語	1		2	演	
	実践ハンガール	1		2	演	
	実践スペイン語	1		2	演	
実践諸外国語	1		2	演		
学習基礎	基礎セミナー I	1	2		演	看護学部は選択
	基礎セミナー II	1	2		演	
	情報リテラシー I	1	2		演	
	情報リテラシー II	1	2		演	
学外活動 スポーツ	学外活動 I	1・2・3・4		2	実	
	学外活動 II	1・2・3・4		2	実	
	海外研修 I	1・2・3・4		2	実	
	海外研修 II	1・2・3・4		2	実	
	健康科学	1・2		2	演	
体育実技	1		1	実		
キャリア系	ファイナンシャル・プランニング	1・2		2	講	
	社会人マナー基礎	2・3		2	演	
	社会人マナー展開	2・3		2	演	
	現代社会の仕組み	1・2		2	講	
	キャリア・デベロップメント入門	1		2	演	
	キャリア・デベロップメント基礎	2		2	演	
	キャリア・デベロップメント展開	3	2	2	演	看護学部は選択
	キャリア・デベロップメント実践	4		2	演	
	インターンシップ	2・3		2	実	

共通教育課程(2023年度以後入学者)

区分	科目名	配当年次	単位数		授業形態	備考
			必修	選択		
建学の精神	人間学	1	2		講	
	キリスト教概論	1	2		講	
	清泉講座	1・2	2		講	
教養	聖書	1・2		2	講	
	キリスト教とケア	1・2		2	講	
	キリスト教と世界の文化	1・2		2	講	
	キリスト教と現代	1・2		2	講	
	自己発見の方法	1・2		2	講	
	Critical Thinking	1・2		2	講	
	女性とライフコース	1		2	講	
	現代社会とメディア	1		2	講	
	文学とメディア	1・2		2	講	
	文学入門	1		2	講	
	心理学入門	1		2	講	
	経済学入門	1		2	講	
	歴史学入門	1・2		2	講	
	日本国憲法	1・2		2	講	
	哲学概論	1・2		2	講	
	自然科学概論	1・2		2	講	
	女性と社会	1・2		2	講	
	生命の倫理	1・2		2	講	
	いのちの哲学	1・2		2	講	
	文化共生論	1		2	講	
ワールド・スタディーズ	1		2	講		
平和と国際関係	1・2		2	講		
データサイエンスとAI	1・2		2	講		
学習基礎	基礎セミナーⅠ	1	2		演	看護学部は選択
	基礎セミナーⅡ	1	2		演	
	情報処理Ⅰ	1	2		演	
	情報処理Ⅱ	1	2		演	
外国語	English CommunicationⅠ	1		2	演	
	English CommunicationⅡ	1		2	演	
	英語基礎Ⅰ	1		2	演	
	英語基礎Ⅱ	1		2	演	
	English & World Cultures	1		2	演	
	中国語	1		2	演	
	ハンブル	1		2	演	
	スペイン語	1		2	演	
	諸外国語	1		2	演	
	実践中国語	1		2	演	
	実践ハンブル	1		2	演	
	実践スペイン語	1		2	演	
実践諸外国語	1		2	演		
学外活動 スポーツ	学外活動Ⅰ	1・2・3・4		2	実	
	学外活動Ⅱ	1・2・3・4		2	実	
	海外研修Ⅰ	1・2・3・4		2	実	
	海外研修Ⅱ	1・2・3・4		2	実	
	健康科学 体育実技	1 1		2 1	演 実	
キャリア系科目 人間学部	日本語表現	1		2	演	
	日本語語彙	2		2	演	
	情報科学Ⅰ	1		2	講	
	情報科学Ⅱ	2		2	講	
	ウェブデザインⅠ	1		2	演	
	ウェブデザインⅡ	2		2	演	
	データ処理概論	2		2	演	
	FP対策講座	2		2	講	
	ビジネス実務	2・3		2	講	
	キャリアマナー	2・3		2	演	
	キャリアのための基礎教養Ⅰ(社会系)	2		2	講	
	キャリアのための基礎教養Ⅱ(理数系)	2		2	講	
	キャリア・デベロップメント入門	1		2	演	
	キャリア・デベロップメント基礎	2		2	演	
	キャリア・デベロップメント展開	3	2	2	演	
	キャリア・デベロップメント実践	4		2	演	
	インターンシップ	2・3		2	実	

共通教育課程（2022年度以前入学者）

区分	科目名	配当年次	単位数		授業形態	備考
			必修	選択		
建学の精神	人間学	1	2		講	
	キリスト教概論	1	2		講	
	清泉講座	1・2	2		講	
教養	現代人の心の問題	1	2		講	
	聖書	1・2	2		講	
	キリスト教とケア	1・2	2		講	
	キリスト教と世界の文化	1・2	2		講	
	キリスト教と現代	1・2	2		講	
	自己発見の方法	1・2	2		講	
	Critical Thinking	1・2	2		講	
	女性とライフコース	1	2		講	
	現代社会とメディア	1	2		講	
	文学とメディア	1・2	2		講	
	文学入門	1	2		講	
	心理学入門	1	2		講	
	経済学入門	1	2		講	
	歴史学入門	1・2	2		講	
	日本国憲法	1・2	2		講	
	哲学概論	1・2	2		講	
	自然科学概論	1・2	2		講	
	女性と社会	1・2	2		講	
	生命の倫理	1・2	2		講	
	いのちの哲学	1・2	2		講	
文化共生論	1	2		講	看護学部は必修	
ワールド・スタディーズ	1	2		講		
平和と国際協力	1・2	2		講		
国際関係論	1・3	2		講		
データサイエンスとAI	1・2	2		講	※2022年度入学者のみ履修可	
学習基礎	基礎セミナー	1	2		演	
	情報処理 I	1	2		演	
	情報処理 II	1	2		演	
外国語	English Communication I	1		2	演	
	English Communication II	1		2	演	
	英語基礎 I	1		2	演	
	英語基礎 II	1		2	演	
	English & World Cultures	1		2	演	
	中国語	1		2	演	
	ハングル	1		2	演	
	スペイン語	1		2	演	
	諸外国語	1		2	演	
	実践中国語	1		2	演	
	実践ハングル	1		2	演	
実践スペイン語	1		2	演		
実践諸外国語	1		2	演		
学外活動 スポーツ	学外活動 I	1・2・3・4		2	実	
	学外活動 II	1・2・3・4		2	実	
	海外研修 I	1・2・3・4		2	実	
	海外研修 II	1・2・3・4		2	実	
	健康科学	1		2	演	
	体育実技	1		1	実	
キャリア 学部 人間学 科目	日本語表現	1		2	演	
	日本語語彙	2		2	演	
	情報科学 I	1		2	講	
	情報科学 II	2		2	講	
	ウェブデザインI	1		2	演	
	ウェブデザインII	2		2	演	
	データ処理概論	2		2	演	
	FP対策講座	2		2	講	
	ビジネス実務	2・3		2	実	
	キャリアマナー	2・3		2	演	
	キャリアのための基礎教養 I (社会系)	2		2	講	
	キャリアのための基礎教養 II (理数系)	2		2	講	
	キャリア・デベロップメント入門	1		2	演	
	キャリア・デベロップメント基礎	2		2	演	
	キャリア・デベロップメント展開	3	2	2	演	
	キャリア・デベロップメント実践	4		2	演	
	インターンシップ	2・3		2	実	
学看護 部	看護プロフェッショナル I : 多職種連携と地域フィールドワーク	1	1		実	
	看護プロフェッショナル II : 看護とリーダーシップ	4	2		講	
	生と死の痛みのケアリングコロキウム	4	1		演	

専門教育課程(人間学部心理コミュニケーション学科)(心理コース)(2023年度以後入学者)

区分	科目名	配当 年次	単位数		授業 形態	備考
			必修	選択		
基礎 科目	心理学実践ワークショップ	1・2	2		演	
	心理学概論	1	2		講	
	心理学研究法	1		2	講	
	心理学実験I	1		2	演	
	心理学実験Ⅱ	2		2	演	
	心理データ解析I	2		2	演	
	心理データ解析Ⅱ	2		2	演	
	心理学統計法Ⅰ	1		2	演	
	心理学統計法Ⅱ	1		2	演	
	心理的アセスメントⅠ	3		2	演	
心理的アセスメントⅡ	3		2	演		
展 開 科 目	学習・言語心理学	1		2	講	
	神経・生理心理学	2		2	講	
	社会・集団・家族心理学Ⅰ(社会・集団心理学)	2		2	講	
	知覚・認知心理学	2		2	講	
	感情・人格心理学	2		2	講	
	発達心理学	2		2	講	
	教育・学校心理学	2		2	講	
	障害者・障害児心理学	3		2	講	
	臨床心理学概論	2		2	講	
	心理学的支援法Ⅰ	2		2	講	
	心理学的支援法Ⅱ	2		2	講	
	精神疾患とその治療	3		2	講	
	福祉心理学	3		2	講	
	心理学調査実習Ⅰ	3		2	演	
	心理学調査実習Ⅱ	3		2	演	
	質的研究法	2		2	講	
	健康・医療心理学	3		2	講	
	心理演習	3		2	演	
	カウンセリング実務演習	3		2	演	
	心理学文献講読	3・4		2	演	
	公認心理師の職責	3		2	講	
	心理実習Ⅰ	3		2	実	
	心理実習Ⅱ	4		2	実	
関係行政論	3		2	講		
人体の構造と機能及び疾病	2		2	講		
社会・集団・家族心理学Ⅱ(家族心理学)	3		2	講		
産業・組織心理学	3		2	講		
社会調査法	2		2	講		
司法・犯罪心理学	3		2	講		
道徳性心理学	3		2	講		

専門教育課程(人間学部心理コミュニケーション学科)(心理コース)(2022年度以前入学者)

区分	科目名	配当 年次	単位数		授業 形態	備考
			必修	選択		
基礎 科目	心理学実践ワークショップ	1・2	2		演	
	心理学概論	1	2		講	
	心理学研究法	1		2	講	
	心理学実験Ⅰ	1		2	演	
	心理学実験Ⅱ	2		2	演	
	心理データ解析Ⅰ	2		2	演	
	心理データ解析Ⅱ	2		2	演	
	心理学統計法Ⅰ	1		2	演	
	心理学統計法Ⅱ	1		2	演	
	行動観察調査法	2		2	演	
	心理的アセスメントⅠ	3		2	演	
	心理的アセスメントⅡ	3		2	演	
展 開 科 目	学習・言語心理学	1		2	講	
	神経・生理心理学	2		2	講	
	社会・集団・家族心理学Ⅰ(社会・集団心理学)	2		2	講	
	知覚・認知心理学	2		2	講	
	感情・人格心理学	2		2	講	
	発達心理学	2		2	講	
	教育・学校心理学	2		2	講	
	特別支援の心理学(障害者・障害児心理学)	3		2	講	
	臨床心理学概論	2		2	講	
	カウンセリング(心理学的支援法Ⅰ)	2		2	講	
	心理学的支援法Ⅱ	2		2	講	
	精神疾患とその治療	3		2	講	
	福祉心理学	3		2	講	
	心理学調査実習Ⅰ	3		2	演	
	心理学調査実習Ⅱ	3		2	演	
	質的研究法	2		2	講	
	健康・医療心理学	3		2	講	
	カウンセリング実務実習(心理演習)	3		2	実	
	心理学文献講読	3・4		2	演	
	公認心理師の職責	3		2	講	
	心理実習Ⅱ	3		2	実	
	関係行政論	3		2	講	
	人体の構造と機能及び疾病	2		2	講	
社会・集団・家族心理学Ⅱ(家族心理学)	3		2	講		
産業・組織心理学	3		2	講		
社会調査法	2		2	講		
司法・犯罪心理学	3		2	講		
道徳性心理学	3		2	講		

専門教育課程(人間学部心理コミュニケーション学科)(英語コミュニケーションコース)(2023年度以後入学者)

区分	科目名	配当 年次	単位数		授業 形態	備考
			必修	選択		
基礎 科目	異文化理解	1	2		講	
	Basic Reading I	1	2		演	
	世界の英語	1		2	講	
	Listening	1		2	演	
	Basic Reading II	1		2	演	
	実践英作文	1		2	演	
	教育原理	1		2	講	
	教育制度論	1		2	講	
展 開 科 目	英語音声学	1		2	講	
	第二言語習得論入門	1		2	講	
	英文法	2		2	講	
	Intermediate Reading I (Japanese Studies in English)	2		2	演	
	Intermediate Reading II (時事英語)	2		2	演	
	Advanced Reading I	3		2	演	
	Advanced Reading II	3		2	演	
	Writing I	2		2	演	
	Writing II	2		2	演	
	Advanced Writing	3		2	演	
	Presentation Skills	2		2	講	
	English Communication III	3		2	演	
	Discussion & Presentation	3		2	演	
	コミュニケーション論	2		2	講	
	多文化コミュニケーション	2		2	講	
	翻訳・通訳入門	2		2	講	
	比較文化論	3		2	講	
	英語基礎Ⅲ	2		2	演	
	英語文学Ⅰ	2		2	講	
	英語文学Ⅱ	3		2	講	
	英語文学Ⅲ	3		2	講	
	アジア学	3		2	講	
	アメリカ文化研究	3		2	講	
	English for International Exchange	1		2	演	
	ソーリズム演習	2		2	実	
	ソーリズム実習	2		2	実	
	Business English for TOEIC I	2		2	演	
	Business English for TOEIC II	2		2	演	
	TOEIC Preparation	3		2	演	
	英語科教育法Ⅰ	2		2	講	
	英語科教育法Ⅱ	2		2	講	
	英語科教育法Ⅲ	3		2	講	
	英語科教育法Ⅳ	3		2	講	
	教職論	2		2	講	
	教育実習演習	2		2	演	
	生徒・進路指導	2		2	講	
	教育方法論 (情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む。)	3		2	講	
	特別活動・総合的な学習の時間	2		2	講	
	特別支援教育概論	3		2	講	
	教育相談	2		2	講	
子どもと英語	2		2	講		
道徳教育の理論と方法	2		2	講		
教職実践演習(中・高)	4		2	演		
教育実習	4		5	実		

専門教育課程(人間学部心理コミュニケーション学科)(英語コミュニケーションコース)(2022年度以前入学者)

区分	科目名	配当 年次	単位数		授業 形態	備考
			必修	選択		
基礎 科目	異文化理解	1	2		講	
	Basic Reading I	1	2		演	
	世界の英語	1		2	講	
	Listening	1		2	演	
	実践英作文	1		2	演	
	教育原理	1		2	講	
	教育制度論	1		2	講	
展開 科目	英語音声学	1		2	講	
	Presentation Skills	2		2	演	
	English Communication III	3		2	演	
	Discussion & Presentation	3		2	演	
	Basic Reading II	1		2	演	
	Intermediate Reading I	2		2	演	
	Intermediate Reading II	2		2	演	
	Advanced Reading I	3		2	演	
	Advanced Reading II	3		2	演	
	Writing I	2		2	演	
	Writing II	2		2	演	
	Advanced Writing	3		2	演	
	英語基礎Ⅲ	2		2	演	
	英文法	2		2	講	
	英語文学Ⅰ	2		2	講	
	英語文学Ⅱ	3		2	講	
	英語文学Ⅲ	3		2	講	
	比較文化論	2		2	講	
	アジア学	3		2	講	
	アメリカ文化研究	3		2	講	
	English for International Exchange	1		2	演	
	ソーリズム演習	2		2	実	
	ソーリズム実習	2		2	実	
	Business English for TOEIC I	2		2	演	
	Business English for TOEIC II	2		2	演	
	TOEIC Preparation	3		2	演	
	英語科教育法Ⅰ	1		2	講	
	英語科教育法Ⅱ	2		2	講	
	英語科教育法Ⅲ	2		2	講	
	英語科教育法Ⅳ	3		2	講	
	教職論	2		2	講	
	教育実習演習	2		2	演	
	生徒・進路指導	2		2	講	
	教育方法論	3		2	講	
特別活動・総合的な学習の時間	2		2	講		
特別支援教育概論	3		2	講		
教育相談	2		2	講		
子どもと英語	2		2	講		
道德教育の理論と方法	2		2	講		
教職実践演習(中・高)	4		2	演		
教育実習	3		5	実		

専門教育課程(人間学部心理コミュニケーション学科)(コース共通専門科目)(2023年度以後入学者)

区分	科目名	配当年次	単位数		授業形態	備考
			必修	選択		
基礎演習	心理基礎演習Ⅰ	2		2	演	
	英語基礎演習Ⅰ	2		2	演	
	心理基礎演習Ⅱ	2		2	実	
	英語基礎演習Ⅱ	2		2	演	
専門演習・専門セミナー・卒業研究	専門演習ⅠA	3		2	演	
	専門演習ⅠB	3		2	演	
	専門演習ⅠC	3		2	演	
	専門演習ⅠD	3		2	演	
	専門演習ⅠE	3		2	演	
	専門演習ⅠF	3		2	演	
	専門演習ⅠG	3		2	演	
	専門演習ⅠH	3		2	演	
	専門演習ⅠI	3		2	演	
	専門演習ⅠJ	3		2	演	
	専門演習ⅠK	3		2	演	
	専門演習ⅠL	3		2	演	
	専門演習ⅠM	3		2	演	
	専門演習ⅠN	3		2	演	
	専門演習ⅠO	3		2	演	
	専門演習ⅠP	3		2	演	
	専門演習ⅠQ	3		2	演	
	専門演習ⅡA	3		2	演	
	専門演習ⅡB	3		2	演	
	専門演習ⅡC	3		2	演	
	専門演習ⅡD	3		2	演	
	専門演習ⅡE	3		2	演	
	専門演習ⅡF	3		2	演	
	専門演習ⅡG	3		2	演	
	専門演習ⅡH	3		2	演	
	専門演習ⅡI	3		2	演	
	専門演習ⅡJ	3		2	演	
	専門演習ⅡK	3		2	演	
	専門演習ⅡL	3		2	演	
	専門演習ⅡM	3		2	演	
	専門演習ⅡN	3		2	演	
	専門演習ⅡO	3		2	演	
	専門演習ⅡP	3		2	演	
	専門演習ⅡQ	3		2	演	
専門セミナー	4	2		演		
卒業研究・論文	4	8		演		



専門教育課程(人文社会科学部情報コミュニケーション学科)

区分	科目名	配当 年次	単位数		授業 形態	備考
			必修	選択		
専門 基礎 科目	コミュニケーション学	1	2		講	オムニバス
	情報とコミュニケーション	1	2		講	オムニバス
	異文化間コミュニケーション	2・3		2	講	
	国際観光コミュニケーション	2・3		2	講	
	現代家族とコミュニケーション	2・3		2	講	
	地域社会とコミュニケーション	2・3		2	講	
	色彩心理学	2・3		2	講	
	言語学概論	2・3		2	講	隔年
	ことばの科学	2・3		2	講	隔年
	世界の歴史と文化	2・3		2	講	隔年
	多文化共生論	2・3		2	講	
	英語文学	3・4		2	講	隔年
	世界の英語	3・4		2	講	隔年
	アメリカ地域研究	3・4		2	講	隔年
	ヨーロッパ地域研究	3・4		2	講	隔年
	国際文化観光研究	3・4		2	講	
	アジア地域研究	3・4		2	講	
専門 展 開 科 目	応用ハングルI	2・3		2	講	
	応用ハングルII	2・3		2	講	
	Basic Reading I	2・3		2	講	
	Basic Reading II	2・3		2	講	
	Writing I	2・3		2	講	
	Writing II	2・3		2	講	
	Business English for TOEIC I	2・3		2	講	
	Business English for TOEIC II	2・3		2	講	
	Presentation skills	3・4		2	講	
	通訳・翻訳入門	3・4		2	講	
	マーケティング	2・3		2	講	
	ビジネス調査法	2・3		2	講	
	ビジネス戦略論	2・3		2	講	
	ビジネス統計論	2・3		2	講	
	ビジネスイノベーション論	3・4		2	講	隔年
	デジタルマーケティング	3・4		2	講	隔年
	デジタル社会のトレンド技術	3・4		2	講	隔年
	デジタル社会と職業	3・4		2	講	隔年
	デジタル社会とデザイン技術	3・4		2	講	隔年
	デジタル社会と医療クラーク	1・2		4	講	
	コンピュータサイエンスII	2・3		2	講	
	デジタルデザイン	2・3		2	演	隔年
	プログラミングII	2・3		2	演	
	デジタルコンテンツ	3・4		2	演	隔年
	アプリケーション開発I	2・3		2	演	隔年
	アプリケーション開発II	3・4		2	演	隔年
	デジタルテクノロジー	3・4		2	演	隔年
AI活用とデータエンジニアリングII	3・4		2	演		
システム開発技術	3・4		2	講		
サイバーセキュリティとネットワーク	3・4		2	講		

区分	科目名	配当 年次	単位数		授業 形態	備考
			必修	選択		
専門 実践 科目	人文探求基礎(グローバル)	1・2		1	演	1後～2前 2後～3期
	人文探求基礎(ビジネス)	1・2		1	演	
	人文探求基礎(情報)	1・2		1	演	
	人文探求発展(グローバル)	1・2		2	演	
	人文探求発展(ビジネス)	1・2		2	演	
	人文探求発展(情報)	1・2		2	演	
	人文探求応用(グローバル)	3		3	演	
	人文探求応用(ビジネス)	3		3	演	
	人文探求応用(情報)	3		3	演	
	人文総合探求	4		4	演	
	人文探求活動	2・3		2	演	
	プロジェクトマネジメント	1～2		4	演	
	リーダーシップ実践	2～3		4	演	
	プロジェクト演習	2・3		2	演	
プロジェクト実践	3・4		2	演		
専門 研究 科目	文献研究法	3	2		演	
	専門セミナーⅠ	3	2		演	
	専門セミナーⅡ	3	2		演	
	専門セミナーⅢ	4	2		演	
	卒業研究	4	8		演	

専門教育課程(人文社会科学部 文化芸術学科)

区分	科目名	配当 年次	単位数		授業 形態	備考
			必修	選択		
専門基礎科目	文化芸術概論	1	2		講	オムニバス
	文化人類学概論	1	2		講	
	現代文化総論	1		2	講	
	伝統文化総論	1		2	講	
	異文化論	1		2	講	
	知的財産概論	1		2	講	
	比較文化論	2		2	講	
	身体表現論	2		2	演	
	地域づくり論	2		2	講	
専門展開科目	地域文化論	1		2	講	
	グローバル文化論	2		2	講	
	文化資源論	2		2	講	
	伝統文化論	2		2	演	
	カラーコーディネート	2		2	講	
	現代アート論	2		2	講	
	ワークショップデザイン論	2		2	演	
	映像芸術論	2		2	講	
	3Dモデリング	3		2	講	
	広告論	3		2	講	
	ポップカルチャー論	2		2	講	
	ユニバーサルデザイン論	2		2	演	
	アニメーション文化論	2		2	講	
	グラフィックデザイン演習	2		2	演	
	メディア制作演習	2		2	演	
専門実践科目	地域政策論	2		2	講	
	観光文化論	2		2	演	
	地域産業論	3		2	講	
	企業論	3		2	講	
	マーケティング論	2		2	講	
	アーツマネジメント論	2		2	講	
	デジタルアーカイブと文化施設	2		2	講	
	まちづくりとスポーツ	2		2	講	
専門実践科目	文化芸術実践Ⅰ(デザイン)	1	2		演	
	文化芸術実践Ⅱ(映像)	1	2		演	
	文化芸術実践Ⅲ(リーディング)	1	2		演	
	文化芸術実践Ⅳ(ロジカル・シンキング)	2	2		演	
	文化芸術実践Ⅴ(コンセプト)	2	2		演	
	文化芸術実践Ⅵ(プロジェクト)	3	2		演	
専門関連科目	生涯学習概論	1		2	講	
	博物館概論	1		2	講	
	博物館経営論	2		2	講	
	博物館資料論	2		2	講	
	博物館教育論	2		2	講	
	博物館資料保存論	3		2	講	
	博物館展示論	3		2	演	
	博物館情報・メディア論	3		2	演	
	博物館実習	3		3	実	
	図書館概論	1		2	講	
	図書館情報技術論	2		2	講	
	図書館制度・経営論	2		2	講	
	図書館サービス概論	1		2	講	
	情報サービス論	2		2	講	
	児童サービス論	2		2	講	
	情報サービス演習Ⅰ	3		1	演	
	情報サービス演習Ⅱ	3		1	演	
	図書館情報資源概論	1		2	講	
	情報資源組織論	2		2	講	
	情報資源組織演習Ⅰ	3		1	演	
	情報資源組織演習Ⅱ	3		1	演	
	図書・図書館史	2		1	講	
	図書館実習	3		1	実	

区分	科目名	配当年次	単位数		授業形態	備考
			必修	選択		
専門研究科目	文化芸術演習Ⅰ	2	2		演	
	文化芸術演習Ⅱ	2	2		演	
	文化芸術研究Ⅰ	3	2		演	
	文化芸術研究Ⅱ	3	2		演	
	文化芸術学研究法	3	2		演	
	文化芸術研究Ⅲ	4	2		演	
	卒業研究	4	8		演	

専門教育課程(看護学部看護学科)(2024年度以後入学者)

区分	科目名	配当 年次	単位数		授業形態	備考
			必修	選択		
専門 基礎 科目	看護学概論	1	1		講	
	看護理論:人と環境の相互作用	1	2		講	
	人体の構造と機能 I	1	2		講	
	人体の構造と機能 II	1	2		講	
	微生物・感染症学	1	1		講	
	栄養学 I	2	1		講	
	薬理学	2	2		講	
	病態生理と治療・薬理 I	1	2		講	
	病態生理と治療・薬理 II	2	2		講	
	病態生理と治療・薬理 III	2	1		講	
	病態生理と治療・薬理 IV	2	1		講	
	病態生理と治療・薬理 V	2	2		講	
	保健医療福祉行政論	1	2		講	
	公衆衛生学	2	2		講	
保健と看護統計学	2	2		講		
栄養学 II	2		1	講		
専門 基盤 科目	ケアリング論	2	1		講	
	臨床看護学総論	1	1		講	
	ヘルスアセスメント	1	1		演	
	日常生活援助論	1	1		演	
	健康回復援助論	2	1		演	
	対人関係論	1	1		講	
	シミュレーションスキルズラボ演習 I	2	1		演	
	シミュレーションスキルズラボ演習 II	3	1		演	
	医療安全の基礎	2	1		講	
	スタートアップ実習	1	1		実	
	基礎看護学実習 I	2	1		実	
	基礎看護学実習 II	2	2		実	
	看護倫理学	2	1		講	
	リハビリテーション看護	2		1	講	
専 門 実 践 科 目	成人看護学概論	1	1		講	
	成人看護学援助論 I (慢性期)	2	2		講	
	成人看護学援助論 II (急性期)	2	2		講	
	成人看護学演習 I (慢性期)	3	1		演	
	成人看護学演習 II (急性期)	3	1		演	
	成人看護学実習 I (慢性期)	3	2		実	
	成人看護学実習 II (急性期)	3	2		実	
	成人看護学実習 III (アドバンス)	4	1		実	
	老年看護学概論	1	1		講	
	老年看護学援助論	2	2		講	
	老年看護学演習	3	1		演	
	老年看護学実習 I (病院)	3	2		実	
	老年看護学実習 II (施設)	4	1		実	
	小児看護学概論	2	1		講	
	小児看護学援助論	2	2		講	
	小児看護学演習	3	1		演	
	小児看護学実習	3	2		実	
	ウイメンズヘルス看護学概論	2	1		講	
	ウイメンズヘルス看護学援助論	2	2		講	
	ウイメンズヘルス看護学演習	3	1		演	
ウイメンズヘルス看護学実習	3	2		実		

区分	科目名	配当年次	単位数		授業形態	備考
			必修	選択		
専門 総合科目	精神看護学概論	2	1		講	
	精神看護学援助論	2	2		講	
	精神看護学演習	3	1		演	
	精神看護学実習	3	2		実	
	地域・在宅看護学概論(健康相談活動論含む)	1	2		講	
	地域・在宅看護学援助論	2	2		講	
	地域・在宅看護学演習Ⅰ	2	1		演	
	地域・在宅看護学演習Ⅱ	3	1		演	
	地域・在宅看護学実習	3	2		実	
	学校保健	3		2	講	
	救急看護学	4		1	講	
	先端医療と遺伝看護学	4		1	講	
	研究Ⅰ:理論と方法	3	1		講	
	研究Ⅱ:看護研究	4	2		演	
	国際看護学概論	1	1		講	
	国際看護学演習	2		1	演	
	国際保健	3		1	講	
	国際看護学海外演習	4		2	演	
	災害看護学Ⅰ(基礎)	1	1		講	
	災害看護学Ⅱ(地域災害看護)	4		1	講	
	災害看護学演習Ⅰ(急性期)	2	1		演	
	災害看護学演習Ⅱ(中長期)	2		1	演	
	災害看護学実習	4	1		実	
	看護統合実習	4	2		実	
	養護概説	2		2	講	
	チーム医療と多職種連携論	2	1		講	
	こどもの発達と支援	2		1	演	
感染看護学	4	1		講		
家族看護学	4		1	講		
看護教育学	4		1	講		
看護とリーダーシップ	4		1	講		
教職 関連 科目	教育制度論	1		2	講	
	教育原理	1		2	講	
	教職論	1		2	講	
	教育・学校心理学	2		2	講	
	教育相談	2		2	講	
	道徳・特別活動・総合的な学習の時間	2		2	講	
	生徒指導	2		1	講	
	特別支援教育概論	3		2	講	
	教育方法論	3		2	講	
	(情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含	3		2	講	
	養護教育実習	4		5	実	
	教職実践演習(養護教諭)	4		2	演	

専門教育課程(看護学部看護学科)(2023年度入学者)

区分	科目名	配当 年次	単位数		授業 形態	備考
			必修	選択		
専門基礎科目	看護学概論	1	1		講	
	看護理論:人と環境の相互作用	1	2		講	
	人体の構造と機能 I	1	2		講	
	人体の構造と機能 II	1	2		講	
	微生物・感染症学	1	1		講	
	栄養学	2	1		講	
	薬理学	2	2		講	
	病態生理と治療・薬理 I	1	2		講	
	病態生理と治療・薬理 II	2	2		講	
	病態生理と治療・薬理 III	2	1		講	
	病態生理と治療・薬理 IV	2	1		講	
	病態生理と治療・薬理 V	2	2		講	
	保健医療福祉行政論	1	2		講	
	公衆衛生学	1	2		講	
保健と看護統計学	2	2		講		
専門基礎盤科目	ケアリング論	2	1		講	
	臨床看護学総論	1	1		講	
	ヘルスアセスメント	1	1		演	
	日常生活援助論	1	1		演	
	健康回復援助論	2	1		演	
	対人関係論	1	1		講	
	シミュレーションスキルズラボ演習 I	2	1		演	
	シミュレーションスキルズラボ演習 II	3	1		演	
	医療安全の基礎	2	1		講	
	スタートアップ実習	1	1		実	
	基礎看護学実習 I	2	1		実	
	基礎看護学実習 II	2	2		実	
看護倫理学	2	1		講		
専門実践科目	成人看護学概論	1	1		講	
	成人看護学援助論 I (慢性期)	2	2		講	
	成人看護学援助論 II (急性期)	2	2		講	
	成人看護学演習 I (慢性期)	3	1		演	
	成人看護学演習 II (急性期)	3	1		演	
	成人看護学実習 I (慢性期)	3	2		実	
	成人看護学実習 II (急性期)	3	2		実	
	成人看護学実習 III (アドバンス)	4	1		実	
	老年看護学概論	1	1		講	
	老年看護学援助論	2	2		講	
	老年看護学演習	3	1		演	
	老年看護学実習 I (病院)	3	2		実	
	老年看護学実習 II (施設)	4	1		実	
	小児看護学概論	2	1		講	
	小児看護学援助論	2	2		講	
	小児看護学演習	3	1		演	
	小児看護学実習	3	2		実	
	ウイメンズヘルス看護学概論	2	1		講	
	ウイメンズヘルス看護学援助論	2	2		講	
	ウイメンズヘルス看護学演習	3	1		演	
ウイメンズヘルス看護学実習	3	2		実		

区分	科目名	配当 年次	単位数		授業 形態	備考
			必修	選択		
専門 総合 科目	精神看護学概論	2	1		講	
	精神看護学援助論	2	2		講	
	精神看護学演習	3	1		演	
	精神看護学実習	3	2		実	
	地域・在宅看護学概論 (健康相談活動論含む)	1	2		講	
	地域・在宅看護学援助論	2	2		講	
	地域・在宅看護学演習Ⅰ	2	1		演	
	地域・在宅看護学演習Ⅱ	3	1		演	
	地域・在宅看護学実習	3	2		実	
	学校保健	3		2	講	
	救急看護学	4		1	講	
	先端医療と遺伝看護学	4		1	講	
	研究Ⅰ：理論と方法	3	1		演	
	研究Ⅱ：看護研究	4	2		演	
	国際看護学概論	1	1		講	
	国際看護学演習	2		1	演	
	国際保健	3		1	講	
	国際看護学海外演習	4		2	演	
	災害看護学Ⅰ(基礎)	1	1		講	
	災害看護学Ⅱ(地域災害看護)	4		1	講	
	災害看護学演習Ⅰ(急性期)	2	1		演	
	災害看護学演習Ⅱ(中長期)	2		1	演	
	災害看護学実習	4	1		実	
	看護統合実習	4	2		実	
	養護概説	2		2	講	
	チーム医療と多職種連携論	2	1		講	
	リハビリテーション看護	2		1	講	
	こどもの発達と支援	2		1	演	
	感染看護学	4	1		講	
	家族看護学	4		1	講	
看護教育学	4		1	講		
看護とリーダーシップ	4		1	講		
教職 関連 科目	教育制度論	1		2	講	
	教育原理	1		2	講	
	教職論	1		2	講	
	教育・学校心理学	2		2	講	
	教育相談	2		2	講	
	道徳・特別活動・総合的な学習の時間	2		2	講	
	生徒指導	2		1	講	
	特別支援教育概論	3		2	講	
	教育方法論 (情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含	3		2	講	
	養護教育実習	4		5	実	
	教職実践演習(養護教諭)	4		2	演	

専門教育課程(看護学部看護学科)(2022年度以前入学者)

区分	科目名	配当年次	単位数		授業形態	備考
			必修	選択		
専門基礎科目	看護学概論	1	1		講	
	看護理論:人と環境の相互作用	1	2		講	
	人体の構造と機能Ⅰ	1	2		講	
	人体の構造と機能Ⅱ	1	2		講	
	微生物・感染症学	1	1		講	
	栄養学	3	2		講	
	薬理学の基礎	1	2		講	
	病態生理と治療・薬理Ⅰ	2	2		講	
	病態生理と治療・薬理Ⅱ	2	2		講	
	病態生理と治療・薬理Ⅲ	2	2		講	
	精神病理と治療・薬理	2	1		講	
	保健医療福祉論(医療行政含む)	2	2		講	
	公衆衛生学	3	2		講	
	保健と看護統計学	2	2		講	
	生涯発達論	2	1		講	
対人関係論:心の知能指数EQ	1		1	講		
看護専門英語	2		2	講		
専門基礎科目	ケアリング論	2	1		講	
	健康・疾病の概念基盤ラーニング演習	3	1		演	
	ケア方法論Ⅰ:ヘルスアセスメント	2	1		演	
	ケア方法論Ⅱ:ヘルスケアスキル	2	1		演	
	ケア方法論Ⅲ:コミュニケーションスキル	2	1		演	
	ケア方法論Ⅳ:健康回復援助(診療の補助含む)	2	1		演	
	シミュレーションスキルズラボ演習Ⅰ	2	1		演	
	シミュレーションスキルズラボ演習Ⅱ	3	1		演	
	看護管理と医療安全の基礎	2	1		講	
	基盤基礎看護学実習Ⅰ	2	1		実	
	基盤基礎看護学実習Ⅱ	2	2		実	
	看護倫理学	2	2		講	
	家族看護学	4	1		講	
専門実践科目	基盤成人期看護学概論	1	1		講	
	基盤成人期看護学演習Ⅰ	2	2		演	
	基盤成人期看護学演習Ⅱ	3	2		演	
	基盤成人期急性看護学実習	3	2		実	
	基盤成人期慢性看護学実習	3	2		実	
	成人期アドバンス看護学統合実習	4	3		実	
	基盤老年期看護学概論	1	2		講	
	基盤老年期看護学演習Ⅰ	2	1		演	
	基盤老年期看護学演習Ⅱ	3	1		演	
	基盤老年期看護学実習	3	2		実	
	老年期アドバンス看護学統合実習	4	2		実	
	小児期看護学概論	2	1		講	
	小児期看護学演習Ⅰ	2	1		演	
	小児期看護学演習Ⅱ	3	2		演	
	小児期看護学実習	3	2		実	
	ウイメンズヘルス看護学概論	2	1		講	
	ウイメンズヘルス看護学演習Ⅰ	2	1		演	
	ウイメンズヘルス看護学演習Ⅱ	3	2		演	
ウイメンズヘルス看護学実習	3	2		実		
専門総合科目	精神看護学概論	2	2		講	
	精神看護学演習	3	2		演	
	精神看護学実習	3	2		実	
	在宅看護学概論	2	2		講	
	在宅看護学援助演習Ⅰ	2	1		演	
	在宅看護学援助演習Ⅱ	3	1		演	
	在宅看護学実習	3	2		実	
	地域看護学概論(健康相談活動論含む)	2	2		講	
	学校保健	3		2	講	
	救急看護学	4	1		講	
	先端医療と遺伝看護学	4	1		講	
	研究Ⅰ:理論と方法	3	1		演	

区分	科目名	配当 年次	単位数		授業 形態	備考
			必修	選択		
専門 総合 科目	研究Ⅱ：看護研究	4	2		演	
	総合ゼミナール	4	1		演	
	国際看護学概論	1	1		講	
	国際看護学演習	2		1	演	
	国際保健	3		1	講	
	国際・看護海外演習(米国・アジア)	4		2	演	
	災害看護学Ⅰ	1	1		講	
	災害看護学Ⅱ	4		1	講	
	災害看護学演習Ⅰ：災害急性期支援活動	2	1		演	
	災害看護学演習Ⅱ：災害中長期支援活動	2	1		演	
	災害看護学演習Ⅲ：防災・被災対策活動	3	1		演	
	養護概説	3		2	講	
教職 関連 科目	教育原理	1		2	講	
	教職論	1		2	講	
	教育制度論	1		2	講	
	教育・学校心理学	2		2	講	
	特別支援教育概論	3		2	講	
	教育方法論	3		2	講	
	教育相談	2		2	講	
	道徳・特別活動・総合的な学習の時間	2		2	講	
	生徒指導	2		1	講	
	養護教育実習	4		5	実	
	教職実践演習(養護教諭)	4		2	演	

助産学専攻科

区分	科目名	配当 年次	単位数		授業 形態	備考
			必修	選択		
基礎 領域	基礎助産論Ⅰ	1	1		講	
	基礎助産論Ⅱ	1	1		講	
	基礎助産論Ⅲ	1	1		講	
	基礎助産論演習	1	2		演	
	女性と健康づくり	1	1		演	
実践 領域	女性の体の生理学	1	1		講	
	周産期医学（病態・薬理・ハイリスク妊産褥婦）	1	1		演	
	周産期医学（正常新生児・ハイリスク新生児）	1	1		演	
	フィジカルアセスメント	1	1		講	
	実践助産学（講義・助産過程）	1	2		演	
	実践助産学演習（分娩介助）	1	2		演	
	実践助産学演習（シミュレーション）	1	2		演	
	早期臨床体験実習	1	1		実	
	助産学実習Ⅰ（継続事例）	1	1		実	
	助産学実習Ⅱ（分娩期）	1	9		実	
	助産学実習Ⅲ（産褥期・新生児期）	1	1		実	
	助産学実習Ⅳ（周産期ハイリスク）	1	1		実	
助産学実習Ⅴ（助産管理）	1	1		実		
統 合 領 域	地域母子保健論	1	2		講	
	助産管理学	1	2		講	
	助産学研究	1	1		演	

学則別表(2) 卒業要件単位表(学部)

人間学部

心理コミュニケーション学科

共通教育科目	必修	選択	合計
	16単位	22単位以上	38単位以上
専門教育科目	必修	選択	合計
	14単位	48単位以上	62単位以上
卒業要件単位数	必修	選択	合計
	30単位	94単位以上	124単位以上

人文社会科学部

情報コミュニケーション学科

共通教育科目	必修	選択	合計
	16単位	22単位以上	38単位以上
専門教育科目	必修	選択	合計
	20単位	44単位以上	64単位以上
卒業要件単位数	必修	選択	合計
	36単位	88単位以上	124単位以上

文化芸術学科

共通教育科目	必修	選択	合計
	16単位	22単位以上	38単位以上
専門教育科目	必修	選択	合計
	36単位	26単位以上	62単位以上
卒業要件単位数	必修	選択	合計
	52単位	72単位以上	124単位以上

看護学部

看護学科 (2023年度以後入学者)

共通教育科目	必修	選択	合計
	12単位	10単位以上	22単位以上
専門教育科目	必修	選択	合計
	95単位	7単位以上	102単位以上
卒業要件単位数	必修	選択	合計
	107単位	17単位以上	124単位以上

看護学科 (2022年度以前入学者)

共通教育科目	必修	選択	合計
	20単位	10単位以上	30単位以上
専門教育科目	必修	選択	合計
	98単位	—	98単位以上
卒業要件単位数	必修	選択	合計
	118単位	10単位以上	128単位以上

## 別表（３）入学検定料等

### 1 入学検定料（学部・専攻科）

項 目	金 額
学部（一般選抜〔共通テスト利用方式〕以外）	30,000円
学部（一般選抜〔共通テスト利用方式〕）	10,000円
専攻科	30,000円

### 2 学生納付金

#### (1) 人間学部

項 目	2023年度以前の入学生		2024年度以後の入学生	
	金 額		金 額	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
入学金	280,000円	—	250,000円	—
授業料	355,000円	355,000円	355,000円	355,000円
施設設備費	110,000円	110,000円	135,000円	135,000円
実験実習費	20,000円	20,000円	20,000円	20,000円
合 計	765,000円	485,000円	760,000円	510,000円

#### (2) 人文社会科学部

項 目	金 額	
	春学期	秋学期
入学金	250,000円	—
授業料	355,000円	355,000円
施設設備費	135,000円	135,000円
実験実習費	45,000円	45,000円
合 計	785,000円	535,000円

#### (3) 看護学部

項 目	2023年度以前の入学生		2024年度以後の入学生	
	金 額		金 額	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
入学金	350,000円	—	320,000円	—
授業料	450,000円	450,000円	450,000円	450,000円
施設設備費	250,000円	250,000円	275,000円	275,000円
実験実習費	50,000円	50,000円	50,000円	50,000円
合 計	1,100,000円	750,000円	1,095,000円	775,000円

(4) 人間学専攻科

項目	金額	
	春学期	秋学期
入学金	120,000円	—
授業料	174,000円	174,000円
施設設備費	54,000円	54,000円
実験実習費	12,000円	12,000円
合計	360,000円	240,000円

(5) 助産学専攻科

項目	2023年度以前の入学生		2024年度以後の入学生	
	金額		金額	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
入学金	200,000円	—	200,000円	
授業料	400,000円	400,000円	400,000円	400,000円
施設設備費	100,000円	100,000円	120,000円	120,000円
実験実習費	150,000円	150,000円	150,000円	150,000円
合計	850,000円	650,000円	870,000円	670,000円

(注1) 学生納付金は、出席の有無にかかわらず年額の2分の1をそれぞれ春学期は4月30日、秋学期は10月31日までの間に納入しなければならない。

(注2) 前号に定める期日までに経済的事由等で学生納付金を納入できないときは、その旨を所定の用紙を提出することにより、納付期日を延長できる場合がある。

(注3) いったん納入した学生納付金は、いかなる理由があっても返還しない。

(注4) 学生納付金未納の者は、単位認定をすることができない。

3 科目等履修生、聴講生、特別聴講生納付金

項目	金額
検定料	10,000円
登録料	10,000円
履修料又は聴講料(1単位)	10,000円

(注1) 他の大学又は短期大学との単位互換協定等、学長が認めた制度に基づき登録された特別聴講生の学生納付金については、学生納付金の全額又はその一部を免除することができる。

(注2) 登録料は、聴講生には課せられない。

4 研究生、研修員納付金

項 目	金 額
検定料	10,000 円
登録料	10,000 円
研究・研修料（1 学期）	60,000 円

5 転学部検定料

項 目	金 額
検定料	10,000 円

6 転学科検定料

項 目	金 額
検定料	10,000 円

別表（４）休学者等の学生納付金

項 目	取り扱い細則
1. 休学者	休学願を提出のうえ許可された場合は、次の期日までに休学在籍料 80,000 円を納付するものとし、休学期間の授業料、施設設備費、実験実習費の納付は免除する。 (1) 春学期または 1 年間休学する場合：5 月 31 日 (2) 秋学期休学する場合：10 月 31 日
2. 復学者	学期の途中で復学した者は、復学した春学期又は秋学期の納付金を 30 日以内に納入しなければならない。
3. 再入学者	入学金のみ、規定の 2 分の 1 の額とし、授業料、施設整備費及び実験実習費は規定どおりとする。
4. 社会人入学者	社会人入試制度による入学者は、入学金のみ規定の 2 分の 1 の額とし、授業料、施設設備費及び実験実習費は規定どおりとする。
5. 編入学者	入学金、授業料、施設整備費及び実験実習費は、規定どおりとする。ただし、次の場合は、入学金を減免する。 (1) 清泉保育女子専門学校、清泉女学院短期大学及び清泉大学短期大学部からの編入学者：免除 (2) 社会人入試制度（長期履修学生を含む。）による編入学者：2 分の 1 に減額
6. 転学部者	転学部した者の学生納付金は、転入した学部の額とする。
7. 転学科者	転学科した者の学生納付金は、転入した学科の額とする。
8. 留学者	(1) 留学を許可されたものは、留学期間中も学生納付金を納付しなければならない。ただし、留学期間に応じて、次のとおり減額する。 ① 春学期、秋学期を通じての留学生：学生納付金年額の 2 分の 1 ② 春学期又は秋学期のみの留学生：学生納付金年額の 4 分の 1 (2) 留学期間の延長が認められた場合も、前項と同様とする
9. 退学者及び除籍者	退学又は除籍された者の当該期分の学生納付金は、返還しない。
10. 停学者	停学期間中の学生納付金について、減免等特別な措置は行わない。

項 目	取 扱 い 細 則
11. 留年者	<p>(1) 卒業に要する単位が、春、秋学期それぞれ10単位以上の者  人間学部 ・ 授業料：半期355,000円  人文社会科学部 ・ 授業料：半期355,000円  看護学部 ・ 授業料：半期450,000円  助産学専攻科 ・ 授業料：半期400,000円</p> <p>(2) 卒業に要する単位が、春、秋学期それぞれ10単位未満の者  ・ 在 籍 料：130,000円  ・ 単位登録料：1単位につき20,000円</p> <p>【留意事項】</p> <p>(1) 留年者とは、1年次入学者は修業年限の4年を、また3年次編入学者は2年を超えて在学する学生をいう。なお、看護学部においては、進級要件を充足できない者は、当該年次に留年となる。</p> <p>(2) 卒業に要する履修科目の都合等で、秋学期のみの在籍であっても春学期の在籍料として13万円納入しなければならない。</p> <p>(3) 施設設備費及び実験実習費は免除する。</p> <p>(4) 1年を通して履修する科目の単位については、春学期に算入する。</p> <p>(5) 留年期間中に、卒業に要する履修科目以外の履修については、単位登録料は課さない。</p>
12. 専攻科入学者	<p>清泉女学院大学及び清泉大学を卒業した者の入学金は、規定の2分の1の額とする。</p>
13. 外国人留学生	<p>海外姉妹校・提携校からの留学生については、入学金を免除し、授業料、施設設備費及び実験実習費を規定の2分の1の額とする。</p>
14. 同窓生子女入学者	<p>同窓生（清泉女学院大学、清泉大学、清泉女学院短期大学、清泉大学短期大学部及び清泉保育女子専門学校卒業生）の子女については、入学金のみ規定の2分の1の額とし、授業料、施設設備費及び実験実習費は規定どおりとする。</p>
15. 兄弟姉妹入学者	<p>同窓生又は清泉女学院大学、清泉大学、清泉女学院短期大学及び清泉大学短期大学部の在学生の兄弟姉妹及び同時入学の兄弟姉妹のうちの1名については、入学金のみ規定の2分の1の額とし、授業料、施設設備費及び実験実習費は規定どおりとする。</p>

(注1) 学部及び専攻科の長期履修学生の学生納付金については、長期履修学生規程に定める。

(注2) 姉妹校留学等の協定に基づく国内留学生の学生納付金については、当該協定書及び関連規程に定める。

## (2) 変更事項を記載した書類

### 1. 変更の事由

令和7年(2025年)4月、共学化に伴い大学名称を清泉女学院大学から清泉大学に変更する。既設の人間学部と看護学部に加え、人文社会科学部を新設し、情報コミュニケーション学科、文化芸術学科を置く。また、同時に人間学部文化学科を募集停止する。

以上に伴い学則の一部を変更する。

#### 1) 新設する学部・学科

人文社会科学部	情報コミュニケーション学科	入学定員 40 名	収容定員 160 名
	文化芸術学科	入学定員 32 名	収容定員 128 名

#### 2) 募集停止する学科

人間学部	文化学科	入学定員 32 名	収容定員 128 名
------	------	-----------	------------

### 2. 変更点

#### 1) 本則と附則

##### ① 学部、学科及び学生定員(第4条)

人文社会科学部の2学科の学科名称、入学定員、収容定員の記載を加える。また、募集停止する人間学部文化学科の記載を削る。  
各学部、各学科の教育研究上の目的を記載する。

##### ② 学位(第41条)

人文社会科学部の2学科の学位の記載を加える。また、募集停止する人間学部文化学科の学位の記載を削る。

##### ③ 附則

施行日を明確にし、完成年度までの移行措置を記載する。

#### 2) 別表(1) 教育課程表

新学部設置に伴い、共通教育課程を改正するとともに、人文社会科学部の2学科の専門教育課程を加える。また、募集停止する人間学部文化学科の専門教育課程を削る。

#### 3) 別表(2) 卒業要件単位表

人文社会科学部の2学科の卒業要件単位表を加える。また、募集停止する人間学部文化学科の卒業要件単位表を削る。

#### 4) 別表(3) 入学検定料等

人文社会科学部の学生納付金表を加える。

#### 5) 別表(4) 休学者等の学生納付金

留年者の項目において、人文社会科学部の授業料の記載を加える。  
編入学者、同窓子女入学者など本学卒業生を対象として規定する項目において、新大学名の記載を加える。

### 3. 変更部分の新旧対照表

- 別紙1 本則と附則
- 別紙2 別表(1) 教育課程表
- 別紙3 別表(2) 卒業要件単位表
- 別紙4 別表(3) 入学検定料等
- 別紙5 別表(4) 休学者等の学生納付金

以上

### (3) 変更部分の新旧対照表

新旧対照表 本則と附則

新 (案)	旧 (現行)																																										
<p>清泉大学 学則</p> <p>(学部、学科及び学生定員)</p> <p><b>第4条</b> 本学に置く学部、学科及び学生定員は、次のとおりとする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">学部</th> <th style="width: 35%;">学科</th> <th style="width: 15%;">入学定員</th> <th style="width: 35%;">収容定員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人間学部</td> <td>心理コミュニケーション学科</td> <td style="text-align: center;">68名</td> <td style="text-align: center;">272名</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">人文社会科学学部</td> <td>情報コミュニケーション学科</td> <td style="text-align: center;">40名</td> <td style="text-align: center;">160名</td> </tr> <tr> <td>文化芸術学科</td> <td style="text-align: center;">32名</td> <td style="text-align: center;">128名</td> </tr> <tr> <td>看護学部</td> <td>看護学科</td> <td style="text-align: center;">76名</td> <td style="text-align: center;">304名</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">合計</td> <td style="text-align: center;">216名</td> <td style="text-align: center;">864名</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 本学の学部、学科の教育研究上の目的は、次のとおりとする。</p> <p><b>人間学部</b></p> <p>人間学部は、本学の目的、使命を果たすために、本学の建学の精神である「キリスト教（カトリック）ヒューマニズム」に基づき、教養を重視した全人教育を通じて、幅広い教養と人間学領域の学知・技能を教授し、コミュニティとともに生き、常に自らを高め、共生のころをもつて、他者のために考え、行動し、地域と世界に貢献できる情操豊かな人人を育成することを目的とする。</p> <p><b>心理コミュニケーション学科</b></p> <p>心理コミュニケーション学科は、コミュニケーションを共通項に、心の働きを理解し、コミュニケーションを通じた共生関係を積極的に形成し、地域や社会での諸問題を解決する能力を有する人材を育成することを目的とする。</p> <p><b>人文社会科学部</b></p> <p>人文社会科学部は、本学の目的、使命を果たすために、本学の建学の精神である「キリスト教（カトリック）ヒューマニズム」に基づき、教養を重視した全人教育と、未来予測が困難な現代社会に必要となる学際的な学びや社会科学に関する学びを人文科学領域の学知・技能と結び付けることで、課題解決に挑み、社会と地域に貢献できる人人を育成することを目的とする。</p> <p><b>情報コミュニケーション学科</b></p> <p>情報コミュニケーション学科は、高度情報社会のなかで必要となるコミュニケーションスキルを有し、人文科学を基盤としてビジネス、グローバル、デジタルに関する知識を関連させながら学際的・総合的に学び、情報・データの活用と他者とのコミュニケーションを通じて課題解決に貢献できる人材を育成することを目的とする。</p> <p><b>文化芸術学科</b></p> <p>文化芸術学科は、文化芸術に関する諸学の幅広く学際的な知識と自らが帰属する社会、地域、共同体の多様性・多元性の正しい理解に基づき、行動力をもって文化の諸活動を主体的に行い、文化の創造に貢献し、文化の学びを課題解決につなげられる人材を育成することを目的とする。</p>	学部	学科	入学定員	収容定員	人間学部	心理コミュニケーション学科	68名	272名	人文社会科学学部	情報コミュニケーション学科	40名	160名	文化芸術学科	32名	128名	看護学部	看護学科	76名	304名	合計		216名	864名	<p>清泉女学院大学 学則</p> <p>(学部、学科及び学生定員)</p> <p><b>第4条</b> 本学に、人間学部と看護学部を置く。</p> <p>2 前項の学部<del>に置く</del>学科及び学生定員は次のとおりとする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">学部</th> <th style="width: 35%;">学科</th> <th style="width: 15%;">入学定員</th> <th style="width: 35%;">収容定員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">人間学部</td> <td>心理コミュニケーション学科</td> <td style="text-align: center;">68名</td> <td style="text-align: center;">272名</td> </tr> <tr> <td>文化学科</td> <td style="text-align: center;">32名</td> <td style="text-align: center;">128名</td> </tr> <tr> <td>看護学部</td> <td>看護学科</td> <td style="text-align: center;">76名</td> <td style="text-align: center;">304名</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">合計</td> <td style="text-align: center;">176名</td> <td style="text-align: center;">704名</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 人間学部は、本学の目的、使命を果たすために、本学の建学の精神である「キリスト教（カトリック）ヒューマニズム」に基づき、教養を重視した全人教育を通じて、幅広い教養と人間学領域の学知・技能を教授し、コミュニティとともに生き、常に自らを高め、共生のころをもつて、他者のために考え、行動し、地域と世界に貢献できる情操豊かな人人を育成することを目的とする。</p> <p style="text-align: right;">〈新規〉</p>	学部	学科	入学定員	収容定員	人間学部	心理コミュニケーション学科	68名	272名	文化学科	32名	128名	看護学部	看護学科	76名	304名	合計		176名	704名
学部	学科	入学定員	収容定員																																								
人間学部	心理コミュニケーション学科	68名	272名																																								
人文社会科学学部	情報コミュニケーション学科	40名	160名																																								
	文化芸術学科	32名	128名																																								
看護学部	看護学科	76名	304名																																								
合計		216名	864名																																								
学部	学科	入学定員	収容定員																																								
人間学部	心理コミュニケーション学科	68名	272名																																								
	文化学科	32名	128名																																								
看護学部	看護学科	76名	304名																																								
合計		176名	704名																																								

新 (案)	旧 (現行)																																								
<p><b>看護学部</b> 看護学部看護学科は、本学の目的、使命を果たすために、本学建学の精神である「キリスト教 (カトリック) ヒューマニズム」に基づき、教養を重視した全人教育と看護学領域の専門職教育を統合し、地域社会の保健医療・看護におけるケアの質と安全を考究する体系的・継続的教育により、豊かな教養と適切な判断力・適応力・倫理観を培った看護実践力を修め、学びの文化、ケアの文化、共生の文化の創生をとおり、社会に貢献できる人人を育成することを目的とする。</p> <p>(学位) <b>第41条</b> 本学を卒業した者に、学位を授与する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学部</th> <th>学科</th> <th>学位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人間学部</td> <td>心理コミュニケーション学科</td> <td>学士(人間学)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">人文社会科学学部</td> <td>情報コミュニケーション学科</td> <td>学士(人文社会科学)</td> </tr> <tr> <td>文化芸術学科</td> <td>学士(人文社会科学)</td> </tr> <tr> <td>看護学部</td> <td>看護学科</td> <td>学士(看護学)</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;"><b>附 則</b></p> <p>1 この規則の一部改正は、2025年4月1日から施行する。  2 清泉女学院大学から清泉大学に名称変更する。  3 文化学科の学生については、従前のおりとする。なお、文化学科は、2025年度学生募集を停止し、在籍する学生の卒業をもって廃止する。  4 第4条の規定にかかわらず、2025年度以降の学生定員は以下のとおりとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2025年度 令和7年度</th> <th>2026年度 令和8年度</th> <th>2027年度 令和9年度</th> <th>2028年度 令和10年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入学定員</td> <td>216名</td> <td>216名</td> <td>216名</td> <td>216名</td> </tr> <tr> <td>収容定員</td> <td>744名</td> <td>784名</td> <td>824名</td> <td>864名</td> </tr> </tbody> </table>	学部	学科	学位	人間学部	心理コミュニケーション学科	学士(人間学)	人文社会科学学部	情報コミュニケーション学科	学士(人文社会科学)	文化芸術学科	学士(人文社会科学)	看護学部	看護学科	学士(看護学)		2025年度 令和7年度	2026年度 令和8年度	2027年度 令和9年度	2028年度 令和10年度	入学定員	216名	216名	216名	216名	収容定員	744名	784名	824名	864名	<p>4 <u>看護学部は</u>、本学の目的、使命を果たすために、本学建学の精神である「キリスト教 (カトリック) ヒューマニズム」に基づき、教養を重視した全人教育と看護学領域の専門職教育を統合し、地域社会の保健医療・看護におけるケアの質と安全を考究する体系的・継続的教育により、豊かな教養と適切な判断力・適応力・倫理観を培った看護実践力を修め、学びの文化、ケアの文化、共生の文化の創生をとおり、社会に貢献できる人人を育成することを目的とする。</p> <p>(学位) <b>第41条</b> 本学を卒業した者に、学位を授与する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学部</th> <th>学科</th> <th>学位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">人間学部</td> <td>心理コミュニケーション学科</td> <td>学士(人間学)</td> </tr> <tr> <td>文化学科</td> <td>学士(人間学)</td> </tr> <tr> <td>看護学部</td> <td>看護学科</td> <td>学士(看護学)</td> </tr> </tbody> </table>	学部	学科	学位	人間学部	心理コミュニケーション学科	学士(人間学)	文化学科	学士(人間学)	看護学部	看護学科	学士(看護学)
学部	学科	学位																																							
人間学部	心理コミュニケーション学科	学士(人間学)																																							
人文社会科学学部	情報コミュニケーション学科	学士(人文社会科学)																																							
	文化芸術学科	学士(人文社会科学)																																							
看護学部	看護学科	学士(看護学)																																							
	2025年度 令和7年度	2026年度 令和8年度	2027年度 令和9年度	2028年度 令和10年度																																					
入学定員	216名	216名	216名	216名																																					
収容定員	744名	784名	824名	864名																																					
学部	学科	学位																																							
人間学部	心理コミュニケーション学科	学士(人間学)																																							
	文化学科	学士(人間学)																																							
看護学部	看護学科	学士(看護学)																																							

## 学則の変更の趣旨等を記載した書類

### 目次

ア 学則変更（収容定員変更）の内容 .....	2
イ 学則変更（収容定員変更）の必要性 .....	2
ウ 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容.....	5
（ア）教育課程の変更内容 .....	5
（イ）教育方法，履修指導方法の変更内容 .....	11
（ウ）教員組織の変更内容 .....	12
（エ）大学全体の施設・設備の変更内容 .....	13

## ア 学則変更（収容定員変更）の内容

清泉女学院大学は令和 7(2025)年 4 月に新学部として人文社会科学部を設置する。また、同時に人間学部文化学科の学生募集を停止し、以下の変更も行う。

- ①全学部にて男女共学化
- ②①に伴い大学名称変更

以上のことから、清泉女学院大学学則第 4 条第 2 項に定める各学部学科の定員を以下のとおり変更し、大学全体の収容定員は現行の 704 名から 160 名増の 864 名とする。

学部 学科名	変更前 (R6 年度)		変更後 (R7 年度)		増減	
	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
人間学部						
心理コミュニケーション学科	68	272	68	272	0	0
文化学科	32	128	0	0	△32	△128
人文社会科学部						
情報コミュニケーション学科	—	—	40	160	40	160
文化芸術学科	—	—	32	128	32	128
看護学部						
看護学科	76	304	76	304	0	0
大学 学部全体	176	704	216	864	40	160

※網掛けをしている学科は定員変更なし

※各学科の収容定員はすべて完成年度時点の人数

## イ 学則変更（収容定員変更）の必要性

清泉女学院大学（以下、「本学」）は、キリスト教、カトリックの精神に基づく教育・社会活動を世界 22 か国において行っている聖心侍女修道会（1877 年スペインで創設）を設立母体とする学校法人清泉女学院により、平成 15(2003)年、長野県長野市上野に設置された。

学校法人清泉女学院は、聖心侍女修道会員の強制疎開地であった長野に昭和 21 年（1946 年）、清泉寮学院（昭和 22(1947)年より長野清泉女学院）を設立、長野における女子教育の基礎を固め、昭和 56(1981)年には、清泉女学院短期大学を開学、21 世紀に入って、時代の要請に応え、「キリスト教（カトリック）ヒューマニズム」に基づき、教養を重視した全人教育を通じて、幅ひろい教養と人間学領域の学知・技能を教授し、コミュニティとともに生き、常に自らを高め、共生のころをもつて、他者のために考

え、行動し、地域と世界に貢献できる情操豊かな女性を育成することを目的とする4年制大学の人間学部を平成15(2003)年4月に設置したものである。その後、今日まで、本学は、「こころを育てる」北陸・甲信越地区唯一のカトリック大学として、地域と社会に貢献し続けている。

文部科学省中央教育審議会に取りまとめられた「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」による「2040年に必要とされる人材と高等教育の目指すべき姿」及び「これからの時代の地域における大学の在り方についてー地方の活性化と地域の中核となる大学の実現ー」(令和3年12月中央教育審議会大学分科会審議まとめ)、さらに「学修者本位の大学教育の実現に向けた今後の振興方策について」(令和5年2月24日中央教育審議会大学分科会審議まとめ)等の議論を踏まえ、本学では、令和7(2025)年度に向けて、既存学部学科の教育課程の見直しを行うとともに、男女共学化に移行することを検討した。

また、学内の動向としても、近年は大学では入学定員を確保してきたが、併設の短期大学には幼児教育科(入学定員100名)、国際コミュニケーション科(入学定員80名)の2学科では、短期大学を取り巻く環境の変化により、志願者が全国的に減少していることもあって、入学定員の充足が難しくなってきた。特に国際コミュニケーション科はコロナ禍の影響も大きく、志願者の減少が顕著であり、単に定員変更にとどまらない、抜本的な改革が必要であったことから、新たな学部学科設置を構想することとなった。

予測不可能な時代の到来を見据えた場合、専攻分野についての専門性を有するだけでなく、思考力、判断力、俯瞰力、表現力の基盤の上に、幅広い教養を身に付け、高い公共性・倫理性を保持しつつ、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、論理的思考力を持って社会課題を改善していく資質を有する人材が必要とされている。さらに、今後の情報を基盤とした社会においては、基礎的で普遍的な知識・理解等に加えて、数理・データサイエンス等の基礎的な素養を持ち、正しく大量のデータを扱い、新たな価値を創造する能力が必要となってくる。本学では、英語教育はもとより、コミュニケーション力、情報通信技術の知識、地域貢献などの教育を行ってきた短期大学国際コミュニケーション科の教育資源の活用が可能であるため、新たな学部である人文社会科学部を令和7(2025)年度に設置し、高度情報社会のなかで必要となるコミュニケーションスキルを有し、人文科学を基盤としてビジネス、グローバル、デジタルに関する知識を関連させながら学際的・総合的に学び、情報・データの活用と他者とのコミュニケーションを通じて課題解決に貢献できる人材を育成する情報コミュニケーション学科を設置することとした。

これを契機として、平成30(2018)年4月に開設した人間学部文化学科についても、



報コミュニケーション学科（収容定員 160 人）と文化芸術学科（収容定員 128 人）を設置することとした。

## ウ 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

### （ア）教育課程の変更内容

本学では、開設する全ての学部・学科において、「共通教育科目」「専門教育科目」の2つの柱からなる教育課程を編成しており、今回の収容定員変更にあってもその編成方針に変更はない。

#### （1）共通教育科目

共通教育科目は、令和7(2025)年度から新たな教育課程を編成し、従来の共通教育科目をさらに充実することとした。学生の全人的成長及び大学での勉学・研究の基礎の構築を目的に、養成しようとする知識や能力を明確にしたうえで、目的を達成するために「建学の理念」、「教養科目」、「外国語」、「学習基礎」、「スポーツ」、「キャリア系科目」、「学外活動」の科目群から構成する。

本学の共通教育科目では、1年次から履修できる科目が全共通教育科目の9割を占め、必修科目8科目、選択科目57科目が開講されている。今回の収容定員変更では入学定員が176名から216名へ40名増加する。共通教育科目は全学部学科の共通の学びとなるものが多いため、履修希望者数に応じてクラス編成を工夫し、多くの学生が履修できるようにしている。また、メディア授業なども取り入れることで、学生の選択の幅を広げている。そのため、収容定員増加により履修者が増えた場合も、学修環境に与える影響は極めて限定的である。

#### ① 建学の理念

「建学の理念」では、人間に関する問いを自然、社会を、超越なるものとの関係において考察すると共に、人間存在の持つ根源的な問いを通して人間の在り方を問い直す科目「人間学」、これに本学の建学の理念であるキリスト教の宗教的、文学的伝統の理解と共に、キリスト教の歴史、文化、その価値観と世界が抱える様々な問題の見方を理解するための2科目「キリスト教概論」「清泉講座」を加えた合計3科目（各科目2単位）を配置する。

#### ② 教養科目

幅広く豊かな教養を身に付けることを目的として「教養科目」に30科目（各科目2単位）を配置する。

「聖書の物語」「キリスト教とケア」「キリスト教と世界の文化」「キリスト教と現代」では、本学はキリスト教の精神に基づく全人教育を教育理念としていることから、キリ

スト教への理解を深めるための科目である。

「自己発見の方法」「Critical Thinking」「哲学概論」では、自分という人間の現在の有様を認識理論の観点から観察し、人間の行動の基本となる思考過程のメカニズムを理解し、現実直面する様々な問題のよりよい解決を可能とする思考について学ぶ。

「経済学入門」「日本国憲法」「ジェンダーと社会」「いのちの社会」「ビジネス思考法」では、社会的に重要な特定課題や現代社会が直面する基本的な諸課題に関する理解を深めるとともに、人間理解に関する基本的な知識と複合的な視点を養うことができる。

「歴史と文化」「文化共生論」「ワールド・スタディーズ」「国際交流概論」は、地球規模で生じている諸問題に対する認識を深め、国際事情について総合的に理解し、国際協調に貢献できる教養や態度を身に付けるための科目である。

「心理学入門」「身近な自然や技術と人類の未来」「宇宙と生命の歴史」「化学・生物基礎」「生命の倫理」は、人間と自然との関係をより深く理解し、人間の生き方や社会のあり方を見つめなおすことができるようになることが目的の科目である。

「文学とメディア」「文学入門」「日本語表現」では、自らがよって立つ国の言語や文学、文化に関する理解を深めるための科目として配置する。

「データサイエンスとAI」「コンピュータサイエンス」「ウェブデザイン」「データ処理論」「プログラミング I」「AI 活用とデータエンジニアリング I」では、データサイエンスや AI の基礎知識を身につけ、データから価値ある情報を抽出・分析したり、新しい価値を創造したりするためのスキルを身に付けるための科目である。

### ③ 外国語

「外国語」では、外国語による運用能力を身に付けることとし、英語を用いての基礎的なコミュニケーション能力を取得するための科目として「英語基礎 I」「英子基礎 II」「English Communication I」「English Communication II」「English & World Cultures」を配置する。また、諸外国語を用いての基礎的なコミュニケーション能力を習得するための科目として、「中国語」「実践中国語」「ハングル」「実践ハングル」「スペイン語」「実践スペイン語」「諸外国語」「実践諸外国語」の 13 科目（各科目 2 単位）を配置する。

### ④ 学習基礎

「学習基礎」は、いわゆる初年次教育科目として位置づけられる科目群である。アカデミックスキルやコミュニケーションに関する能力を修得する科目の「基礎セミナー I」「基礎セミナー II」と、情報リテラシーに関する能力を修得する科目の「情報リテラシー I」「情報リテラシー II」の計 4 科目（各科目 2 単位）を配置する。

### ⑤ スポーツ

「スポーツ」では、豊かな人間性やたくましく生きるための健康や体力のバランスのとれた力を身に付けることとし、体力の定義や人間の発育発達の特徴、健康と運動の望ましい関わり方について理解する科目として「健康科学」（2単位）を、身体を鍛え心身を豊かに取り組み、生涯を通しての運動の大切さや体力づくりの知識と方法を修得する科目として「体育実技」（1単位）を配置する。

#### ⑥ キャリア系科目

「キャリア系科目」では、「キャリア」を「人生」と捉えて、学生が社会人・職業人として自立するために必要な技能や能力、態度や意欲を形成・向上させ、人生をデザインする力を修得することを目的とした9科目（各科目2単位）を配置する。

自分の目標や将来の就職や人生について考えながらFP知識を修得するとともに、パーソナル・ファイナンスの基礎知識を修得するための科目として「ファイナンシャル・プランニング」を、政治、経済や社会に関する一般常識や時事問題についての理解を深める科目として「現代社会の仕組み」を配置する。

一方、社会人として必要なマナーやルールとスキルを実践的に学び、言葉の遣い方、振る舞いや気遣いの大切さなど、社会の中で円滑な関係を保つためのマナーや常識を身に付ける科目として、「社会人マナー基礎」「社会人マナー展開」の2科目を配置する。

また、自己理解と対人コミュニケーションを高めながら、自分らしい生き方やライフサイクルについて学び、働くことと社会との関係の理解や働くことの意味について理解するとともに、職業や企業が求める人材像についての理解を深めるための科目として、「キャリア・デベロップメント入門」「キャリア・デベロップメント基礎」「キャリア・デベロップメント展開」「キャリア・デベロップメント実践」の4科目（各科目2単位）を配置する。

そのうえで、実際の仕事や職場を体験し、職業選択や職業現場についての理解とキャリア形成に対する意識を高めるための科目として、「インターンシップ」を配置する。

#### ⑦ 学外活動

「学外活動」では、主体的、創造的な問題解決力及び豊かな人間性を身に付けることとし、ボランティア活動をはじめとする学外活動や海外での文化体験など、社会の現実に触れる実際の体験的な学習を通して、社会の変化に主体的に対応していく力を身に付けるための科目として、「学外活動Ⅰ」「学外活動Ⅱ」「海外研修Ⅰ」「海外研修Ⅱ」（各科目2単位）を配置する。

#### （2）専門教育科目

人文社会科学部では、学位授与の方針を踏まえた教育課程編成・実施の方針のもとに、履修の順序に配慮しつつ、体系的に教育課程を編成することから、「専門教育科目」で

は、「専門基礎科目」、「専門展開科目」、「専門実践科目」、「専門研究科目」の科目群を設け、各科目群における教育目標に応じた授業科目を配置する。また、学芸員資格や司書資格を取得するための科目を「専門関連科目」として配置する。

### <情報コミュニケーション学科>

#### ① 専門基礎科目

「専門基礎科目」は、現代社会のあらゆる場面での問題解決に必要な見方や考え方の基礎となる領域【コミュニケーション】【言語】【地域】について興味と関心を高めるとともに、理解を深めるための科目群である。17科目を配置し、各科目2単位である。

#### ② 専門展開科目

「専門展開科目」は、専門基礎科目の理解のうえに、学生の興味と関心に応じた学修目標に沿った展開科目を履修するにあたって、国際交流、異文化理解、ハンゲル、英語などを修得する【グローバル】、デジタルマーケティング、ビジネス調査法など現代の経営ビジネスの手法を学ぶ【経営ビジネス】、初歩からコンピュータサイエンスやAI活用、プログラミングを修得する【IT】の3領域からなる科目群である。

【グローバル】領域では「応用ハンゲルⅠ」「応用ハンゲルⅡ」「Basic ReadingⅠ」「Basic ReadingⅡ」「WritingⅠ」「WritingⅡ」「Basic English for TOEICⅠ」「Basic English for TOEICⅡ」「Presentation skills」「通訳・翻訳入門」の10科目（いずれの科目とも2単位）を配置する。

【経営ビジネス】領域では「マーケティング」「ビジネス調査法」「ビジネス戦略論」「ビジネス統計論」「ビジネスイノベーション論」「デジタルマーケティング」「デジタル社会のトレンド技術」「デジタル社会と職業」「デジタル社会とデザイン技術」（いずれの科目とも2単位）、「デジタル社会と医療クラーク」(4単位)の10科目を配置する。

【IT】領域では「コンピュータサイエンスⅡ」「デジタルデザイン」「プログラミングⅡ」「デジタルコンテンツ」「アプリケーション開発Ⅰ」「アプリケーション開発Ⅱ」「デジタルテクノロジー」「AI活用とデータエンジニアリングⅡ」「システム開発技術」「サイバーセキュリティとネットワーク」の10科目（いずれの科目とも2単位）を配置する。

#### ③ 専門実践科目

「専門実践科目」は、3つの領域、すなわち、IT、ビジネス、グローバルのそれぞれの領域について、人文科学分野の基礎知識やスキルを基盤とし、「人文探求基礎」（1単位）「人文探求発展」（2単位）「人文探求応用」（3単位）「人文総合探求」（4単位）「人文探求活動」（2単位）と段階的な探求科目を配置する。

【グローバル】領域では、多様性・ダイバーシティへの理解が進展するグローバル社

会へ対応するため、【経営ビジネス】領域では、DX・GXが急速に進展する現代ビジネス環境に対応するため、【IT】領域では、AI・デジタル化が急速に進展する高度情報化社会へ対応するため、自ら探求したいテーマを設定する。具体的な探求方法として、オンライン学習、文献調査、フィールドワーク、アンケート調査、資格取得などに取り組む。また、リーダーシップを育成するため、「プロジェクトマネジメント」(4単位)「リーダーシップ実践」(4単位)「プロジェクト演習」(2単位)「プロジェクト実践」(2単位)を配置する。

#### ④ 専門研究科目

「専門研究科目」は、文献の読み解きや、論文作成のための基礎知識を身につけるための「文献研究法」(2単位)を配置し、情報コミュニケーション研究に関する基礎的な方法論の修得と研究意識を涵養するし、各自の研究課題に則した研究計画を設定し、資料収集や分析、報告、意見交換などを繰り返しながら、研究課題に関する成果発表を行うための科目として、「専門セミナーⅠ」「専門セミナーⅡ」「専門セミナーⅢ」(いずれの科目とも2単位)、「卒業研究」(8単位)を配置する。

### <文化芸術学科>

#### ① 専門基礎科目

「専門基礎科目」は、文化芸術学を学ぶ目的の理解及び興味と関心を高めるとともに、基本的な思考様式と知識の理解を図る目的から、文化芸術学に関する専門教育を体系的に学修するうえでの基礎となる科目、「文化芸術概論」「文化人類学概論」「現代文化総論」「伝統文化総論」「異文化論」「知的財産概論」「比較文化論」「身体表現論」「地域づくり論」の10科目(いずれの科目とも2単位)を配置する。

#### ② 専門展開科目

「専門展開科目」は、専門基礎科目の理解のうえに、学生の興味と関心に応じた学修目標に沿った展開科目を履修するにあたって、歴史、美術、芸術、文化などの学びを深め、文化的視点を身に付ける【文化】、デザイン、3DCG、ゲーム、アニメなどについて学び、創作も行う【クリエイティブ】、地域政策、地域産業、まちづくりなどを学び、公務員希望者にも対応する【地域づくり】の3領域からなる科目群である。

【文化】領域では「地域文化論」「グローバル文化論」「文化資源論」「伝統文化論」「カラーコーディネート」「現代アート論」「ワークショップデザイン論」「映像芸術論」の8科目(いずれの科目とも2単位)を配置する。

【クリエイティブ】領域では「3Dモデリング」「広告論」「ポップカルチャー論」「ユニバーサルデザイン論」「アニメーション文化論」「グラフィックデザイン演習」「メディア制作演習」の7科目(いずれの科目とも2単位)を配置する。

【地域づくり】領域では「地域政策論」「観光文化論」「地域産業論」「企業論」「マーケティング論」「アーツマネジメント論」「デジタルアーカイブと文化施設」「まちづくりとスポーツ」の8科目（いずれの科目とも2単位）を配置する。

### ③ 専門実践科目

「専門実践科目」は、文化芸術学に関する基礎的・基本的な知識と技能を文化活動の場面に適用することができる企画力や実践力を培う「文化芸術実践Ⅰ（デザイン）」「文化芸術実践Ⅱ（映像）」「文化芸術実践Ⅲ（リーディング）」「文化芸術実践Ⅳ（ロジカル・シンキング）」「文化芸術実践Ⅴ（コンセプト）」「文化芸術実践Ⅵ（プロジェクト）」の6科目（いずれの科目とも2単位）を配置する。

これらの科目により、現地において資料や情報の収集を行うなどの基礎的な調査技法について修得するとともに、調査結果に基づく文献購読や資料分析などを通じて調査研究能力の向上をはかり、実践力を養う。

### ④ 専門研究科目

「専門研究科目」は、文化芸術学研究に関する基礎的な方法論の修得と研究意識を涵養するための科目として、「文化芸術演習Ⅰ」「文化芸術演習Ⅱ」（いずれの科目とも2単位）を配置するとともに、各自の研究課題に則した研究計画を設定し、資料収集や分析、報告、意見交換などを繰り返しながら、研究課題に関する成果発表を行うための科目として、「文化芸術研究Ⅰ」「文化芸術研究Ⅱ」「文化芸術研究Ⅲ」「文化芸術学研究法」（いずれの科目とも2単位）、「卒業研究」（8単位）を配置する。

### ⑤ 専門関連科目

「専門関連科目」は、文化に関する基礎的な知識の修得の基に、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究、その他の関連事業についての専門的事項に関する知識を修得し、学芸員資格の取得を目指す科目と、図書館のサービスや図書館情報資源に関する科目等、司書資格の取得を目指す科目から成る。

両資格取得に必要な科目「生涯学習論」（2単位）を配置、また【学芸員資格】のための「博物館概論」「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館教育論」「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館情報・メディア論」（いずれの科目とも2単位）、「博物館実習」（3単位）の8科目を配置する。

さらに、【司書資格】に必要な「図書館概論」「図書館情報技術論」「図書館制度・経営論」「図書館サービス概論」「情報サービス論」「児童サービス論」（以上各科目2単位）「情報サービス演習Ⅰ」「情報サービス演習Ⅱ」（いずれの科目とも1単位）、「図書館情報資源論」「情報資源組織論」（いずれの科目とも2単位）、「情報資源組織演習Ⅰ」「情報資源組織演習Ⅱ」「図書・図書館史」「図書館実習」（いずれの科目とも1単位）の14

科目を配置する。

また、大学設置基準で定められた通り、本学の各授業科目の授業は15週にわたる期間を単位として行っており、十分な教育効果を確保することができる設定となっている。

### (イ) 教育方法、履修指導方法の変更内容

本学では、学科・学年ごとに所属学科の教員によるクラス担任やメンターによる支援・指導体制を行っている。そのうえで、学科独自の教育方法や履修要件については、学生便覧や授業計画（シラバス）等で公表するとともに、毎学期に開催するガイダンスにおいて担任から学生に周知している。

この制度は収容定員変更を理由に変更することはない。新設する学部学科の教育方法についても、本学の教育方針をベースにし、各学科が主体的に設定し実施に当たるため、他学部等に影響を与えるものではない。

#### (1) 教育方法

授業方法は、知識の理解を目的とする教育内容については、講義形式を中心とした授業形態を採るとともに、態度・志向性及び技術や技能の修得を目的とする教育内容については、演習形式及び実践形式による授業形態を採ることとしている。

授業の内容に応じた学生数の設定については、授業科目ごとの授業形態に則した教育目的を効果的かつ確実に達成するために適切なクラス定員を設定している。特に本学では少人数教育を重視しているため、講義形式は30名～60名、演習形式及び実践形式は10名～40人でクラスを編成している。

本改組によって学科ごとの入学定員は増加せず、ST比も同等となるため、授業の内容に応じたクラス人数（含：ゼミナール）も変更なく、教育が可能と判断している。

配当年次は、基礎から基幹へと体系的な学修が可能となるようにする。特に、専門教育においては、専門分野の教育内容ごとに、知識、技能、応用といった授業の内容と科目間の関係や履修の順序に留意するとともに、単位制度の4年間における制度設計の観点を踏まえて、特定の学年や学期において偏りのある履修登録がなされないように配慮した配当としている。

#### (2) 履修指導方法

履修指導方法は、授業を受ける学生に対して、教員が相談に応じる専門の時間を設けることにより、きめ細やかな教育指導を行う体制を整えるとともに、年度ごとに学年別の履修ガイダンスを実施したうえで、学生の適正や能力に応じて学生の履修科目の選択に関する助言を行う職員を配置し、個別の履修相談に応じるなど、学生の履修指導体制を整備する。

また、専門科目では、専門分野の学問体系と学修段階に即した授業科目を配置しており、学部教育段階では、基礎的な専門知識や技能を確実に修得させることに重点を置くことが重要であることを踏まえたうえで、単位制度の実質化を図る観点から、特定の学期における偏りのある履修登録を避け、学生が学修目標に沿った適切な授業科目の履修が可能となるように、養成する人材像に対応した典型的な履修モデルを提示し、履修指導に当たっている。

### (ウ) 教員組織の変更内容

本学の学部・学科及び大学全体における大学設置基準に定める必要基幹教員数を上回っており、また新たに設置する学部・学科において ST 比も定員変更前と同等であるため、収容定員に係る学則変更の前後において、教員組織の体制の低下はない。また、既存の学部・学科の教員組織はそのまま維持されるため、他学科への影響は皆無である。

収容定員変更に係る学部・学科の教員組織の詳細な変更内容は以下のとおりである。

人文社会科学部の教育研究上の目的である、「キリスト教（カトリック）ヒューマニズム」に基づき、教養を重視した全人教育と人文学を統合し、さらに、社会の在り方に大きな変容・変革が迫られていることに対応するため、社会科学分野の学術知も取り入れながら、創造性、柔軟性、豊かなコミュニケーション能力を備え、未来予測が困難な現代社会の課題解決に挑み、社会と地域に貢献できる人人を育成することを推進実現するために、組織として研究対象とする中心的な学問分野を中心に専門知識を教授できる教員組織を編成し、17 人の基幹教員を配置する。

情報コミュニケーション学科は併設する短期大学国際コミュニケーション科を、文化芸術学科は人間学部文化学科の教育内容をさらに発展的に改組し、新学部となる人文社会科学部を設置することから、既存の教員組織を最大限に活用しつつ、学部教育における教育成果をより一層発揮することが可能となるような教育組織の編成とした。

情報コミュニケーション学科の教育課程は、「グローバル」「ビジネス」「IT」の 3 つのコミュニケーションスキルの領域を基盤とし、デジタル化、グローバル化が加速するビジネス環境に対応する人材の教育を実施することを特色の柱としていることから、これら 3 つの学問領域を教授できる専門教員を 8 名配置する。

文化芸術学科の教育課程は、「クリエイティブ」「文化」「地域づくり」の 3 つの領域を切り口とし、人と人をつなぎ地域の課題解決などを考える人材の教育を実施することを特色の柱としていることから、3 つの学問領域を教授できる専門教員を 9 名配置する。

情報コミュニケーション学科の基幹教員は 8 名配置し、職位別の配置状況は、教授 5 人、准教授 1 人、講師 2 人であり、40 歳代 2 人、50 歳代 2 人、60 歳以上 4 人から成る年齢構成となっている。専任教員 1 人当たりの学生比 (ST 比) は 20.0 人 (収容定員 160 人 ÷ 基幹教員 8 人) である。既存で同学問分野である人間学部心理コミュニケ

ーション学科では27.2人(収容定員272人÷基幹教員10人)と比較すると、同程度以上のきめ細やかな指導が可能となる教員配置であると言える。

文化芸術学科では基幹教員を9名配置し、職位別の配置状況は、教授5人、准教授1人、講師2人であり、40歳代2人、50歳代2人、60歳以上5人から成る年齢構成となっている。専任教員1人当たりの学生比(ST比)は14.2人(収容定員128人÷基幹教員9人)である。前身となる人間学部文化学科の収容定員及び基幹教員数に変更がないため、収容定員変更以前と同程度の指導が可能となる教員配置であると言える。

## (エ) 大学全体の施設・設備の変更内容

令和7(2025)年度に予定している学部設置・収容定員変更により設置基準上、必要となる校地校舎面積(本学及びキャンパスを共用している併設の清泉女学院短期大学の合計)は、校地10,640㎡、校舎11,127.84㎡へと校舎面積は増加することとなるが、本申請に係る学部等の開設時の面積は校地14,384.20㎡、校舎15,782.98㎡と、いずれも設置基準以上である十分な面積を有している。

本学の校地については、上野キャンパス及び長野駅東口キャンパスがあり、上野キャンパスには収容定員変更に関係する人文社会科学部が教育研究を行う校舎を置くとともに、大学全体の運動施設として、体育館を設置している。

上野キャンパスは、校地面積12,871.56㎡に、現在は3つの講義棟と音楽棟、研究棟、図書館棟、体育館、管理棟の8つの校舎を設置し、人間学部、看護学部(共通教育科目のみ)、併設の清泉女学院短期大学の学生が学ぶ場としてきた。

また、休息・交流用のスペースとして、カフェテリアやホールを設けている。さらに、中庭等にはベンチ、テーブル、椅子のセットを置き、談話スペースを設け、学生が休息するための十分な場所を確保することで、大学教育に相応しいキャンパス環境を整えている。

また、上野キャンパスの校舎等の総面積は令和6(2024)年6月現在、12,321.98㎡を有し、内訳は、校舎10,047.67㎡、体育館1,200.47㎡、厚生補導施設1,073.84㎡となっている。うち校舎面積の大学専有部分は83.70㎡、併設短期大学との共有部分は9,963.97㎡である。主要な教室等は、講義室・演習室36室、情報処理室含む実験実習室11室、学生自習室、教員研究室、非常勤講師控室、図書館、学長室、会議室、事務室、保健室、学習支援室、食堂等を整備し、併設短期大学と共用し、教育目的に沿って整備している。

人文社会科学部の設置により1学部が増えるが、これまで上野キャンパスで教育を行っていた人間学部文化学科と短期大学国際コミュニケーション科の学生募集を停止し、各々の学科の収容定員をもって大学の収容定員を増加するものであり、且つ、令和5(2023)年度現在よりも、講義室をはじめとする教室は増加することになるため、施設設備に不足はない。

専任教員の研究室については、教員組織として計画している専任教員数 17 名に対して、1 室当たり 14.3 m<sup>2</sup>～22.0 m<sup>2</sup>の専任教員研究室 17 室を設けている。  
よって、学生および教職員の教育・研究活動に支障ない施設である。

## 学則の変更の趣旨等を記載した書類

### 資料目次

資料1 学則を変更する学科等の教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））

資料1-1 人文社会科学部情報コミュニケーション学科-----2

資料1-2 人文社会科学部文化芸術学科-----7

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

教 育 課 程 等 の 概 要																
(人文社会科学部 情報コミュニケーション学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年度	主要 授業 科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員 ( 助 手 を 除 く)
建 学 の 理 念	人間学	1前	○	2			○			2	1					
	キリスト教概論	1後	○	2			○			2	1					
	清泉講座	1・2前	○	2			○			4	1					オムニバス
共 通 教 育 科 目	聖書の物語	1・2前			2		○			1						
	キリスト教とケア	1・2後			2		○			1						
	キリスト教と世界の文化	1・2後			2		○			1						
	キリスト教と現代	1・2前			2		○			1						
	自己発見の方法	1・2後			2		○			1						
	Critical Thinking	1・2前			2		○			1						
	哲学概論	1・2前			2		○			1						
	経済学入門	1・2後			2		○					1				
	日本国憲法	1・2後			2		○							1		
	ジェンダーと社会	1・2後			2		○			1						
	いのちと社会	1・2後			2		○			1						
	ビジネス思考法	1・2後			2		○					1				
	歴史と文化	1・2前			2		○						1			
	文化共生論	1・2前			2		○			1						
	ワールド・スタディーズ	1・2前			2		○					1				
	国際交流概論	1・2前			2		○			1						
	心理学入門	1・2前			2		○			1						
	身近な自然や技術と人類の未来	1・2後			2		○			1						
	宇宙と生命の歴史	1・2後			2		○			1						
	化学・生物基礎	1・2後			2		○			1						
生命の倫理	1・2前			2		○			1							
文学とメディア	1・2後			2		○			1							
文学入門	1・2前			2		○			1							
日本語表現	1・2前			2		○								1		
データサイエンスとAI	1・2前		○		2		○			1						
コンピュータサイエンス I	1・2前				2		○			1						
ウェブデザイン	1・2後				2		○							1		
データ処理論	1・2後				2		○			1						
プログラミング I	1・2前				2		○				1					
AI活用とデータエンジニアリング I	1・2後				2		○			1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員	
共通教育科目	外国語 I	英語基礎 I	1前		2			○		1							
		English Communication I	1前		2			○		1							
		English & World Cultures	1前		2			○				1					
	外国語 II	中国語	1前		2			○								1	
		ハングル	1前		2			○								1	
		スペイン語	1前		2			○								1	
		諸外国語	1通		2			○		1							メディア
	外国語 III	英語基礎 II	1後		2			○		1							
		English Communication II	1後		2			○		1						1	
		実践中国語	1後		2			○								1	
		実践ハングル	1後		2			○								1	
		実践スペイン語	1後		2			○								1	
		実践諸外国語	1通		2			○		1							メディア
	学習基礎	基礎セミナー I	1前	○	2				○		5	1	2				
		基礎セミナー II	1後	○	2				○		5	1	2				
		情報リテラシー I	1前		2				○							1	
		情報リテラシー II	1後		2				○							1	
	スポーツ	健康科学	1・2後		2				○							1	
		体育実技	1前・後		1				○							2	
	キャリア系科目	ファイナンシャル・プランニング	1・2後		2				○							1	
現代社会の仕組み		1・2前		2				○							1		
社会人マナー基礎		2・3前		2				○				1					
社会人マナー展開		2・3後		2				○							1		
キャリア・デベロップメント入門		1後		2				○		1	1					共同	
キャリア・デベロップメント基礎		2前		2				○		1							
キャリア・デベロップメント展開		3後		2	2			○		1							
キャリア・デベロップメント実践		4後		2				○		1							
インターンシップ	2・3通		2				○		1		1				共同		
学外活動	学外活動 I	1・2・3・4		2				○							1		
	学外活動 II	1・2・3・4		2				○							1		
	海外研修 I	1・2・3・4		2				○		1							
	海外研修 II	1・2・3・4		2				○		1							
	小計 (65科目)	—	—	16	113	0	—	—	11	2	5	1		13			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員	
専門基礎科目	コミュニケーション学	1前	○	2			○			1		1					オムニバス
	情報とコミュニケーション	1後	○	2			○			5	1	2					オムニバス
	異文化間コミュニケーション	2・3前	○		2			○		1							
	国際観光コミュニケーション	2・3後	○		2			○				1					
	現代家族とコミュニケーション	2・3前	○		2			○		1							
	地域社会とコミュニケーション	2・3後	○		2			○		1							
	色彩心理学	2・3前			2			○							1		
	言語学概論	2・3前			2			○		1							隔年
	ことばの科学	2・3後			2			○		1							隔年
	世界の歴史と文化	2・3前			2			○		1							隔年
	多文化共生論	2・3後			2			○		1							
	英語文学	3・4前			2			○		1							隔年
	世界の英語	3・4後			2			○		1							隔年
	アメリカ地域研究	3・4前			2			○		1							隔年
	ヨーロッパ地域研究	3・4後			2			○		1							隔年
	国際文化観光研究	3・4前			2			○				1					
	アジア地域研究	3・4後			2			○							1		
	小計 (17科目)	—	—	4	30	0	—			5	1	2	0	0	1		
専門展開科目	応用ハングルI	2・3前			2		○									1	
	応用ハングルII	2・3後			2		○									1	
	Basic Reading I	2・3前			2		○									1	
	Basic Reading II	2・3後			2		○									1	
	Writing I	2・3前			2		○			1							
	Writing II	2・3後			2		○			1							
	Business English for TOEIC I	2・3前	○		2		○			1					1		
	Business English for TOEIC II	2・3後	○		2		○			1					1		
	Presentation skills	3・4前	○		2		○			1					1		
	通訳・翻訳入門	3・4後			2		○			1							
	マーケティング	2・3後	○		2		○					1					
	ビジネス調査法	2・3前	○		2		○					1					
	ビジネス戦略論	2・3前	○		2		○					1					
	ビジネス統計論	2・3後			2		○					1					
	ビジネスイノベーション論	3・4前			2		○					1					隔年
	デジタルマーケティング	3・4後			2		○					1					隔年
	デジタル社会のトレンド技術	3・4前			2		○					1					隔年
デジタル社会と職業	3・4後			2		○					1					隔年	
デジタル社会とデザイン技術	3・4前			2		○					1					隔年	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教 員 以 外 の 教 員 ( 助 手 を 除 く)		
専門 展 開 科 目	デジタル社会と医療クラーク	1・2後			4		○									1	
	コンピュータサイエンスⅡ	2・3後	○		2		○			1							
	デジタルデザイン	2・3前			2			○								1	隔年
	プログラミングⅡ	2・3後			2			○				1					
	デジタルコンテンツ	3・4前			2			○								1	隔年
	アプリケーション開発Ⅰ	2・3前			2			○					1				隔年
	アプリケーション開発Ⅱ	3・4後			2			○					1				隔年
	デジタルテクノロジー	3・4前			2			○		1							隔年
	AI活用とデータエンジニアリングⅡ	3・4後	○		2			○		1							
	システム開発技術	3・4前			2			○		1							
	サイバーセキュリティとネットワーク	3・4後	○		2			○		1							
小計 (30科目)	—	—	—	0	62	0	—	—	—	4	0	2	0	0	3		
専門 教 育 科 目	人文探求基礎(グローバル)	1・2後			1			○		1							
	人文探求基礎(ビジネス)	1・2後			1			○				1					
	人文探求基礎(情報)	1・2後			1			○		1							
	人文探求発展(グローバル)	1・2後			2			○		1							
	人文探求発展(ビジネス)	1・2後			2			○				1					
	人文探求発展(情報)	1・2後			2			○		1							
	人文探求応用(グローバル)	3通			3			○		1							
	人文探求応用(ビジネス)	3通			3			○				1					
	人文探求応用(情報)	3通			3			○		1							
	人文総合探求	4通			4			○		1							
	人文探求活動	2・3通			2			○		1							
	プロジェクトマネジメント	1後～2前			4			○		1							
	リーダーシップ実践	2後～3前			4			○				1					
	プロジェクト演習	2・3通			2			○		1							
	プロジェクト実践	3・4通			2			○				1					
小計 (15科目)	—	—	—	0	36	0	—	—	—	3	0	2	0	0	0		
専門 研 究 科 目	文献研究法	3後	○		2			○		3							
	専門セミナーⅠ	3前	○		2			○		5	1	2					
	専門セミナーⅡ	3後	○		2			○		5	1	2					
	専門セミナーⅢ	4通	○		2			○		5	1	2					
	卒業研究	4通	○		8			○		5	1	2					
小計 (5科目)	—	—	—	16	0	0	—	—	—	5	1	2	0	0	0		
合計 (132科目)		—	—	—	36	241	0	—	—	—	14	2	5	1	0	14	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
学位又は称号	学士（人文社会科学）			学位又は学科の分野			文学関係								
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等								
<p>共通教育科目38単位、専門教育科目64単位と、その他共通教育科目・専門教育科目問わず22単位以上の総計124単位以上を習得することを卒業要件とする。</p> <p>共通教育科目においては、 建学の理念科目の必修3科目6単位、 教養科目及び学習基礎科目の必修4科目8単位、選択から6科目12単位以上、 外国語科目からは外国語1から1科目2単位以上、外国語2から1科目2単位以上、外国語3から1科目2単位以上、 キャリア系科目の必修1科目2単位、選択から2科目4単位以上の修得が必要となる。</p> <p>専門教育科目においては、 専門基礎科目の必修2科目4単位、選択から5科目10単位以上、 専門展開科目の選択から12科目24単位以上、 専門実践科目の選択から5科目10単位以上、 専門研究科目の必修5科目16単位の修得が必要となる。</p> <p>(履修科目の登録の上限：48単位（年間）)</p>							1学年の学期区分				2学期				
							1学期の授業期間				15週				
							1時限の授業の標準時間				90分				

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

教育課程等の概要																		
(人文社会科学部 文化芸術学科)																		
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員		
建学の理念	人間学	1前	○	2			○			2	1							
	キリスト教概論	1後	○	2			○			2	1							
	清泉講座	1・2前	○	2			○			4	1						オムニバス	
共通教育科目	教養科目	聖書の物語			2		○			1								
		キリスト教とケア	1・2後			2		○		1								
		キリスト教と世界の文化	1・2後			2		○		1								
		キリスト教と現代	1・2前			2		○		1								
	歴史と文化	自己発見の方法	1・2後			2		○			1							
		Critical Thinking	1・2前			2		○			1							
		哲学概論	1・2前			2		○			1							
		経済学入門	1・2後			2		○					1					
	国際交流概論	日本国憲法	1・2後			2		○									1	
		ジェンダーと社会	1・2後			2		○			1							
		いのちと社会	1・2後			2		○			1							
		ビジネス思考法	1・2後			2		○					1					
		歴史と文化	1・2前			2		○						1				
	教養科目	文化共生論	1・2前			2		○			1							
		ワールド・スタディーズ	1・2前			2		○					1					
		国際交流概論	1・2前			2		○			1							
		心理学入門	1・2前			2		○			1							
		身近な自然や技術と人類の未来	1・2後			2		○			1							
		宇宙と生命の歴史	1・2後			2		○			1							
		化学・生物基礎	1・2後			2		○			1							
		生命の倫理	1・2前			2		○			1							
		文学とメディア	1・2後			2		○			1							
		文学入門	1・2前			2		○			1							
教養科目	日本語表現	1・2前			2		○									1		
	データサイエンスとAI	1・2前			2		○			1								
	コンピュータサイエンス I	1・2前			2		○			1								
	ウェブデザイン	1・2後			2		○									1		
	データ処理論	1・2後			2		○			1								
	プログラミング I	1・2前			2		○					1						
	AI活用とデータエンジニアリング I	1・2後			2		○			1								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員
外国語Ⅰ	英語基礎Ⅰ	1前		2			○		1							
	English CommunicationⅠ	1前		2			○		1							
	English & World Cultures	1前		2			○				1					
外国語Ⅱ	中国語	1前		2			○							1		
	ハンブル	1前		2			○							1		
	スペイン語	1前		2			○							1		
	諸外国語	1通		2			○		1							メディア
外国語Ⅲ	英語基礎Ⅱ	1後		2			○		1							
	English CommunicationⅡ	1後		2			○		1					1		
	実践中国語	1後		2			○							1		
	実践ハンブル	1後		2			○							1		
	実践スペイン語	1後		2			○							1		
	実践諸外国語	1通		2			○		1							メディア
学習基礎	基礎セミナーⅠ	1前		2			○			1	1	1				共同
	基礎セミナーⅡ	1後		2			○			1	1	1				共同
	情報リテラシーⅠ	1前		2			○							1		
	情報リテラシーⅡ	1後		2			○							1		
スポーツ	健康科学	1・2後		2			○							1		
	体育実技	1前・後		1			○							2		
キャリア系科目	ファイナンシャル・プランニング	1・2後		2			○							1		
	現代社会の仕組み	1・2前		2			○							1		
	社会人マナー基礎	2・3前		2			○					1				
	社会人マナー展開	2・3後		2			○							1		
	キャリア・デベロップメント入門	1後		2			○		1	1						共同
	キャリア・デベロップメント基礎	2前		2			○		1							
	キャリア・デベロップメント展開	3後		2			○		1							
	キャリア・デベロップメント実践	4後		2			○		1							
インターンシップ	2・3通		2				○		2							共同
学外活動	学外活動Ⅰ	1・2・3・4		2			○							1		
	学外活動Ⅱ	1・2・3・4		2			○							1		
	海外研修Ⅰ	1・2・3・4		2			○		1							
	海外研修Ⅱ	1・2・3・4		2			○		1							
	小計(65科目)	—	—	16	113	0	—		11	3	6	1	0	17		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員 (助手を除く)
専門基礎科目	文化芸術概論	1前	○	2			○			2	1	2	1			オムニバス
	文化人類学概論	1前	○	2			○			1						
	現代文化総論	1後	○	2			○								1	
	伝統文化総論	1前	○	2			○					1				
	異文化論	1前	○	2			○						1			
	知的財産概論	1後	○				○			1						
	比較文化論	2後	○	2			○			1						
	身体表現論	2休	○	2				○							1	
	地域づくり論	2前	○	2			○					1				
	小計 (9科目)	—	—	—	4	12	0	—	—	—	2	1	3	1	0	
専門教育科目	地域文化論	1前			2		○					1				
	グローバル文化論	2後			2		○						1			
	文化資源論	2前			2		○					1				
	伝統文化論	2後			2			○		1						
	カラーコーディネート	2前			2		○								1	
	現代アート論	2後			2		○				1					
	ワークショップデザイン論	2前			2			○			1					
	映像芸術論	2後			2		○					1				
	3Dモデリング	3前			2		○					1				
	広告論	3休			2		○								1	
	ポップカルチャー論	2前			2		○					1				
	ユニバーサルデザイン論	2前			2			○				1				
	アニメーション文化論	2休			2		○								1	
	グラフィックデザイン演習	2前			2			○							1	
	メディア制作演習	2後			2			○							1	
	地域政策論	2前			2		○					1				
	観光文化論	2前			2			○				1				
	地域産業論	3後			2		○					1				
	企業論	3前			2		○					1				
	マーケティング論	2後			2		○					1				
	アーツマネジメント論	2後			2		○								1	
	デジタルアーカイブと文化施設	2後			2		○						1			
	まちづくりとスポーツ	2前			2		○					1				
小計 (23科目)	—	—	—	0	46	0	—	—	—	1	1	4	1	0	6	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員
専門実践科目	文化芸術実践Ⅰ（デザイン）	1前	○	2				○			1					
	文化芸術実践Ⅱ（映像）	1後	○	2				○							1	
	文化芸術実践Ⅲ（リーディング）	1後	○	2				○		1						
	文化芸術実践Ⅳ（ロジカル・シンキング）	2前	○	2				○					1			
	文化芸術実践Ⅴ（コンセプト）	2後	○	2				○				1				
	文化芸術実践Ⅵ（プロジェクト）	3前	○	2				○				1				
	小計（6科目）	—	—	12	0	0		—		1	1	2	1		1	
専門教育科目 専門関連科目	生涯学習概論	1後			2			○								1
	博物館概論	1前			2			○			1					
	博物館経営論	2後			2			○								1
	博物館資料論	2前			2			○								1
	博物館教育論	2前			2			○								1
	博物館資料保存論	3前			2			○								1
	博物館展示論	3前			2				○							1
	博物館情報・メディア論	3後			2				○							1
	博物館実習	3前・後			3					○	1					
	図書館概論	1前			2				○				1			
	図書館情報技術論	2前			2				○							1
	図書館制度・経営論	2後			2				○							1
	図書館サービス概論	1後			2				○							1
	情報サービス論	2後			2				○							1
	児童サービス論	2前			2				○							1
	情報サービス演習Ⅰ	3前			1					○						1
	情報サービス演習Ⅱ	3後			1					○						1
	図書館情報資源論	1後			2				○				1			
	情報資源組織論	2前			2				○							1
	情報資源組織演習Ⅰ	3前			1					○						1
	情報資源組織演習Ⅱ	3後			1					○						1
	図書・図書館史	2後			1				○				1			
	図書館実習	3前			1					○			1			
小計（23科目）	—	—	0	41	0		—			0	1	1	1	0	11	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員			
専門教育科目	文化芸術演習Ⅰ	2前	○	2				○			2	1	3	1				
	文化芸術演習Ⅱ	2後	○	2				○			2	1	3	1				
	文化芸術研究Ⅰ	3前	○	2				○			2	1	3	1				
	文化芸術研究Ⅱ	3後	○	2				○			2	1	3	1				
	文化芸術学研究法	3後	○	2				○					1					
	文化芸術研究Ⅲ	4通	○	2				○			2	1	3	1				
	卒業研究	4通	○	8				○			2	1	3	1				
	小計 (7科目)	—	—	—	20	0	0	—	—	—	2	1	3	1	0	0		
合計 (133科目)				—	—	52	212	0	—	—	11	3	7	1	0	33		
学位又は称号		学士(人文社会科学)			学位又は学科の分野				文学関係									
卒業・修了要件及び履修方法								授業期間等										
<p>共通教育科目38単位、専門教育科目62単位、その他共通教育科目・専門教育科目を問わず24単位以上の総計124単位以上を習得することを卒業要件とする。</p> <p>共通教育科目においては、 建学の理念科目の必修3科目6単位、 教養科目及び学習基礎科目の必修4科目8単位、選択から6科目12単位以上、 外国語科目からは外国語1から1科目2単位以上、外国語2から1科目2単位以上、外国語3から1科目2単位以上、 キャリア系科目の必修1科目2単位、選択から2科目4単位以上の修得が必要となる。</p> <p>専門教育科目においては、 専門基礎科目の必修2科目4単位、選択から5科目10単位以上、 専門展開科目の選択から5科目10単位以上、 専門実践科目の必修6科目12単位、 専門研究科目の必修7科目20単位の修得が必要となる。</p> <p>(履修科目の登録の上限：48単位(年間))</p>								1学年の学期区分				2学期						
								1学期の授業期間				15週						
								1時限の授業の標準時間				90分						

## 学生の確保の見通し等を記載した書類

### 目次

(1) 収容定員を増加する組織の概要.....	2
①収容定員を増加する組織の概要（名称、入学定員（編入学定員）、収容定員、所在地）.....	2
②収容定員を増加する組織の特色.....	2
(2) 人材需要の社会的な動向等.....	4
①収容定員を増加する組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析.....	4
②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析.....	5
③収容定員を増加する組織の主な学生募集地域.....	5
④既設組織の定員充足の状況.....	6
(3) 学生の確保の見通し.....	7
①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果.....	7
ア 既設組織における取組とその目標.....	7
イ 収容定員を増加する組織における取組とその目標.....	11
ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、収容定員を増加する組織での入学者の見込み数.....	14
②競合校の状況分析.....	15
ア 競合校の選定理由と収容定員を増加する組織との比較分析、優位性.....	15
イ 競合校の入学志願動向等.....	16
ウ 学生納付金等の金額設定の理由.....	17
③先行事例分析.....	17
④学生確保に関するアンケート調査.....	18
⑤人材需要に関するアンケート調査等.....	19
(4) 収容定員を増加する組織の定員設定の理由.....	20

## (1) 収容定員を増加する組織の概要

### ①収容定員を増加する組織の概要(名称、入学定員(編入学定員)、収容定員、所在地)

令和7(2025)年度に新設する、人文社会科学部の概要は以下のとおりである。

#### 新設組織 人文社会科学部の概要

収容定員を増加する組織	入学定員	3年次編入学定員	収容定員	所在地 (教育研究を行うキャンパス)
清泉女学院大学 人文社会科学部 情報コミュニケーション学科	40	—	160	長野県長野市上野2丁目 120-8 <上野キャンパス>
清泉女学院大学 人文社会科学部 文化芸術学科	32	—	128	長野県長野市上野2丁目 120-8 <上野キャンパス>

### ②収容定員を増加する組織の特色

人文社会科学部は、本学の目的、使命を果たすために、本学の建学の精神である「キリスト教(カトリック)ヒューマニズム」に基づき、教養を重視した全人教育と、未来予測が困難な現代社会に要となる学際的な学びや社会科学に関する学びを人文科学領域の学知・技能と結び付けることで、課題解決に挑み、社会と地域に貢献できる人人を育成することを目的とする。また、「個の力だけでなく、人やデジタル技術ともつながり、課題解決に至る道筋を描くことができる“総合知”を、2学科6コースでの研究と実践を通じて養うことができること」としている。

人文社会科学部の特色は前述のように「課題解決に至る道筋を描くことができる“総合知”を研究と実践を通じて養うこと」にある。この総合知を修得するためには、知識、経験、思考を広範に獲得するだけでなく、深化させていくことも必要である。そのためには多彩な専門領域を持つ教員と綿密なコミュニケーションを図ったり、議論を通じて多角的な視点を持つとともに、その中で創造力も育くむことも欠かせない。

人文社会科学部は同分野の競合他大学に比べ、教員一人あたりの学生数が少なく、教員は学生一人ひとりの学修状況や個性、理解度を把握しやすく、十分なコミュニケーションのもと、学生個々に合わせた指導が可能となり、総合知の獲得に向けて高い学修効果が見込まれる。

また本学はキャリア教育を重視しており、1年次から将来のキャリアを考える科目を

展開し、人生を計画的に描けるように指導している。自身の卒業後の進路や将来を描く指針となる学びによって、世の中で起きている社会課題や地域課題を、より現実的に受けとめ、実践的な解決策を思考することにつなげることができる。

もとより本学はカトリック(キリスト教)に基づく全人教育を建学の精神としており、人文社会科学部でも共通教育課程において「建学の精神」に分類される3科目は必修としている。これらの科目では宗教と哲学の観点から、人間の知性の仕組みを理解し、その仕組みを使って人間が生み出す社会、文化の成り立ちの基本と、この仕組みが乱用されることによって、社会、歴史、そして、個々の人生にどのような問題が生じるのか、そして、その問題の克服のプロセスを考えていくという考察を通じて、すべての学びの基礎理解につなげる。

このように少人数教育、早期からの充実したキャリア教育、建学の精神科目による根本的な人間理解といった本学の学びの特徴を活用し、人文社会科学部の特色である総合知の涵養につなげる。

上記の特色に基づいた各学科の養成する人材像は以下のとおりである。

情報コミュニケーション学科は高度情報社会のなかで必要となるコミュニケーションスキルを有し、人文科学を基盤としてビジネス、グローバル、デジタルに関する知識を関連させながら学際的・総合的に学び、情報・データの活用と他者とのコミュニケーションを通じて課題解決に貢献できる人材を育成することを目的とする。

文化芸術学科は、文化に関する諸学の幅広く学際的な知識と自らが帰属する社会、地域、共同体の多様性・多元性の正しい理解に基づき、行動力をもって文化の諸活動を主体的に行い、文化の創造に貢献し、文化の学びを課題解決につなげられる人材を育成することを目的とする。

人文社会科学部の研究対象とする中心的な学問分野は語学、文学、文化史、歴史学、地域研究、文化人類学、国際関係等、文学関係であり、加えて現代社会に必要となる情報学、経済学等を学ぶことにより、分野を超え、自分が持っている知識を活用して社会課題を解決していく力「総合知」を養うことを目指す。

この人文社会科学部情報コミュニケーション学科及び文化芸術学科は、併設する短期大学の国際コミュニケーション科と本学人間学部文化学科の改組により新設するものである。この新学部設置と同時に既設学科は学生募集停止をすることを決定した。

## 収容定員を変更する前後の状況

変更前

清泉女学院大学

キャンパス 学部・学科名称	修業年限	入学定員	編入学 定員	収容定員
	年	人	人	人
<上野キャンパス>				
人間学部				
心理コミュニケーション学科	4	68	—	272
文化学科	4	32	—	128
<長野駅東口キャンパス>				
看護学部				
看護学科	4	76	—	304
計		176	—	704

変更後

清泉大学

キャンパス 学部・学科名称	修業年限	入学定員	編入学 定員	収容定員
	年	人	人	人
<上野キャンパス>				
人間学部			—	
心理コミュニケーション学科	4	68	—	272
(学生募集停止)				
人文社会科学部				
情報コミュニケーション学科	4	40	—	160
文化芸術学科	4	32	—	128
<長野駅東口キャンパス>				
看護学部				
看護学科	4	76	—	304
計		216	—	864

清泉女学院短期大学

キャンパス 学部・学科名称	修業年限	入学定員	編入学 定員	収容定員
	年	人	人	人
<上野キャンパス>				
幼児教育科	2	100	—	200
国際コミュニケーション科	2	80	—	160
計		180	—	360

清泉大学短期大学部

キャンパス 学部・学科名称	修業年限	入学定員	編入学 定員	収容定員
	年	人	人	人
<上野キャンパス>				
こども学科	2	100	—	200
(学生募集停止)				
計		100	—	200

## (2) 人材需要の社会的な動向等

### ①収容定員を増加する組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

予測不可能な時代の到来を見据えた場合、専攻分野についての専門性を有するだけではなく、思考力、判断力、俯瞰力、表現力の基盤の上に、幅広い教養を身に付け、高い公共性・倫理性を保持しつつ、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、論理的思考力を持って社会課題を改善していく資質を有する人材が必要とされている。さらに、今後の情報を基盤とした社会においては、基礎的で普遍的な知識・理解等に加えて、数理・

データサイエンス等の基礎的な素養を持ち、正しく大量のデータを扱い、新たな価値を創造する能力を持つ人材が必要とされている。

また、第6期科学技術・インベーション基本計画（令和3年3月閣議決定）において、「今後は、人文・社会科学の厚みのある『知』の蓄積を図るとともに、自然科学の『知』との融合による、人間や社会の総合的理解と課題解決に資する『総合知』の創出・活用がますます重要」とされている。

設置を計画している人文社会科学部は、個の力だけでなく、人やデジタル技術ともつながり、課題解決に至る道筋を描くことができる“総合知”を、研究と実践を通じて養うことができることとしている。また、社会環境の変化や地域社会の要請を踏まえるとともに、地域社会の多様な場において活躍する幅広い職業人の養成を目的として、教育内容を充実して設置することから、養成する人材は社会において需要があると推測できる。

## ②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

高等教育機関への主たる進学者である18歳人口の減少について全国的、地域的動向の分析を以下のようにして行った。

文部科学省中央教育審議会大学分科会（第175回）会議資料によると、長野県は令和3(2021)年の18歳人口における大学進学率は45.8%と他都道府県に比べ高くないが、短期大学へは6.9%と全国トップ5以内の高進学率であった【資料1】。過去5年間の長野県高校卒業生数と大学進学者数のグラフ、また、卒業生における大学・短大への進学率のグラフを示した【資料2】。このグラフから、長野県も右肩下がり卒業生が減少してきているが、大学進学者は徐々に増加していることがわかる。よって、高校卒業後の大学進学率も年々上昇しているが、反対に、短期大学進学率は微減していることを示している。この大学進学率の上昇率と現段階での長野県の年齢別人口を用いて、人文社会科学部開設後の10年間における大学進学者数を予測した【資料3】。

全国的18歳人口の減少に伴い、長野県内の高校卒業生も年々減少していくが、大学への進学者は10年かけて1000人ほど増加していくと考えられる。将来的に日本の人口が減少となっていくが、中期的には長野県の高校を卒業した生徒の大学進学者数は増加し、本学が入学者を確保するには十分な18歳人口であると考ええる。

## ③収容定員を増加する組織の主な学生募集地域

本学所在地である長野県の大学入学状況を示した【資料4、別紙1】。長野県の定員充足状況は、長野県県民文化庁が毎年度取りまとめている「高等教育機関の現況」から引

用した。長野県出身者のほか、隣県からも入学していること、また、定員も充足していることがわかる。

一方、本学の過去3年間の入学者は、長野県内の高校を卒業した学生が毎年約90%を占め、次いで隣県である新潟県出身者が5%入学している状況である【資料5】。長野県は南北に長い県であり、大学所在地である長野市は県の北部に所在している。新潟県上越地方には新幹線で15分、在来線でも30分と通学圏内である。新設する人文社会科学部においても、主な学生募集地域は長野県が中心となるが、一部新潟県も含まれることが予想される。

学校基本調査の結果によると、長野県高校卒業者の大学進学先都道府県は東京都が一番多く、次いで長野県である【資料6】。残念ながら、約55%もの学生が関東地域に進学することをはじめ、他地域への流出が多い。しかし、県内に残る約20%の学生のうち、半数が県内私立大学に進学しているのも事実である。人文社会科学部開設後の長野県私立大学の入学定員数の総数は、現在より40人増の976人であるが、(2)②で示した通り、長野県出身の大学進学者は中期的に増加し、800~960人が長野県の私立大学に進学すると考えられる。これは長野県私立大学の入学定員の最低でも80%以上を占める数字である。

また、長野県の私立大学は保健系学部が多く、人文科学系学部を設置している大学は本学のみである。全国的に人文科学系学部は高い入学定員充足率を保っており、人文社会科学部においても長野県内からの入学者が多数を占め、安定した学生確保の見通しがあるものと考えられる【資料7】。加えて、北陸新幹線は令和6年3月に福井県の敦賀まで開業したため、新たなる地域への学生募集も視野に入れ、取り組む予定である。

#### ④既設組織の定員充足の状況

本学の既存学部の過去5年間の志願者、受験者、入学者数は添付資料のとおりである【資料8 別紙2-1、2、3】。開設する人文社会科学部と同じ学問分野である人間学部の直近5年間の収容定員充足率の平均は1.07である。令和7(2025)年度より収容定員を増加すると共に、男女共学化をすることにより、入学対象者は今までの倍となるため、学生確保は十分にできると考える。

### (3) 学生の確保の見通し

#### ①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

新設組織で実施する取り組みの効果と、取り組みを通じた入学見込み者数を推計するため、学問系統が類似する人間学部（心理コミュニケーション学科、文化学科）の過去の実績を分析した。分析の結果、本学は併設の短期大学も含めて、複数の学校種・学部学科が一体となって広報・PR活動を実施しており、説明会や資料請求段階では志望する学部学科が「未定」となっている生徒も多く、特定の学部学科に限定した広報・PR活動の実績を分析することが困難であった（但し、オープンキャンパスは学科ごとに分析が可能であったため、【資料9、別紙3】にその結果を記載している）。そのため、「①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果」では、学部単位（人間学部）での取り組みの成果を可能な限り分析するが、新設組織（人文社会科学部）の学生確保の見通しの根拠となるデータは大学・短期大学全体の数値を活用し、学部全体で定員を満たす入学者数を確保することを示す。

#### ○人間学部での取り組みの分析結果

本学と併設する清泉女学院短期大学では、多くの志願者に対応するため、全学をあげて組織的な学生募集活動を実施してきた。新設する人文社会科学部と同学問分野である、人間学部の取組実績は以下のとおりである【資料9、別紙3】。

##### 1. オープンキャンパス

本学のオープンキャンパスは、上野キャンパス、長野駅東口キャンパスそれぞれ年間6～7回開催し、各キャンパスにおける学びを、学科教員、事務職員、学生スタッフが説明をしたり、キャンパスツアー、模擬授業、実習体験などを通して、本学の良さを伝え、来場者一人ひとりに対し、それぞれの関心に応えられる形で実施している。模擬授業の開催方法などにも工夫を凝らし、グループワークの体験などは来場者の満足度が高く、志願者確保に高い効果がある。また、本学では個別相談を重要視しており、一対一の対応で大学生活について丁寧に説明を行うことで、出願につなげている。

人間学部として、過去2年間の平均来場者数は約260人であり、このうち受験対象となる学年の参加者は150人である。さらに、参加者の約半数が志願をしている。反対に、入学者から分析すると、人間学部の入学者のうち6割以上がオープンキャンパス参加者であった。

## 2.高校等訪問

本学の入試広報部では、長野県と新潟県上越地区の高等学校を中心に訪問を日常的に繰り返し実施しており、情報提供・収集を通じて高校の先生方とのつながりを大切にしている。また、高校から依頼がある各種ガイダンスや模擬授業に積極的に出席することや、大学訪問の受け入れなど、高校生との接点の増加に努めている。本学から高校へ訪問し説明を行うほか、毎年度、高校の教員を本学に招き、各学部学科のカリキュラムや入試について説明する「高大入試連絡会」「姉妹校連絡協議会」を開催してきた。ここでは全体説明のほか、各学部のコーナーに分かれて、個別に質疑応答の場を設けている。高校の先生方から紹介してもらうことが高校生の本学への志望につながり、高校教員の推奨は志願者確保に高い効果がある。

令和4(2022)年度には、長野県内の高等学校を中心に62校へ訪問をした【資料10】。その62校から人間学部への志願者実数は118人と志願者総実数の83%を占めている。一方、大学の学生募集の取組であるオープンキャンパスに参加するといった、主体的な行動をとらずに人間学部志願した生徒が30人おり、このうち24人は高校訪問を実施した高校出身者であり、その中から13名が入学している。高校教員からの推奨により志願してきたと思われる。

これらの生徒層は大学が実施する学生募集の取組には参加していないため、出願があつて初めて把握できる層であり、各種の取組の参加状況から入学に結び付く率を推定することが困難である。しかしながら毎年、一定程度、確実に存在することを確認しておきたい。

以上のとおり、高校訪問や、本学における高校教員対象の説明会は、高校の教員を通して長野県、新潟県上越地区の高校から多くの志願者を得ることができる取組だと言える。

## 3.進学説明会

例年、長野県で進学関連事業者が主催する大学・専門学校等の進学説明会に年間10回ほど参加をしている。令和4(2022)年度に実施した進学説明会には人間学部（希望学科未定も含む）の相談に総数276人が参加したが、令和5(2023)年度入試対象者となる高校3年生で人間学部も志望としていた生徒は31人であった。進学説明会に参加する学生は高校1・2年生が多く、その年度の入試に直接つながるものではないが、年々志望校の決定が早まっている中、早期から接点をもつことは重要であると認識している。

#### 4.広報ツールの作成

本学では、様々な学生募集ツールを作成している。各学部の特徴や学びの内容を認知してもらうため、紙媒体、WEB媒体双方で広く周知活動を展開している。紙媒体で中心となる冊子形式の大学案内は、請求した学生の75%が希望学部学科を「未定」としているため、学部学科としての分析ができないが、令和5(2023)年度入試において、大学案内等の資料請求後、人間学部を受験した学生は97名(受験者の68%に相当)であり、入学した学生は84名(全入学者の80%)であった。学生からの請求に基づいて配布する媒体であり、ある程度本学への興味をもつ学生が請求してきているとはいえ、その興味を出願に導く重要な広報ツールの一つである。

また、入試情報サイトには、各学科の教育の特徴を文章や写真とともに、動画でも、わかりやすく紹介をしている。

#### 5.SNSの活用

受験生が多く利用しているSNSを通して、本学を目指す高校生に有益な情報の配信を令和5(2023)年から注力し、定期的に配信している。1か月に20件の投稿を目指し、登録者数を1,000人にする目標を掲げている。年度当初は300人だったところ、令和6(2024)年1月には650人を超え、倍以上に増加した。注力してからまだ1年経ていないため、どれだけ志願につながっているか分析できるまでに至っていない。

#### ○清泉女学院大学・清泉女学院短期大学全体での取り組みの分析結果

上記に、新学部と同学問分野である人間学部の取組実績を述べたが、本学と併設短期大学では一体化して学生募集活動を行っている。初めて本学の学生募集活動(大学案内資料請求、オープンキャンパス、進学説明会等)に参加する際には他の学部や短期大学を希望していたが、参加する中で人間学部志望変更する学生も多くおり、学部学科単位で広報PRの効果分析することは困難であった。

以上から、本学と併設する清泉女学院短期大学全体での取組実績についても分析を行い、新設組織における目標値の設定等は、大学・短期大学全体の実績を活用することとした。取組種別は、人間学部で述べた1~5と同様であるが、ここでは1.オープンキャンパス、3.進学説明会、4.広報ツールの作成(大学案内資料請求)といった、高校生が主体的に参加する学生募集取組の状況分析について重点を置き、述べることとする。

なお、短期大学の入学定員は下表のように180人と大学、短期大学の合計入学定員の過半を占めるが、令和5(2023)年度の入学者数は113人となり、入学定員充足率は62.8%

となった。一方、大学の同入学者数は 191 人、入学定員充足率は 108.5%と入学定員を充足している。先に述べる【資料 11】の表にある令和 5(2023)年度入試における大学・短期大学の合計入学者数は「261 人」は入学定員 356 人には達していないが、学生募集活動に参加した学生の入学者数を示していること、さらに短期大学の入学者が未充足であったことの影響を受けているものであることを付言したい。

既存学部・学科の構成

大学・短期大学	学部・学科	学問分野	入学定員
大学	人間学部	文学関係	100
	看護学部	保健学関係	76
短期大学	幼児教育科	教育学関係	100
	国際コミュニケーション科	文学関係	80

令和 4(2022)年度単年度での高校生が主体的に参加する学生募集活動への参加状況では、重複を排除した実数 1,093 人が参加し、令和 5(2023)年度入学定員の 86%にあたる 307 人が志願をしている【資料 11】。この人数は上記の入学定員の合計 356 人を下回っているが、大学、短大別にみると大学の志願者数は 203 人（人間学部が 102 名、看護学部が 101 名）、短大の志願者数は 104 人となっており、大学では両学部とも入学定員を超える志願者数を獲得している。

学生募集取組の中で、参加者から多くの志願に繋がった取組はオープンキャンパスである。443 人の参加者から 62%にあたる 274 人が志願している。よって、オープンキャンパスにて参加高校生に十分な本学の魅力を伝えていると考えられる。また、志願者及び入学者が参加した学生募集イベントを検証したところ、大学案内資料請求のみといった 1 つの取組だけでなく、「大学案内資料請求とオープンキャンパス」のように複数の取組に参加をしていることが示された。参加状況によって、実際の志願にどのように結びついているかを検証したところ、複数取組に参加した生徒からの志願率が高いことを実証し、かつオープンキャンパスを含む複数取組の取組に参加した生徒は志願に確実に結びついていることが示された。

また、近年は受験の多様化が進むと同時に受験期早期化の傾向があるため、高校 1、2 年次より学生募集活動に参加することが多くなってきている。中には、高校 3 年次には一斉参加せずに志願する生徒が総志願者の 1 割近くいることが判明した。よって、令和 5(2023)年度入学対象者が高校 3 年間の本学の学生募集イベント参加状況についても

同様に検証した【資料 12】。志願者のうち参加者延べ人数が 367 人（大学・短大の入学定員の 103%）、参加者実数 332 人（同入学定員の 93%）であり、本学の取組が実を結んでいることが裏付けられたと考えられる。複数取組参加についても同様に検証し単年度の参加状況による志願者移行率を比較したところ、高校 3 年生での参加が実際の志願に結びつく傾向が高いことが示された。

以上から、新設における過去の実績は以下の通りとし、本データに基づいて新設組織における入学者数等の推計を行う。

既設組織（清泉女学院大学・清泉女学院短期大学）の実績

	参加者 (a)	受験者 (b)	入学者 (c)	移行率 (b/a)	入学率 (c/a)
資料請求	634	57	40	9%	6%
オープンキャンパス	443	274	240	62%	54%
進学説明会	103	36	35	35%	34%

#### イ 収容定員を増加する組織における取組とその目標

人文社会科学部においても、既設学部での学生募集の取組をベースとしながら、さらに特別な広報戦略を立て、各種の施策を展開している。

令和 7(2025)年度入試に向けたオープンキャンパスは 8 回の開催を予定している。人文社会科学部の開設と同時に男女共学化し、それに伴う大学名変更も行うため、新たな受験者層となる男子学生にも対応した体験プログラムの準備を進めている。

高校訪問では、長野県と新潟県上越地区の高校を中心に 1 高校に対し 4～5 回、延べ 600 回の高校訪問を計画している。加えて、本学は日本カトリック学校連合会に加盟しているため、全国のキリスト教精神に根ざした高校への訪問も計画し、新たな地域への開拓を検討している。高校の先生から本学の新学部の紹介をしてもらい、オープンキャンパスへの参加に結び付け、そこから出願につなげていく。

県内において人文科学系学部を有する私立大学は本学のみである。国立や公立の大学にはあるが、これらの大学の入学者に占める県内出身者の割合は 1/4 ほどに過ぎない。一方、私学は保健系の大学が 3 校、複数学部を有する大学は中信に 1 校あるが、いずれも本学の人文社会科学部の学びの分野とは重ならない。以上の点から特に私学志向の県内男子高校生にとっては、大学進学時の選択の範囲が極めて限られていた。

人文社会科学部に設置する 2 学科はいずれも VUCA（Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性））時代の社会課

題、地域課題に対応できる総合知の獲得を目指すものであり、広く人文科学系を志向する高校生に受け入れられる学びの内容となっている。このため、特に男子学生にとっては、これまで県内私学に志望する学部がなく、やむなく県外、特に首都圏私大に進学していた状況に新たな選択肢を提供することができ、この点を高校訪問時に進路指導担当教員等に強く訴求していく。

また合わせて、人文社会科学部の指導体制が他大学等に比べて少人数教育で丁寧な指導がなされること、キャリア教育も充実していること、多様な入学試験方式や試験回数があること、試験方式によっては合格発表から入学金納入期限まで2か月ほどの猶予があること、入学前には入学金のみの納付でよく、春学期の授業料等は入学後4月末までに納付すればよいことなど、経済的負担が軽減されていることもまずは進路指導担当教員等に周知していく。

長野県の場合、公立・私立を問わず、高校生の進路選択における各校の進路指導室の影響力は大きい。こうしたことを踏まえ、人文社会科学部の特色とともに、男子高校生にとって、県内に新たな選択肢が増えることを進路指導主事の教員を中心に強調していく。

また高校の教員との接点として、例年開催している「高大入試連絡会」「姉妹校連絡協議会」の場も最大限に活用していく。前者は姉妹校以外の高校の教員を本学に招き、各学部学科のカリキュラムや入試について説明するとともに、全体説明後は各学部のコーナーに分かれて、個別に質疑応答の場を設けている。後者は長野清泉中学高等学校の教員に対し、同様の内容で開催されるものである。

いずれも本学教員（学部長等）と入試担当部署の職員に加え、学長、事務局長なども参加し、密度の濃い情報交換が行われる場となっている。

新設の人文社会科学部についても、こうした機会を最大限に活用し、学部学科の特色やカリキュラム、卒業後の進路などについて説明するとともに質問を受け、理解を深めてもらう機会とする。

進学説明会はアで述べた通り、高校1・2年生の参加が多く見込まれるため、次年度以降の入学志願につながる機会と考えている。すべて対面方式の説明会となるため、近隣県で開催される説明会にも参加していく計画だ。

広報ツールの作成では、毎年作成している学校案内のほかに、新学部・学科の特別リーフレットを作成し、常に最新の情報に更新した状態で段階的な情報発信を行う。これにより、受験生、保護者、高校の先生等に継続的にPRをするとともに、理解を深めてもらい、志願者の獲得、拡大を目指す。また、新学部・学科の特設Webサイトを開設

し、紙媒体よりも頻度高く、最新の詳細情報を発信していく。紙媒体、SNS からも双方にリンク誘導できるように設定し、親和性の高い動画コンテンツとの連動を図るなど、より相乗効果の高い訴求をしていく。さらに本学の改組の認知を高めるためにテレビコマーシャルを制作し放映している。視聴者に直感的な情報伝達ができるコマーシャルを通し、本学全体の PR につなげていく。昨年末から放映しているが、このコマーシャルを見て共学化や大学名変更を知ったという声は多く、一定の効果が表れている。

SNS の広報活用は重視しており、1 か月に 20 件の投稿を目指し、登録者数を 1,000 人にする目標を継続していく。また、対象となる受験生をセグメントして、ダイレクトメールや Web ダイレクトメールを送付・配信する等、ターゲティング広告に注力していく予定である。

学生確保に向けた具体的な取組は単体としてではなく、全てのツールや媒体がつながりを持ち、その相乗効果により受験生等への理解促進につながり、本学の志願者へと変化しているものとする。よって、都度、状況に応じ、広報戦略の見直しをしつつ学生確保の取組を実施していく。既設学部等の取組結果から、各取組の参加者が志願者への移行する比率（以下「移行率」という）を下表のように勘案し、学生募集活動各取組での目標値（単年度）を定めた【資料 13】。

既設組織（清泉女学院大学・清泉女学院短期大学）の実績に基づく

参加者目標と志願者数予想

取組	参加者数 目標値	移行率 ※注 1	志願者数
資料請求	300 人	9%	27 人
オープンキャンパス	180 人	62%	111 人
進学説明会	50 人	35%	17 人
		合計	155 人

※注 1：移行率（志願者数／参加者数）は前述した既設組織（清泉女学院大学・清泉女学院短期大学）の実績を活用した

また、人文社会科学部の告知について長野県高等学校長会の協力により、昨秋、県内北信、東信、中信、南信の校長分科会に本学事務職員が赴き、直接、共学化とともに人文社会科学部について説明する機会を得た。これにより県内公立私立の全校長に PR することができ、各校で情報が共有された。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、収容定員を増加する組織での入学者の見込み数

上記に既設の人間学部 of 学生確保に向けた取組、また新設の人文社会科学部の広報戦略について述べたが、分析の結果を踏まえ、学生募集活動全ての取組がつながりを持っていることを示した。

長野県の高校生の大学選びは次のようなプロセスをたどる。まず資料請求で興味を持った大学、また高校の先生から紹介された大学のオープンキャンパスに参加し、実際にキャンパスを見たり、模擬授業などを体験する。また、オープンキャンパスで更に興味を持った大学については、SNS で最新情報のフォローをしたり、進学説明会で個別相談を受ける。高校の行事の一環として、進学説明会に参加する高校もある。進学説明会で話を聞いたり、興味を持った大学のオープンキャンパスに参加する。大学の公式 Web サイトやパンフレットなどの広報ツールは、それぞれの機会を繋ぐ役割を果たす。このように、取組の効果を一つひとつに分けて示しにくく、それぞれが有機的に結びつき、本学への出願につながっている【資料 13】。

上記ア、イで述べた実績の分析結果、及び新設組織における取組とその目標数値に基づき、学生募集の3つの取組（大学案内資料請求、オープンキャンパス、進学説明会）ごとの入学者見込みは、下表のとおりである。なお、この合計人数は各取組参加取組の重複者を含み、実数見込みではない。

学生募集活動取組ごと参加者から入学者への移行率に基づく参加者目標

取組	参加者数 目標値	入学率 ※注2	入学者数
資料請求	300 人	6%	19 人
オープンキャンパス	180 人	54%	98 人
進学説明会	50 人	34%	17 人
		合計	134 人

※注2：入学率（入学者数／参加者数）は前述した既設組織（清泉女学院大学・清泉女学院短期大学）の実績を活用した

既設の4年制大学・短期大学の実績では各取り組みにおける入学者数の合計は315名であったが、実数としては261名であった。各取り組みにおける入学者合計と実数との差は、複数の取り組みの成果によって入学した学生が54名（17.1%）存在することを示している。前述の表「学生募集活動取組ごと参加者から入学者への移行率に基づく参

加者目標」における「入学者数」も同様に重複が 17.1%存在すると考えると 134 名の見込み入学者数の 23 名程度は重複が考えられ、実数としては 111 名の入学者が見込まれる結果となった。

本学はこれまで女子教育に特化してきた女子大である。ここまで述べてきた分析や数値は、すべて女子大時代のものであり、上記表の重複を排除した取組パターンごとの入学者見込みも女子に限ったものである。しかし人文社会科学部が開設する令和 7 (2025) 年度からは、本学は共学となることから、本学の志願候補者は計算上、倍にふくらむ。人文社会科学部でも同様である。実際には令和 7 (2025) 年度入学対象となる年代では、長野県内の男性は女性の 1.05 倍（長野県企画振興局のプレスリリースによる）、また文部科学省「令和 4 年度学校基本統計」によれば、長野県における 4 年生大学進学率は男性 52%、女性 45%となっており、これを加味すれば、男性の志願候補対象は女性の 1.2 倍となる。

令和 7(2025)年度は共学化初年度であることから、男子学生の入学は限定的と見込んだとしても、十分に入学定員の確保は可能である。さらに共学化を背景に全ての取組を効果的に機能させていくことで、段階的に男子学生の入学者比率が高まると推定することは無理がなく、人文社会科学部の入学者 72 人を継続的に確保できる見通しだ。

今回の改組として、本学では 40 人の入学定員の増加となるが、大学、短期大学一体としては入学定員が 40 人減ることとなる。これまでの学生募集活動を継続していけば、参加者の確保ができ、それはすなわち入学者確保へと繋がっていく。

## ②競合校の状況分析

ア 競合校の選定理由と収容定員を増加する組織との比較分析、優位性

○競合校の選定理由

本学の競合大学として、私立大学であり、新設する人文社会科学部と類似する学問分野の学科を設置し、関東甲信越に所在する 3 校、桜美林大学、聖心女子大学、大正大学を挙げる。

長野県には、学問分野が文学関係の学部を設置している私立大学が本学以外にない。(2)③で述べた通り、本学の学生の 90%が長野県の高校の卒業生が入学しているが、長野県の自県進学率は約 20%と低く、大学進学者は他県（主に関東地区）に流出している状況である。そのため、所在地の類似性として関東甲信越と設定した。

### 人文社会科学部 競合校一覧

大学名	学部学科	設置者	所在地
桜美林大学	グローバル・コミュニケーション学群	私立	東京
聖心女子大学	現代教養学部現代教養学科	私立	東京
大正大学	表現学部表現文化学科	私立	東京

#### ○競合校との比較分析

上記に示した競合校と本学が設置する人文社会科学部との比較表を示した【資料 14】。

教育内容では、教員一人あたりの学生数において、競合校は 32～44 人であるが、本学人文社会科学部では情報コミュニケーション学科 20.0 人、文化芸術学科では 14.2 人と少人数での教育を行っており、優位性が確認される。学生数が少ないため、教員は一人ひとりの学修状況や個性、理解度を把握しやすくなり、その結果、それぞれの学生に合わせた指導が可能となり、より効果的な、きめ細かな指導を行うことができ、各科目の学修到達目標に達しやすいと言える。

入試制度における本学の特徴は、入試実施回数が多いことである。高校 3 年生の入試実施回数を比べても、競合校と同じ回数か、それ以上である。初年時の学生納付金を比較すると、競合校より安価である。さらに、本学の特徴として、入学手続き時に必要な納付金は「入学金のみ」であることが挙げられる。入学後の 5 月に半期分の授業料と施設使用料他を納入することになっており、経済的負担の分散に努めている。

就職支援では、人文社会科学部文化芸術学科の前身にあたる、人間学部文化学科との就職率の比較を示した。本学では、就職率 100%と、大学院進学の名を除く全員が就職をしている。人間学部文化学科では、「ライフ・デザインング」を重視したキャリア教育を 1 年次から始め、人生を計画的に考える姿勢を身につけている。また、キャリア系科目に加え、カリキュラム全体で体験学習やワークショップなどの実践活動を積極的に行い、各学科の学びを社会や日常生活に活かす方法や地域の人との関わりから人間関係能力を修得し、社会のなかで自らを生かす道を探求した結果であると言える。人文社会科学部でも同様のキャリア教育を進めていく予定であり、就職支援は本学の強みである。

#### イ 競合校の入学志願動向等

(3) ②アで挙げた競合校の過去 3 年間の入学志願動向について表に示した【資料 15】。

令和 2 (2020) 年 1 月に日本国内に最初の感染者が確認された新型コロナウイルス感

染症（COVID-19）は、わずか数カ月ほどの間にパンデミックと言われる世界的な流行となった。このコロナ禍の影響が留学やインバウンドの縮小に繋がってしまい、令和3(2021)年度入試では、全国的に外国語や地域・国際といった学部で、志願者の減少幅が大きかったことは記憶に新しい。本学が挙げた競合校の中にもその影響を受け、令和3(2021)年度の入学定員充足率やその数年後の収容定員充足率に現れている学部がある。しかし、大学の学修方法が変化したこと、さらに令和5(2023)年5月に新型コロナウイルスの感染法上の分類を、季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げられ落ち着きを取り戻した結果、志願者が戻ってきており、入学定員を満たしたと考えられる。

状況は異なるものの、何れの大学でも志願者率は1.0倍を下回ることはなく、全体として類似学部、学科の志願者は安定していることが確認できる。よって、人文社会科学部でも定員充足することが見込める。

#### ウ 学生納付金等の金額設定の理由

学生納付金については、大学および学部運営に係る財務的な視点と学生納付金の学生への還元など受益者に対する説明責任の観点とを踏まえるとともに、設置県及び周辺地域における類似の学部・学科を設置している私立大学の学生納付金の設定状況を勘案した。その上で、完成年度における教育研究比率や経営経費依存率を見極めつつ、大学及び学部の運営上における人件費及び教育研究や管理運営に係る経常経費等の財務予測による実質的な採算分岐点に基づく金額として設定している。

### ③先行事例分析

人文社会科学部のうち情報コミュニケーション学科は併設する短期大学の国際コミュニケーション科の募集停止をして設置、また、文化芸術学科は人間学部文化学科の募集停止をして設置する。

まず、情報コミュニケーション学科と類似の改組を近年に行った他大学の例として、淑徳大学人文学部人間科学科との比較で検証したい。令和5(2023)年度に新学科を開設し、併設していた淑徳短期大学の募集停止を行った。この改組と本学の改組を下記の表にて比較してみると、条件の変更等が類似していることがわかる。改組後の淑徳大学人文学部人間科学科は、令和5(2023)年度の学生募集では入学定員100名に対し107名が入学している。このことより、人文社会科学部情報コミュニケーション学科は短期大学から四年制大学への改組であるが、定員充足すると見込める。

また、文化芸術学科においては、大学内での改組である。既存の人間学部文化学科か

ら条件の変更等はなく、教育をさらに充実させ、学びの内容をよりわかりやすく訴求した改組を行うため、こちらも定員充足する見込である。

#### 類似改組の比較

改組前			改組後		
大学・学科名	修業年限	学生納付金	大学・学部・学科名	修業年限	学生納付金
淑徳短期大学部 こども学科 健康福祉学科	2年	127万～ 133万円	淑徳大学 人文学部 人間科学科	4年	140万円 (約10万円増)
清泉女学院短期大学 国際コミュニケーション科	2年	123万円	清泉大学 人文社会科学部 情報コミュニケーション学科	4年	132万円 (9万円増)

#### ④学生確保に関するアンケート調査

人文社会科学部情報コミュニケーション学科、文化芸術学の設置にあたり、両学科への入学以降を把握するために、新学部進学アンケート調査を実施した【資料16】。本学に入学する90%以上の学生が長野県にある高等学校卒業をしていることを踏まえ、対象者を長野県内の高等学校(95校)、かつ令和7(2025)年度進学者である2年生に依頼を行い、4,057人から回答を得た。なお、アンケート上で「以前、本アンケートを回答した経験はありますか」といった質問を行い、「ある」と回答した結果は有効回答から削除しているため回答者が重複することはない。

アンケートの実施にあたっては、異なる2学科の調査となるため、興味のある学問分野や新学科での教育内容等については全員に回答を求め、その後に2学科のうち興味が高い学科のみに絞り、受験意向、合格後の入学意向を問う形にした。得た回答をクロス集計した結果の詳細は添付の報告書の通りであるが、抽出した表は以下の通りである。情報コミュニケーション学科、文化芸術学科への入学希望者は各々の入学定員40名、32名を上回る回答を得た。

人文社会科学部 進学アンケート まとめ

設問内容	回答	情報コミュニケーション学科	文化芸術学科
1.卒業後の進路	大学	2,844	
2.大学の設置者	私立	1,586	
3.興味のある学問分野	右欄に表示	情報コミュニケーション学	文化芸術学
		205	171
4.2つの新設組織のうち、より興味がある組織	各学科	142	110
5.新設組織の受験希望の有無	第一志望として受験する	43	37
6.新設組織に合格した場合の入学希望の有無	入学する	43	37

以上の通り、長野県での人文社会科学部への入学意向調査において、学生確保が十分に行える回答を得た。なお、長野県の高校2年生の生徒数（全日制）の生徒数は16,416人（令和5年度学校基本調査より）であり、25.7%に調査を行った結果となっている。数量的に信頼性の高い調査結果であると考えている。

さらに、他地域からの志願者、入学者を想定すれば、入学定員は十分確保できる。

#### ⑤人材需要に関するアンケート調査等

人文社会科学部情報コミュニケーション学科、文化芸術学の設置にあたり、社会的ニーズを客観的かつ定量的に把握するために、採用意向アンケート調査を実施した【資料16】。アンケート調査は、人文社会科学部の卒業予定者の就職先として想定される長野県の企業・行政等77カ所の事業所に対し調査を依頼し、33事業者から回答を得た。

本調査において、人文社会科学部の養成する人材像の社会的ニーズを質問したところ、「人材ニーズが高い」との回答を情報コミュニケーション学科は84.4%、文化芸術学科は60.6%得られた。また、人文社会科学部の卒業予定者の採用意向を質問したところ、「採用対象になる」と情報コミュニケーション学科は29事業者が回答し、採用可能人数は70人、文化芸術学科は22事業者で50人と回答を得ている。さらに、約3割の事業所では、「できれば地元大学出身者を採用したい」との回答があり、地域からの需要は高いことが証明できた。

情報コミュニケーション学科、文化芸術学科の入学定員40名、32名であるため、それを十分に上回る採用需要があると本調査により示された。

#### **(4) 収容定員を増加する組織の定員設定の理由**

人文社会科学部では、地域社会の多様な場において活躍する幅広い職業人の養成を目的として、教育内容を充実して設置することとしている。前述のとおり長野県における大学受験対象者の状況や、長野県内に所在する高等学校の在校生に対する進学需要に関する調査結果による数値などを総合的に勘案したうえで、人文社会科学部の入学定員を72名としていることから、十分な定員充足を見込めるものと判断している。

## 学生の確保の見通し等を記載した書類

### 資料目次

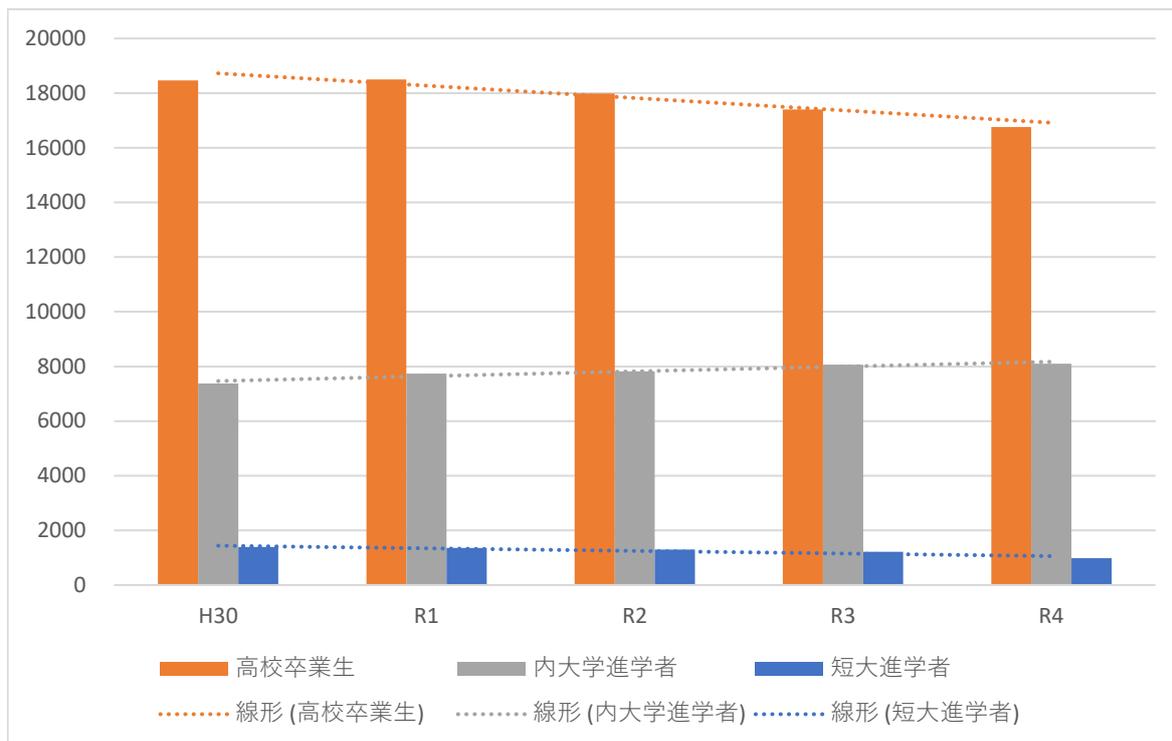
資料 1	令和 3 年度長野県進学率 -----	2
資料 2	長野県内高校出身者の大学・短期大学への進学動向 -----	3
資料 3	長野県における開設後 10 年間の大学進学者数予測 -----	4
資料 4	新設組織が置かれる都道府県への入学状況（別紙 1） -----	5
資料 5	出身高校の所在地県別入学者数 -----	6
資料 6	長野県内大学入学者動向 -----	7
資料 7	長野県私立大学学問系統別入学定員 -----	8
資料 8	既設学科等の入学定員・収容定員の充足状況（直近 5 年間） -----	9
資料 9	既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績 -----	12
資料 10	令和 4(2022)年度 高等学校訪問先一覧 -----	13
資料 11	令和 4(2022)年度学生募集活動 参加状況 -----	14
資料 12	高校 3 年間の学生募集活動 参加状況 -----	15
資料 13	人文社会科学部広報戦略 -----	16
資料 14	競合校との比較分析 -----	17
資料 15	競合校の入学志願動向 -----	19
資料 16	人文社会科学部 情報コミュニケーション学科、文化芸術学科の進学需要・ 人材需要に関する調査結果 -----	20

# (参考) 2040年の各都道府県進学者数等推計 (2021年基準) ②

	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県
18歳人口【2021】	104,150	78,433	19,807	9,656	10,574	7,584	7,768	20,242	20,034	34,622	71,537	17,458
高校等卒業者数【2021】	101,997	67,477	18,071	8,898	10,073	7,246	7,874	18,424	17,986	31,948	63,402	15,401
大学進学者数【2021】	78,180	44,498	8,698	4,561	5,607	4,104	5,018	9,269	9,760	16,879	38,573	7,864
大学進学率【2021】	75.1%	56.7%	43.9%	47.2%	53.0%	54.1%	64.6%	45.8%	48.7%	48.8%	53.9%	45.0%
大学進学率(国公立別)【2021】	6.7% : 1.0% : 67.3%	3.7% : 1.2% : 51.8%	4.0% : 9.6% : 30.4%	13.5% : 5.6% : 28.2%	13.7% : 5.2% : 34.1%	14.6% : 6.3% : 33.3%	9.5% : 5.7% : 49.9%	8.5% : 4.1% : 33.2%	3.2% : 5.1% : 36.4%	8.4% : 3.9% : 36.4%	9.6% : 3.0% : 41.3%	8.7% : 2.5% : 33.8%
短大進学率【2021】	1.9%	2.9%	3.8%	6.4%	5.7%	4.8%	5.4%	6.9%	5.4%	3.5%	3.1%	4.9%
専門学校進学率(現役)【2021】	11.8%	14.7%	24.6%	15.8%	13.5%	13.9%	17.9%	19.5%	12.4%	15.7%	12.1%	12.8%
大学数【2021】	146	32	22	5	14	6	7	11	13	14	52	7
大学数(国公立別)【2021】	12 : 2 : 132	2 : 2 : 28	3 : 4 : 15	1 : 1 : 3	2 : 4 : 8	1 : 2 : 3	1 : 2 : 4	1 : 4 : 6	1 : 3 : 9	2 : 4 : 8	4 : 3 : 45	1 : 1 : 5
入学定員【2021】	153,377	44,893	6,699	2,575	6,502	2,300	4,169	4,020	4,940	8,090	41,964	3,190
入学定員(国公立別)【2021】	9,716 : 1,570 : 142,091	1,662 : 1,130 : 42,101	2,467 : 765 : 3,467	1,770 : 495 : 310	1,726 : 590 : 4,186	855 : 450 : 995	825 : 990 : 2,334	1,978 : 960 : 1,082	1,240 : 200 : 3,500	2,145 : 935 : 5,010	3,976 : 1,764 : 36,224	1,310 : 100 : 1,780
大学入学者数【2021】	153,519	45,619	6,592	2,588	6,492	2,362	4,245	4,163	4,825	7,970	42,461	3,303
(国公立別)【2021】	10,055 : 1,592 : 141,872	1,697 : 1,174 : 42,748	2,547 : 826 : 3,219	1,832 : 480 : 276	1,764 : 620 : 4,108	895 : 485 : 982	851 : 1,075 : 2,319	2,023 : 1,007 : 1,133	1,265 : 220 : 3,340	2,166 : 1,051 : 4,753	4,092 : 1,830 : 36,539	1,335 : 102 : 1,866
県外から流入【2021】	100,599	28,384	3,132	1,640	3,813	1,083	3,012	2,276	2,679	3,165	14,960	1,554
県内から流出【2021】	25,261	27,263	5,238	3,613	2,928	2,825	3,785	7,382	7,614	12,074	11,072	6,115
流出入差(流入-流出)【2021】	75,339	1,121	-2,106	-1,973	885	-1,742	-773	-5,106	-4,935	-8,909	3,888	-4,561
自県進学率【2021】	67.7%	38.7%	39.8%	20.8%	47.8%	31.2%	24.6%	20.4%	22.0%	28.5%	71.3%	22.2%
18歳人口推計【2040】	102,821	57,768	12,502	6,165	7,369	5,142	5,006	12,557	12,172	21,904	54,496	11,241
大学進学者数推計【2040】	82,811	35,649	6,084	3,355	4,423	3,121	3,669	6,738	6,854	10,888	31,686	5,508
大学進学率推計【2040】	80.5%	61.7%	48.7%	54.4%	60.0%	60.7%	73.3%	53.7%	56.3%	49.7%	58.1%	49.0%
大学入学者数推計【2040】	124,890	37,112	5,363	2,105	5,281	1,922	3,453	3,387	3,925	6,484	34,543	2,687
(国公立別)【2040】	8,180 : 1,295 : 115,415	1,381 : 955 : 34,776	2,072 : 672 : 2,619	1,490 : 390 : 225	1,435 : 504 : 3,342	728 : 395 : 799	692 : 875 : 1,837	1,646 : 819 : 922	1,029 : 179 : 2,717	1,762 : 855 : 3,867	3,329 : 1,489 : 29,725	1,086 : 83 : 1,518
入学定員充足率推計【2040】	84.2% : 82.5% : 81.2%	83.1% : 84.5% : 82.6%	84.0% : 87.8% : 75.5%	84.2% : 78.9% : 72.4%	83.1% : 85.5% : 79.8%	85.2% : 87.7% : 80.3%	83.9% : 88.3% : 80.0%	83.2% : 85.3% : 85.2%	80% : 89.5% : 77.6%	82.1% : 91.4% : 77.2%	83.7% : 84.4% : 82.1%	82.9% : 83.0% : 85.3%
(国公立別)【2040】	84.2% : 82.5% : 81.2%	83.1% : 84.5% : 82.6%	84.0% : 87.8% : 75.5%	84.2% : 78.9% : 72.4%	83.1% : 85.5% : 79.8%	85.2% : 87.7% : 80.3%	83.9% : 88.3% : 80.0%	83.2% : 85.3% : 85.2%	80% : 89.5% : 77.6%	82.1% : 91.4% : 77.2%	83.7% : 84.4% : 82.1%	82.9% : 83.0% : 85.3%

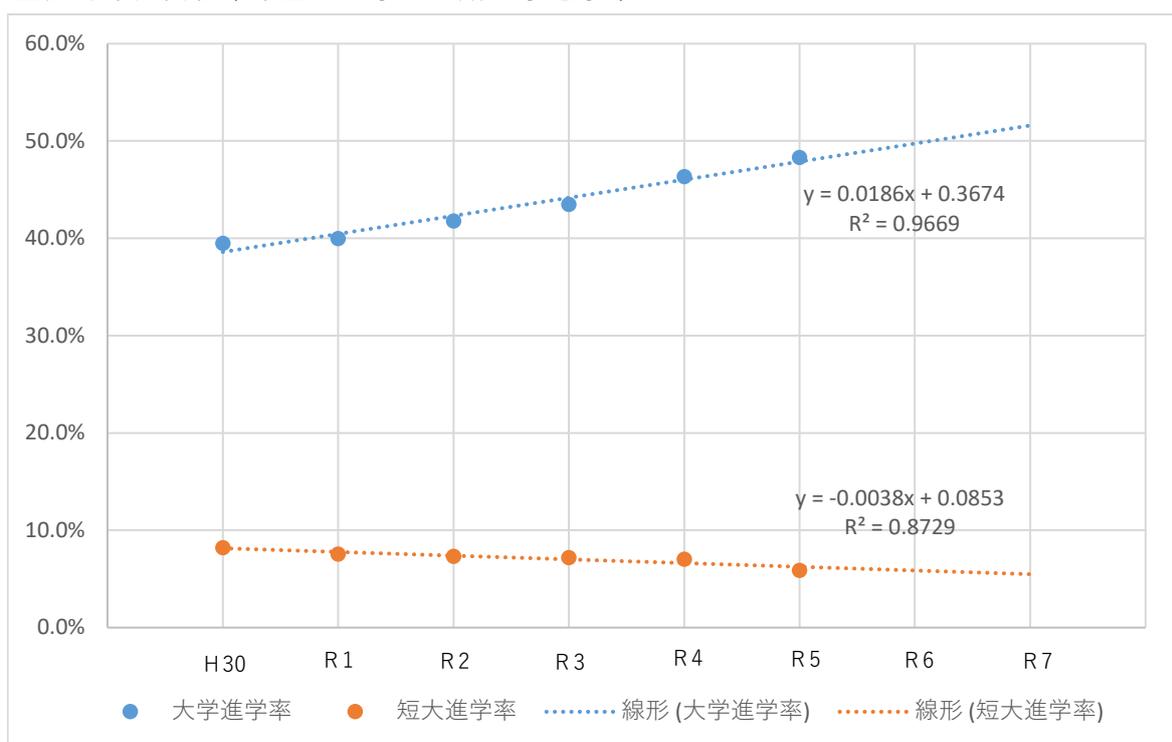
## 長野県内高校出身者の大学・短期大学への進学動向

■長野県内高校卒業生の大学・短期大学進学者数



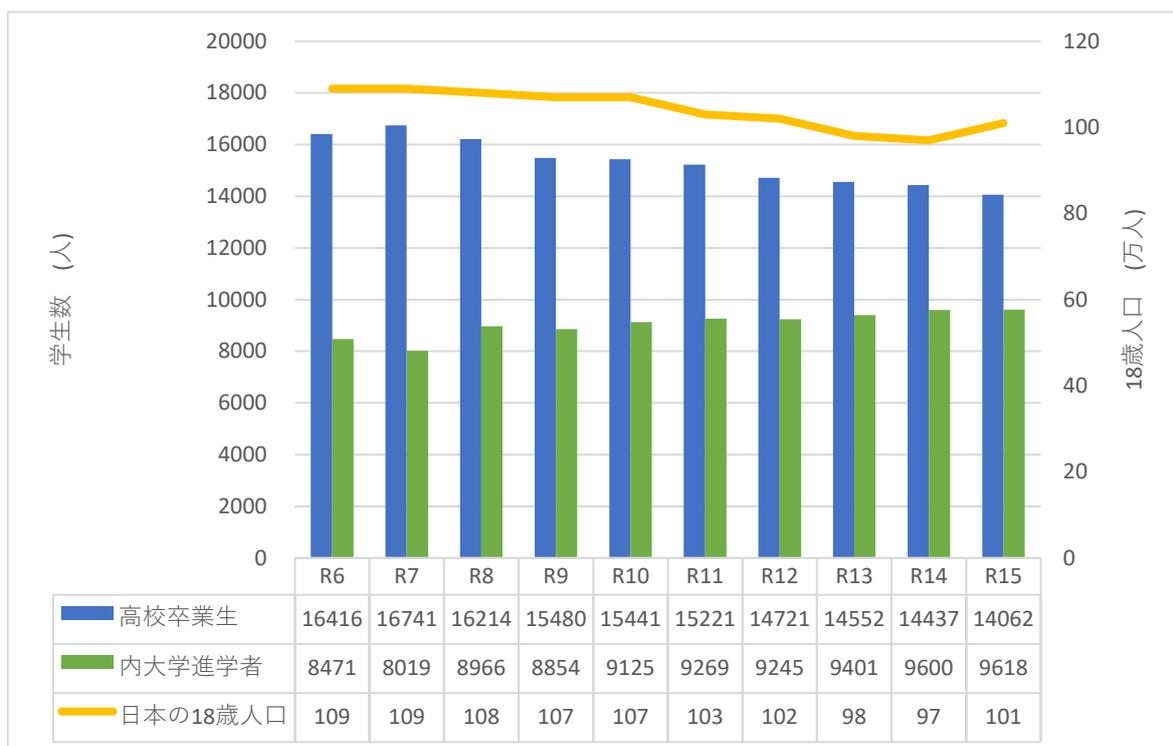
※学校基本調査より

■長野県内高校卒業生の大学・短期大学進学率



※学校基本調査より

## 長野県における、開設後10年間の大学進学者数予測



○高校卒業生算出方法：

①令和元年度～令和5年度における高等学校（全日制）卒業生/長野県18歳人口 $\div$ 0.89  
（学校基本調査より）

②各年度に18歳になる人口 $\times$ 0.89で算出

（長野県(企画振興部)「長野県の年齢別人口」令和5年4月1日プレスリリースより）

○内 大学進学者算出方法：

前述【資料2】■長野県内高校卒業生の大学・短期大学進学率グラフの  
大学進学率近似直線から導き出した数式に、上記算出した高校卒業生数を用いて算出

○日本の18歳人口：

文部科学省中央教育審議会大学分科会（第175回）会議資料

「参考資料集」より抽出

## 新設組織が置かれる都道府県への入学状況

○出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位5都道府県）※直近年度

	都道府県名	人 数	構成比
1	長野県	1,795人	43.6%
2	愛知県	276人	6.7%
3	静岡県	195人	4.7%
4	東京都	174人	4.2%
5	山梨県	128人	3.1%
	全 体	4,117人	100.0%

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合のみ作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

○新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地 (都道府県)	充足率		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
1	長野県	105.60%	103.70%	103.60%
2				

※2校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

○新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
1	人文科学	99.30%	98.93%	96.28%
2				

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

## 最近3年間の本学入学者における出身高校の所在地

## ■令和3(2021)年度 出身高校の所在地別入学者数

順位	出身高校の所在地	人数（全191人中）	割合
1	長野県	170人	89%
2	新潟県	10人	5%
3	群馬県、富山県、山梨県	2人	1%

※令和3年度 学校基本調査より

## ■令和4(2022)年度 出身高校の所在地別入学者数

順位	出身高校の所在地	人数（全172人中）	割合
1	長野県	158人	92%
2	新潟県	6人	4%
3	茨城県	4人	2%

※令和4年度 学校基本調査より

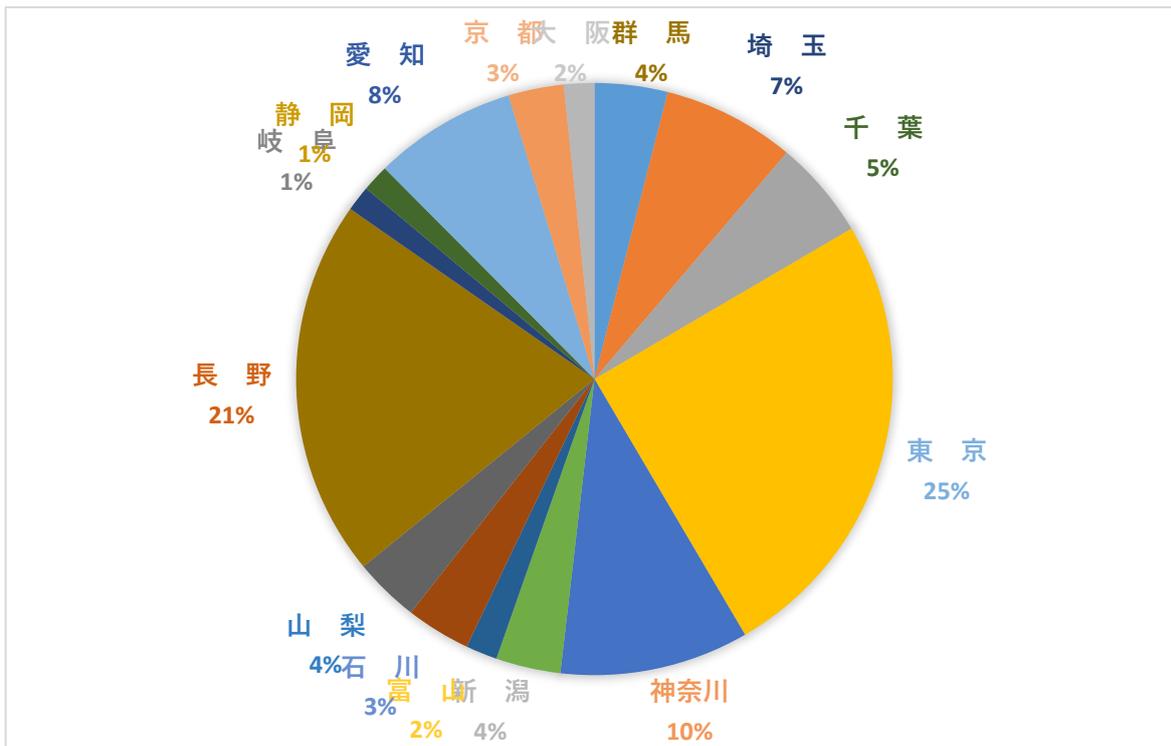
## ■令和5(2023)年度 出身高校の所在地別入学者数

順位	出身高校の所在地	人数（全191人中）	割合
1	長野県	170人	89%
2	新潟県	11人	5%
3	群馬県、富山県	2人	1%

※令和5年度 学校基本調査より

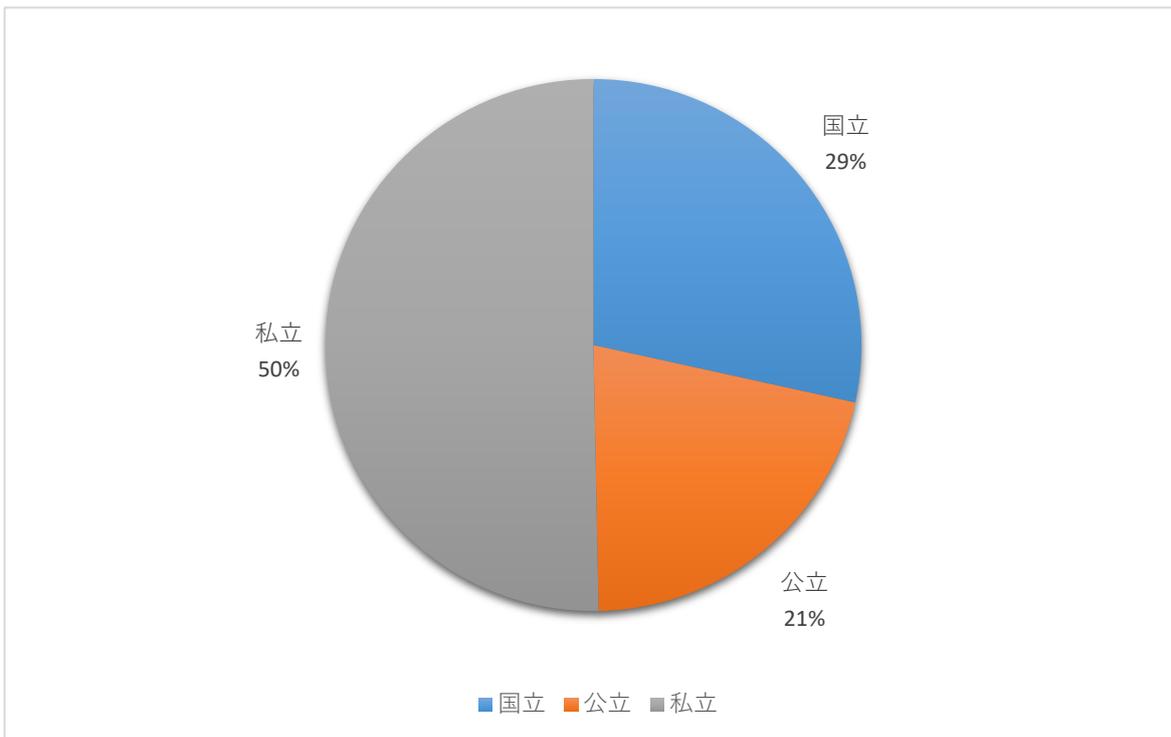
### 長野県内大学 入学者動向

■長野県内大学 入学者の出身都道府県割合



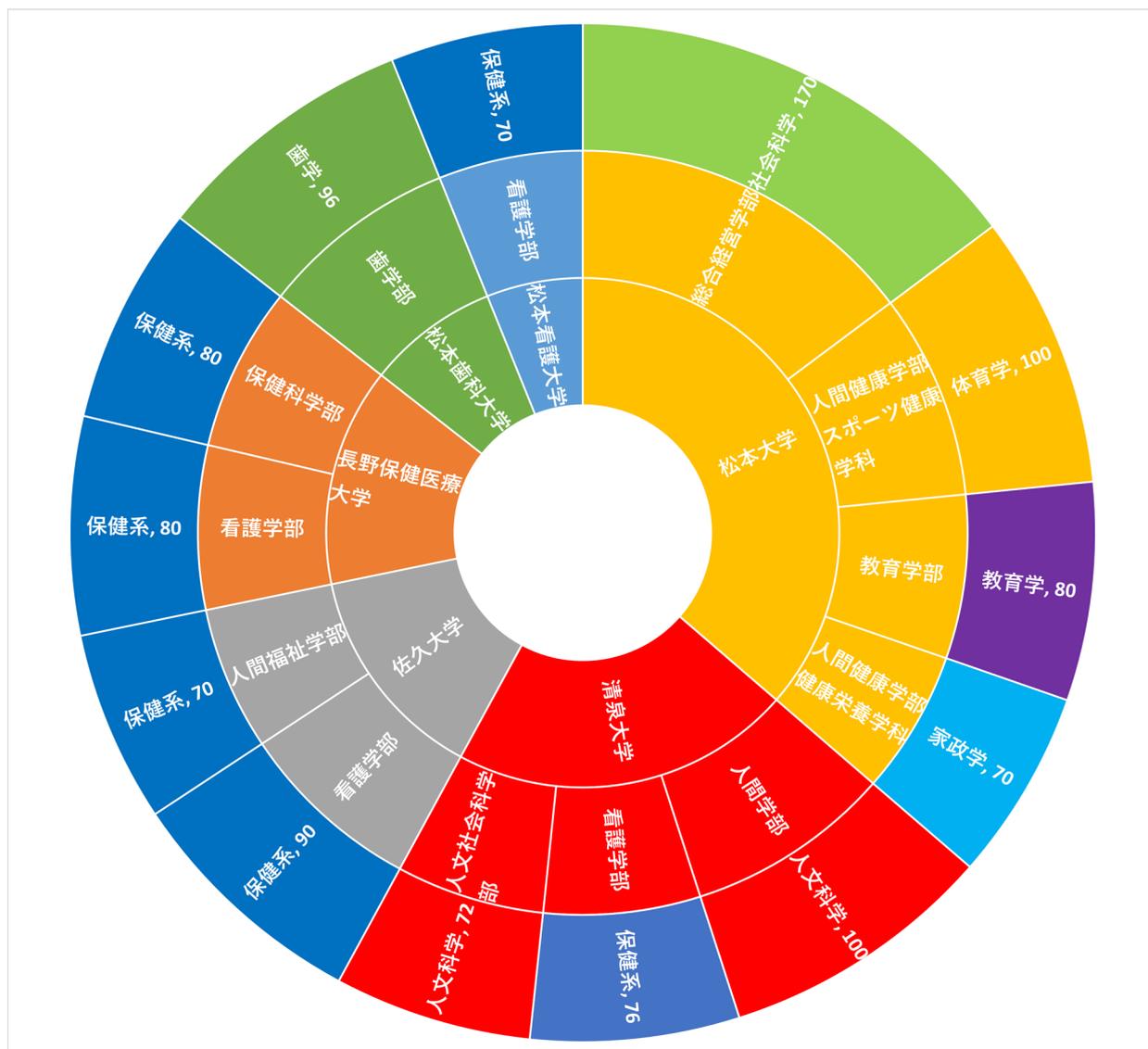
※過去5年間の平均値（学校基本調査より）

■長野県内高校の卒業生が入学した長野県内大学の分類割合



※過去5年間の平均値（学校基本調査より）

令和7(2025)年度 長野県 私立大学 学問系統別入学定員



※各大学 ホームページ「情報公開」より

既設学科等の入学定員の充足状況（直近5年間）

別紙2-1

大学学部学科等名：清泉女学院大学人間学部心理コミュニケーション学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均	
総合型選抜	募集人数	4人	4人	13人	13人	13人	9人	
	延べ人数	志願者数	9人	15人	15人	16人	19人	15人
		受験者数	9人	15人	15人	16人	19人	15人
		合格者数	9人	9人	14人	16人	19人	13人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	9人	15人	15人	16人	19人	15人
		受験者数	9人	15人	15人	16人	19人	15人
		合格者数	9人	9人	14人	16人	19人	13人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	9人	8人	14人	16人	19人	13人	
	学校推薦型選抜	募集人数	20人	20人	21人	21人	21人	21人
		延べ人数	志願者数	25人	30人	28人	27人	32人
受験者数			25人	30人	28人	27人	32人	28人
合格者数			24人	28人	27人	26人	32人	27.4
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0
辞退者数			0人	0人	0人	1人	1人	0.4
実人数		志願者数	25人	30人	28人	27人	32人	28.4
		受験者数	25人	30人	28人	27人	32人	28.4
		合格者数	24人	28人	27人	26人	32人	27.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	1人	1人	0.4
入学者数		24人	28人	27人	25人	31人	27	
一般選抜		募集人数	12人	12人	17人	17人	17人	15
		延べ人数	志願者数	43人	52人	36人	26人	29人
	受験者数		43人	51人	36人	23人	29人	36.4
	合格者数		31人	28人	31人	21人	27人	27.6
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数		9人	10人	16人	10人	16人	12.2
	実人数	志願者数	43人	52人	36人	26人	29人	37.2
		受験者数	43人	51人	36人	23人	29人	36.4
		合格者数	31人	28人	31人	21人	27人	27.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	9人	10人	16人	10人	16人	12.2
	入学者数	22人	18人	15人	11人	11人	15.4	
	共通テスト利用入試	募集人数	12人	12人	17人	17人	17人	15
		延べ人数	志願者数	64人	70人	65人	52人	54人
受験者数			64人	70人	65人	52人	54人	61
合格者数			40人	29人	49人	51人	53人	44.4
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0
辞退者数			22人	18人	34人	43人	39人	31.2
実人数		志願者数	64人	70人	65人	52人	54人	61
		受験者数	64人	70人	65人	52人	54人	61
		合格者数	40人	29人	49人	51人	53人	44.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	22人	18人	34人	43人	39人	31.2
入学者数		18人	11人	15人	8人	14人	13.2	
その他の特別選抜		募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		延べ人数	志願者数	-	-	-	-	-
	受験者数		-	-	-	-	-	#DIV/0!
	合格者数		-	-	-	-	-	#DIV/0!
	うち追加合格者数		-	-	-	-	-	#DIV/0!
	辞退者数		-	-	-	-	-	#DIV/0!
	実人数	志願者数	-	-	-	-	-	#DIV/0!
		受験者数	-	-	-	-	-	#DIV/0!
		合格者数	-	-	-	-	-	#DIV/0!
		うち追加合格者数	-	-	-	-	-	#DIV/0!
		辞退者数	-	-	-	-	-	#DIV/0!
	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0	
	合計	募集人数	48人	48人	68人	68人	68人	60人
		延べ人数	志願者数	141人	167人	144人	121人	134人
受験者数			141人	166人	144人	118人	134人	141人
合格者数			104人	94人	121人	114人	131人	113人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			31人	29人	50人	54人	56人	44人
実人数		志願者数	141人	167人	144人	121人	134人	141人
		受験者数	141人	166人	144人	118人	134人	141人
		合格者数	104人	94人	121人	114人	131人	113人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	31人	29人	50人	54人	56人	44人
入学者数		73人	65人	71人	60人	75人	69人	

3. 入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均
入学定員	48人	48人	68人	68人	68人	60
入学定員充足率	1.52	1.35	1.04	0.88	1.10	1.18
歩留率	0.70	0.69	0.59	0.53	0.57	0.62

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近5年間）

別紙2-2

大学学部学科等名：清泉女学院大学人間学部文化学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均	
総 合 型 選 抜	募集人数	5人	4人	7人	7人	7人	6人	
	延べ人数	志願者数	1人	4人	4人	12人	7人	6人
		受験者数	0人	4人	4人	12人	7人	5人
		合格者数	0人	3人	4人	10人	7人	5人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	1人	4人	4人	12人	7人	6人
		受験者数	0人	4人	4人	12人	7人	5人
		合格者数	0人	3人	4人	10人	7人	5人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	0人	0人
	入学者数	0人	3人	3人	10人	7人	5人	
	学 校 推 薦 型 選 抜	募集人数	11人	12人	9人	9人	9人	10人
		延べ人数	志願者数	14人	13人	10人	10人	6人
受験者数			14人	13人	10人	10人	6人	11人
合格者数			14人	13人	10人	9人	6人	10.4
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0
辞退者数			0人	0人	0人	0人	0人	0
実人数		志願者数	14人	13人	10人	10人	6人	10.6
		受験者数	14人	13人	10人	10人	6人	10.6
		合格者数	14人	13人	10人	9人	6人	10.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
入学者数		14人	13人	10人	9人	6人	10.4	
一 般 選 抜		募集人数	8人	8人	8人	8人	8人	8
		延べ人数	志願者数	11人	12人	14人	11人	11人
	受験者数		11人	12人	14人	10人	11人	11.6
	合格者数		6人	12人	13人	10人	11人	10.4
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数		1人	2人	7人	6人	2人	3.6
	実人数	志願者数	11人	12人	14人	11人	11人	11.8
		受験者数	11人	12人	14人	10人	11人	11.6
		合格者数	6人	12人	13人	10人	11人	10.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	1人	2人	7人	6人	2人	3.6
	入学者数	5人	10人	6人	4人	9人	6.8	
	共 通 テ ス ト 利 用 入 試	募集人数	8人	8人	8人	8人	8人	8
		延べ人数	志願者数	32人	32人	19人	22人	20人
受験者数			32人	32人	19人	22人	20人	25
合格者数			20人	21人	19人	21人	20人	20.2
うち追加合格者数			1人	0人	0人	0人	0人	0.2
辞退者数			11人	12人	12人	14人	12人	12.2
実人数		志願者数	32人	32人	19人	22人	20人	25
		受験者数	32人	32人	19人	22人	20人	25
		合格者数	20人	21人	19人	21人	20人	20.2
		うち追加合格者数	1人	0人	0人	0人	0人	0.2
		辞退者数	11人	12人	12人	14人	12人	12.2
入学者数		9人	9人	7人	7人	8人	8	
そ の 他 の 特 別 選 抜		募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		延べ人数	志願者数	-	-	-	-	-
	受験者数		-	-	-	-	-	#DIV/0!
	合格者数		-	-	-	-	-	#DIV/0!
	うち追加合格者数		-	-	-	-	-	#DIV/0!
	辞退者数		-	-	-	-	-	#DIV/0!
	実人数	志願者数	-	-	-	-	-	#DIV/0!
		受験者数	-	-	-	-	-	#DIV/0!
		合格者数	-	-	-	-	-	#DIV/0!
		うち追加合格者数	-	-	-	-	-	#DIV/0!
		辞退者数	-	-	-	-	-	#DIV/0!
	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0	
	合 計	募集人数	32人	32人	32人	32人	32人	32人
		延べ人数	志願者数	58人	61人	47人	55人	44人
受験者数			57人	61人	47人	54人	44人	53人
合格者数			40人	49人	46人	50人	44人	46人
うち追加合格者数			1人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			12人	14人	20人	20人	14人	16人
実人数		志願者数	58人	61人	47人	55人	44人	53人
		受験者数	57人	61人	47人	54人	44人	53人
		合格者数	40人	49人	46人	50人	44人	46人
		うち追加合格者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	12人	14人	20人	20人	14人	16人
入学者数		28人	35人	26人	30人	30人	30人	

3. 入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均
入 学 定 員	32人	32人	32人	32人	32人	32
入 学 定 員 充 足 率	0.88	1.09	0.81	0.94	0.94	0.93
歩 留 率	0.68	0.71	0.57	0.60	0.68	0.65

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

## 既設学科等の入学定員の充足状況（直近5年間）

大学学部学科等名：清泉女学院大学看護学部看護学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

## 1. 各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均	
総合型選抜	募集人数	-	-	18人	18人	18人	18人	
	延べ人数	志願者数	-	-	31人	22人	35人	29人
		受験者数	-	-	31人	22人	35人	29人
		合格者数	-	-	31人	22人	35人	29人
		うち追加合格者数	-	-	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	-	-	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	-	-	31人	22人	35人	29人
		受験者数	-	-	31人	22人	35人	29人
		合格者数	-	-	31人	22人	35人	29人
		うち追加合格者数	-	-	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	-	-	0人	0人	0人	0人
	入学者数	-	-	31人	22人	35人	29人	
	学校推薦型選抜	募集人数	33人	33人	25人	25人	25人	28人
延べ人数		志願者数	30人	44人	52人	63人	49人	48人
		受験者数	29人	44人	51人	61人	49人	47人
		合格者数	27人	44人	48人	54人	47人	44
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	4人	2人	5人	7人	3.6
実人数		志願者数	30人	44人	52人	63人	49人	47.6
		受験者数	29人	44人	51人	61人	49人	46.8
		合格者数	27人	44人	48人	54人	47人	44
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	4人	2人	5人	7人	3.6
入学者数		27人	40人	46人	49人	40人	40.4	
一般選抜		募集人数	40人	40人	25人	25人	25人	31
	延べ人数	志願者数	76人	86人	63人	43人	26人	58.8
		受験者数	61人	63人	61人	42人	24人	50.2
		合格者数	56人	62人	34人	32人	20人	40.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	34人	36人	18人	22人	12人	24.4
	実人数	志願者数	76人	86人	63人	43人	26人	58.8
		受験者数	61人	63人	61人	42人	24人	50.2
		合格者数	56人	62人	34人	32人	20人	40.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	34人	36人	18人	22人	12人	24.4
	入学者数	22人	26人	16人	10人	8人	16.4	
	共通テスト利用入試	募集人数	-	-	8人	8人	8人	8
延べ人数		志願者数	-	-	50人	29人	34人	38人
		受験者数	-	-	50人	29人	34人	38人
		合格者数	-	-	18人	26人	27人	24人
		うち追加合格者数	-	-	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	-	-	17人	25人	24人	22人
実人数		志願者数	-	-	50人	29人	34人	38人
		受験者数	-	-	50人	29人	34人	38人
		合格者数	-	-	18人	26人	27人	24人
		うち追加合格者数	-	-	0人	0人	0人	0
		辞退者数	-	-	17人	25人	24人	22
入学者数		-	-	1人	1人	3人	2人	
その他の特別選抜		募集人数	3人	3人	0人	0人	0人	1.2
	延べ人数	志願者数	1人	0人	-	-	-	0.5
		受験者数	1人	0人	-	-	-	0.5
		合格者数	0人	0人	-	-	-	0
		うち追加合格者数	0人	0人	-	-	-	0
		辞退者数	0人	0人	-	-	-	0
	実人数	志願者数	1人	0人	-	-	-	0.5
		受験者数	1人	0人	-	-	-	0.5
		合格者数	0人	0人	-	-	-	0
		うち追加合格者数	0人	0人	-	-	-	0
		辞退者数	0人	0人	-	-	-	0
	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0	
	合計	募集人数	76人	76人	76人	76人	76人	76人
延べ人数		志願者数	107人	130人	196人	157人	144人	147人
		受験者数	91人	107人	193人	154人	142人	137人
		合格者数	83人	106人	131人	134人	129人	117人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	34人	40人	37人	52人	43人	41人
実人数		志願者数	107人	130人	196人	157人	144人	147人
		受験者数	91人	107人	193人	154人	142人	137人
		合格者数	83人	106人	131人	134人	129人	117人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	34人	40人	37人	52人	43人	41人
入学者数		49人	66人	94人	82人	86人	75人	

## 3. 入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均
入学定員	76人	76人	76人	76人	76人	76
入学定員充足率	0.64	0.87	1.24	1.08	1.13	0.99
歩留率	0.59	0.62	0.72	0.61	0.67	0.64

（備考）特記事項がある場合は記載すること。  
平成31年度入試、令和2年度入試の「共通テスト利用入試」は共通テストの科目結果に加え個人面接を含む選考方法のため、「一般選抜」に含めて集計している。

## 既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

別紙3

## ①募集を行った学科等名称及び取組の名称：清泉女学院大学人間学部心理コミュニケーション学科のオープンキャンパス

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	163人	218人	①取組概要 受験希望者を対象としてキャンパスを開放し、学科紹介、模擬授業、体験授業、学生の体験発表、在学生との対談、キャンパスツアー、入試説明を実施。 R4年度入試対象(R3開催)：計6回開催 (3/14. 4/29. 6/13. 8/1. 9/12. 11/28) R5年度入試対象(R4開催)：計7回開催 (5/8. 6/12. 7/17. 8/6. 8/21. 7/17. 9/11) ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 受験対象者のうち、半数以上が受験し、約半数が入学。今後も学部学科の教育情報を長野県及び近隣県を中心とする高校生や保護者に対して今後も広く周知し、参加者総数を増やす必要がある
うち受験対象者数(b)	98人	106人	
うち受験者数(c)	48人	59人	
うち入学者数(d)	43人	50人	
(受験率 c/b)	49%	56%	
(入学率 d/b)	44%	47%	

## ②募集を行った学科等名称及び取組の名称：清泉女学院大学人間学部文化学科のオープンキャンパス

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	63人	78人	①取組概要 受験希望者を対象としてキャンパスを開放し、学科紹介、模擬授業、体験授業、学生の体験発表、在学生との対談、キャンパスツアー、入試説明を実施。 R4年度入試対象(R3開催)：計6回開催 (3/14. 4/29. 6/13. 8/1. 9/12. 11/28) R5年度入試対象(R4開催)：計7回開催 (5/8. 6/12. 7/17. 8/6. 8/21. 7/17. 9/11) ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 受験対象者のうち、半数以上が受験し、約半数が入学。今後も学部学科の教育情報を長野県及び近隣県を中心とする高校生や保護者に対して今後も広く周知し、参加者総数を増やす必要がある。
うち受験対象者数(b)	59人	36人	
うち受験者数(c)	24人	21人	
うち入学者数(d)	20人	20人	
(受験率 c/b)	41%	58%	
(入学率 d/b)	34%	56%	

## ③募集を行った学科等名称及び取組の名称：清泉女学院大学看護学部看護学科のオープンキャンパス

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	278人	383人	①取組概要 受験希望者を対象としてキャンパスを開放し、学科紹介、模擬授業、体験授業、学生の体験発表、在学生との対談、キャンパスツアー、入試説明を実施。 R4年度入試対象(R3開催)：計6回開催 (3/14. 4/29. 6/13. 8/1. 9/12. 11/28) R5年度入試対象(R4開催)：計7回開催 (5/8. 6/12. 7/17. 8/6. 8/21. 7/17. 9/11) ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 受験対象者のうち、半数以上が受験し、約半数が入学。今後も学部学科の教育情報を長野県及び近隣県を中心とする高校生や保護者に対して今後も広く周知し、参加者総数を増やす必要がある。
うち受験対象者数(b)	171人	150人	
うち受験者数(c)	96人	86人	
うち入学者数(d)	70人	71人	
(受験率 c/b)	56%	57%	
(入学率 d/b)	41%	47%	

## 令和4(2022)年度 高等学校訪問先一覧

No.	所在地	高等学校名	No.	所在地	高等学校名	No.	所在地	高等学校名
1	長野県	下高井農林高等学校	22	長野県	文化学園長野高等学校	43	長野県	大町岳陽高等学校
2	長野県	須坂東高等学校	23	長野県	長野日本大学高等学校	44	長野県	松商学園高等学校
3	長野県	須坂高等学校	24	長野県	上田千曲高等学校	45	長野県	松本第一高等学校
4	長野県	北部高等学校	25	長野県	上田染谷丘高等学校	46	長野県	東京都市大学塩尻高等学校
5	長野県	長野吉田高等学校	26	長野県	上田東高等学校	47	長野県	諏訪清陵高等学校
6	長野県	長野西高等学校	27	長野県	丸子修学館高等学校	48	長野県	岡谷東高等学校
7	長野県	長野商業高等学校	28	長野県	東御清祥高等学校	49	長野県	岡谷南高等学校
8	長野県	長野東高等学校	29	長野県	小諸商業高等学校	50	長野県	下諏訪向陽高等学校
9	長野県	篠ノ井高等学校	30	長野県	小諸高等学校	51	長野県	東海大学付属諏訪高等学校
10	長野県	更級農業高等学校	31	長野県	岩村田高等学校	52	長野県	長野清泉女学院高等学校
11	長野県	松代高等学校	32	長野県	野沢南高等学校	53	新潟県	柏崎総合高等学校
12	長野県	屋代高等学校	33	長野県	上田西高等学校	54	新潟県	高田高等学校
13	長野県	屋代南高等学校	34	長野県	佐久長聖高等学校	55	新潟県	高田北城高等学校
14	長野県	長野南高等学校	35	長野県	塩尻志学館高等学校	56	新潟県	高田商業高等学校
15	長野県	中野西高等学校	36	長野県	梓川高等学校	57	新潟県	新井高等学校
16	長野県	飯山高等学校	37	長野県	松本美須々ヶ丘高等学校	58	新潟県	有恒高等学校
17	長野県	中野立志館高等学校	38	長野県	松本県ヶ丘高等学校	59	新潟県	直江津中等教育学校
18	長野県	長野市立長野高等学校	39	長野県	松本蟻ヶ崎高等学校	60	新潟県	上越高等学校
19	長野県	須坂創成高等学校	40	長野県	豊科高等学校	61	新潟県	関根学園高等学校
20	長野県	長野俊英高等学校	41	長野県	穂高商業高等学校	62	新潟県	津南中等教育学校
21	長野県	長野女子高等学校	42	長野県	木曾青峰高等学校			

## ■令和5(2023)年度入試における 高校訪問を実施した高校からの志願動向

		人間学部（延べ人数）		人間学部（実数）	
志願者総数	(人)	178	—	143	—
訪問先高校からの志願者数	(人)	144	81%	118	83%
入学者総数	(人)	—		105	—
訪問先高校からの入学者数	(人)	—		93	89%

**令和 5(2023)年度 清泉女学院大学・清泉女学院短期大学入試対象者  
令和 4(2022)年度 学生募集活動の参加状況について**

■ 令和 4(2022)年度（単年度）学生募集活動への参加者数

	大学案内資料請求		オープンキャンパス		進学説明会		合計（※）	
		入学定員 との比率		入学定員 との比率		入学定員 との比率		入学定員 との比率
参加者 <sup>(ウ)</sup>	634	178%	443	124%	103	29%	1180 (1093)	331% (307%)
志願者 <sup>(ウ)</sup>	57	16%	274	77%	36	10%	367 (307)	103% (86%)
入学者 <sup>(ウ)</sup>	40	11%	240	68%	35	10%	315 (261)	89% (73%)

（令和 5(2023)年度入試における入学定員 356 名）

（※）各学生募集活動項目内の人数は実数であるが、合計の上段は参加項目の重複を含み、  
下段は重複を排除した実数である

■ 学生募集活動参加取組パターンによる志願者、入学者への移行率

参加項目	参加者 (人)	志願者 (人)	志願者へ の移行率	入学者 (人)	入学者へ の移行率	入学者/ 志願者
資料請求・オープンキャンパス・進学説明会	3	3	100%	3	100%	100%
資料請求・オープンキャンパス	47	31	66%	25	53%	81%
資料請求・進学説明会	3	1	33%	1	33%	100%
オープンキャンパス・進学説明会	31	22	71%	22	71%	100%
資料請求のみ	581	22	4%	11	2%	50%
オープンキャンパスのみ	362	218	60%	190	52%	87%
進学説明会のみ	66	10	15%	9	14%	90%

### 令和 5(2023)年度清泉女学院大学・清泉女学院短期大学入試対象者 高校 3 年間の学生募集活動参加状況

■令和 2(2020)年度～令和 4(2022)年度 3 年間の学生募集活動参加者数  
(2020 年-高校 1 学年、2021 年-高校 2 学年、2022 年-高校 3 学年)

	大学案内資料請求		オープンキャンパス		進学説明会		合計	
		入学定員 との比率		入学定員 との比率		入学定員 との比率		入学定員 との比率
参加者(人)	1530	430%	579	163%	309	87%	2418 (2007)	679% (564%)
志願者(人)	188	53%	288	81%	77	22%	553 (332)	155% (93%)
入学者(人)	158	44%	253	71%	74	21%	485 (304)	136% (85%)

(令和 5(2023)年度入試における入学定員 356 人)

(※) 各学生募集活動項目内の人数は実数であるが、合計の上段は参加項目の重複を含み、  
下段は重複を排除した実数である

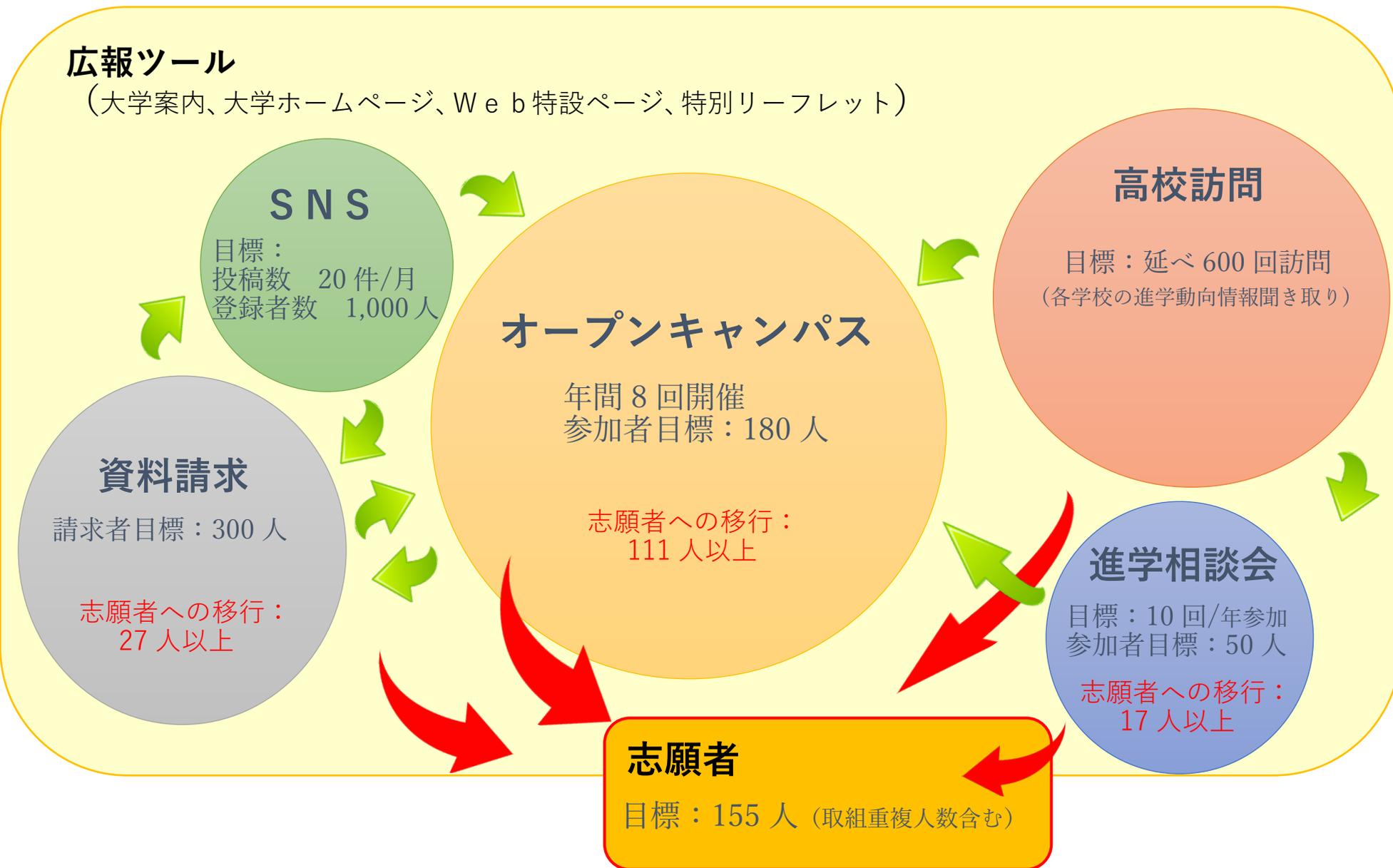
■学生募集活動参加取組パターンによる志願者、入学者への移行率

参加項目	参加者 (人)	志願者 (人)	志願者へ の移行率	入学者 (人)	入学者へ の移行率	入学者/ 志願者
資料請求・オープンキャンパス・進学説明会	55	35	64%	35	64%	100%
資料請求・オープンキャンパス	195	118	61%	103	53%	87%
資料請求・進学説明会	52	7	13%	6	12%	86%
オープンキャンパス・進学説明会	56	31	55%	30	54%	97%
資料請求のみ	1231	31	3%	14	1%	45%
オープンキャンパスのみ	272	106	39%	85	31%	80%
進学説明会のみ	146	4	3%	3	2%	75%

■人文社会科学部 広報戦略

### 広報ツール

(大学案内、大学ホームページ、Web特設ページ、特別リーフレット)



## 競合校との比較

## ■教育内容

令和 5(2023)年 5 月 1 日現在

大学名	学部学科	収容定員 (A) (人)	専任教員数 (B) (人)	S/T比 (A)/(B) (人)	海外留学プログラム 有無	インターンシップ 有無
清泉大学	人文社会科学部情報コミュニケーション学科(※)	160	8	20.0	○	○
清泉大学	人文社会科学部文化芸術学科(※)	128	9	14.2	○	○
桜美林大学	グローバル・コミュニケーション学群	1,000	24	41.6	○	○
聖心女子大学	現代教養学部国際交流学科	362	11	32.9	○	○
大正大学	表現学部表現文化学科	820	19	43.2	○	○

(※)令和 7(2025)年度予定

## ■入試 (入試方式数)

令和 6(2024)年度入試における選抜方法別の入試実施回数

大学名	学部学科	総合型 選抜	推薦型 選抜	一般 選抜	大学入試 共通テスト 利用	社会人 入試	留学生 入試	その他	合計
清泉大学	人文社会科学部	4	3	2	3	2	2	—	16
桜美林大学	グローバル・コミュニケーション学群	4	2	3	3	1	1	—	14
聖心女子大学	現代教養学部(※)	3	1	3	—	—	1	1	9
大正大学	表現学部表現文化学科	2	2	3	3	1	1	2	14

(※)令和 7(2025)年度入試予定

(※2)学部一括入試を実施しているため、学部単位での表示

## ■学生納付金、奨学制度について

令和 6(2024)年度入学における学生納付金と奨学金制度数

大学名	学部学科	学生納付金 詳細			1 年次 学納金 合計	入学手続きに 必要な納付金	奨学金制度		
		入学金	授業料	その他			授業料減免	奨学金給付	奨学金貸与
清泉大学(※)	人文社会科学部	250,000	710,000	360,000	1,320,000	入学金	1	4	4
桜美林大学	グローバル・コミュニケーション学群	100,000	914,000	350,000	1,364,000	入学金+授業料	1	3	—
聖心女子大学	現代教養学部(※2)	250,000	700,000	420,000	1,370,000	入学金+授業料	—	7	1
大正大学	表現学部表現文化学科	200,000	1,000,000	250,000	1,450,000	入学金+授業料	2	6	—

(※)令和 7(2025)年度入試予定

(※2)学部一括入試を実施しているため、学部単位での表示

## ■就職支援の内容

令和 4(2022)年度卒業生の就職状況

大学名	学部学科	卒業生数 (人)			就職率 (%)
		総数	就職者	進学者	
清泉女学院大学	人間学部文化学科(※)	28	26	2	100
桜美林大学	グローバル・コミュニケーション学群	236	183	4	78.9
聖心女子大学	現代教養学部	546	444	53	90.1
大正大学	表現学部表現文化学科	185	165	3	90.7

(※)人文社会科学部文化芸術学科の前身組織

(以上、各大学のホームページ「情報公開」より引用)

## 競合校の入学志願動向

## ■桜美林大学 グローバル・コミュニケーション学群

年度	入学定員 (人)	志願者数 (人) (志願倍率)	合格者数 (人)	入学者数 (人)	入学定員 充足率	収容定員 (人)	在籍者数 (人)	定員充足率
令和 3(2021)	250	1,652 (6.61)	948	204	0.82	1,000	1,011	1.01
令和 4(2022)	250	1,702 (6.81)	1,288	213	0.85	1,000	946	0.95
令和 5(2023)	250	2,025 (8.10)	1,431	255	1.02	1,000	934	0.93

## ■聖心女子大学 現代教養学部 (学部単位での入学選抜を実施)

年度	入学定員 (人)	志願者数 (人) (志願倍率)	合格者数 (人)	入学者数 (人)	入学定員 充足率	収容定員 (人)	在籍者数 (人)	定員充足率
令和 3(2021)	490	1,554 (3.17)	844	576	1.18	2,050	2,381	1.16
令和 4(2022)	490	1,364 (2.78)	898	575	1.17	2,050	2,353	1.15
令和 5(2023)	490	1,317 (2.69)	893	599	1.22	2,050	2,389	1.17

## ■大正大学 表現学部表現文化学科

年度	入学定員 (人)	志願者数 (人) (志願倍率)	合格者数 (人)	入学者数 (人)	入学定員 充足率	収容定員 (人)	在籍者数 (人)	定員充足率
令和 3(2021)	205	1,344 (6.56)	482	215	1.05	820	855	1.04
令和 4(2022)	205	989 (4.82)	619	269	1.31	823	884	1.07
令和 5(2023)	205	1,092 (5.33)	482	225	1.10	826	915	1.11

(以上、各大学のホームページ「情報公開」、大学ポートレート(私学版)から引用)



人文社会科学部  
情報コミュニケーション学科、文化芸術学科の  
進学需要・人材需要に関する調査結果

2024年 2月



■ 進学需要に関する調査	4
調査概要	
調査書	
提示資料	
アンケート協力校一覧	
調査結果	
■ 人材需要に関する調査	28
調査概要	
調査書	
提示資料	
アンケート協力企業一覧	
調査結果	

# 進学需要に関する調査

## ▶ 調査目的

- ✓ 学校法人 清泉女学院が計画している「情報コミュニケーション学科、文化芸術学科（仮称）」の設置について、長野県の高校に在籍する高校2年生に興味度・進学検討意向調査から進学需要を確認する。

## ▶ 調査対象

- ✓ 長野県にある高等学校に在籍する高校2年生
  - ・ 調査対象校に事前に調査協力を依頼し、許諾を得た対象校へ調査票を送付。ホームルームなどで、QRコードが付されたリーフレット（提示資料）を配布、学生はQRコードを読み込むことでアンケートの回答を行った。

## ▶ 調査期間

- ✓ 令和5年 9月 1日～令和6年 1月31日

## ▶ 有効回収数

- ✓ 回答数：95校 4057人

## 清泉女学院大学 人文社会科学部 情報コミュニケーション学科、文化芸術 学科（仮称）に関するアンケート

清泉女学院大学は2025年4月に「男女共学化」し、「人文社会科学部（情報コミュニケーション学科、文化芸術学科）」を新設する予定です。

この調査は、高校生の皆さんに、高等学校卒業後の進路の意向をお伺いし、人文社会科学部（情報コミュニケーション学科、文化芸術学科）の構想を検討する上での基礎資料とするものです。

調査結果は統計資料としてのみ用い、外部の人に見せたりすることはありません。別紙リーフレットを参考にいただき、回答のご協力をお願いいたします。

- リーフレット及びアンケートに記載されている事項はすべて予定であり、内容が変更になる可能性があります。
- 清泉女学院大学は2025年度に共学化を予定しています。男子高校生も入学対象となりますので、ご回答をお願いします。

\* 必須の質問です

次頁より、アンケート内容となります。

なお、赤字で「\*」と記載がある質問は必ずお答えください。

ご自身について教えてください

1. Q1. あなたの高校名を入力してください\*

\_\_\_\_\_

2. Q2. あなたの学年を次から選んでください\*

1つだけマークしてください。

1年生

2年生

3年生

その他: \_\_\_\_\_

## 3. Q3. あなたの性別を次から選んでください\*

1つだけマークしてください。

- 男性  
 女性  
 回答しない

あなたの進路について教えてください。

## 4. Q4. ご自身の今後の進学に関するお考えを教えてください\*

1つだけマークしてください。

- 大学・短期大学・専門学校・専門職大学・専門職短期大学などへ、進学を考えている  
 進学を考えていない（アンケートは終了となります）

あなたの進路について教えてください。

5. Q5. あなたは高校を卒業後、どのような進路に進みたいと思っていますか。\*  
当てはまる選択肢を全て選んで、✓をつけてください。（複数回答可）

当てはまるものをすべて選択してください。

- 大学  
 短期大学  
 専門職大学  
 専門職短期大学  
 専門学校  
 就職  
 その他: \_\_\_\_\_

6. Q6. あなたが志望する設置者（国立・公立・私立）の希望について、あてはまる選択肢を全て選んで、✓をつけてください。（複数回答可） \*

当てはまるものをすべて選択してください。

- 国立  
 公立  
 私立

7. Q7. あなたはどのような学びの分野に興味がありますか。 \*  
あてはまる選択肢を全て選んで、✓をつけてください。（複数回答可）

- ※1 情報コミュニケーション学とは高度情報化社会のなかで必要となるコミュニケーションに関する学びができます。
- ※2 文化芸術学とは文化に関する幅広い学びと、デザイン・芸術に関する学びができます。

当てはまるものをすべて選択してください。

- 情報コミュニケーション学※1  
 文化芸術学※2  
 文学・史学・哲学  
 商学・経済学  
 応用化学・応用理学  
 数学・物理学  
 化学・生物学  
 法学・政治学  
 社会学  
 教育学・体育学  
 農学・農芸化学  
 獣医学畜産学  
 美術・デザイン・音楽  
 医学・歯学・薬学  
 看護学  
 国際学  
 教養学  
 人間科学  
 家政学・食物学・児童学・被服学  
 電気通信工学・機械工学・土木建築工学  
 その他

質問8にスキップします

清泉女学院大学 人文社会科学部（情報コミュニケーション学科、文化芸術学科）について

ここからは、現在設置計画中の「清泉女学院大学 人文社会科学部（情報コミュニケーション学科、文化芸術学科）」についてお聞きします。**配付したリーフレットをお読みいただいた後、お答えください。**

◀ 学部学科構成 ▶

人文社会科学部

情報コミュニケーション学科

- ・グローバルコース
- ・経営ビジネスコース
- ・ITコース

文化芸術学科

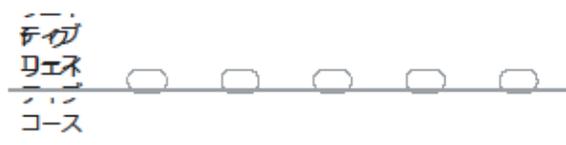
- ・文化コース
- ・地域づくりコース
- ・クリエイティブコース

8. Q8. 清泉女学院大学 人文社会科学部（情報コミュニケーション学科、文化芸術学科）はそれぞれ3つのコースがあり、2025年に下記のa~fの特色をもって開設する予定です。下記のa~fがどの程度魅力があるかお答えください。

清泉女学院大学 人文社会科学部（仮称）の特色	
情報 コミュニケーション 学科	a 「グローバルコース」では 国際交流、異文化理解、カンガルー英語などの国際的学習ができる。
	b 「経営ビジネスコース」では 経営学、ビジネス、デジタルマーケティングなど、経営・ビジネスに関する学びができる。
	c 「IT」コースでは AI、プログラミング、アプリ開発などの情報に関する学びができる。
文化芸術学科	d 「文化コース」では 文化、芸術、歴史、芸術など、文化的な視点と豊かになることができる。
	e 「地域づくりコース」では 地域政策、地域住民、まちづくりなど、公務員を希望する人にも対応した学びができる。
	f 「クリエイティブコース」では デザイン、メディア、ゲーム、アニメーションについて学び、創作も行えることができる。

1行につき1つだけマークしてください。

	大いに 魅力的 である	魅力的 である	やや魅 力的で ある	魅力的 でない	全く魅 力的で ない
a グ ローバ ルコー ス	<input type="radio"/>				
b 経 営ビジ ネスコー ス	<input type="radio"/>				
c IT コース	<input type="radio"/>				
d 文 化コー ス	<input type="radio"/>				
e 地 域づく りコー ス	<input type="radio"/>				
f ク リエイ	<input type="radio"/>				



9. Q9. あなたは「清泉女学院大学 人文社会科学部（情報コミュニケーション学<sup>\*</sup>科、文化芸術学科）」が開設された場合、どちらの学科により興味をもちますか？ 最もあてはまる選択肢を一つ選んでください。

1つだけマークしてください。

- 情報コミュニケーション学科（グローバルコース、経営ビジネスコース、ITコース）  
質問 10 にスキップします
- 文化芸術学科（文化コース、地域づくりコース、クリエイティブコース）  
質問 12 にスキップします
- どちらにも興味がない 質問 14 にスキップします

清泉女学院大学 人文社会科学部 情報コミュニケーション学科 についてお聞きします。

10. Q10. あなたは、「清泉女学院大学 人文社会科学部 情報コミュニケーション学科（グローバルコース、経営ビジネスコース、ITコース）」が開設された場合、受験を希望しますか。最もあてはまる選択肢を一つ選んでください。

1つだけマークしてください。

- 第1志望として受験する
- 第2志望として受験する
- 第3志望以降として受験する
- 受験しない 質問 14 にスキップします

清泉女学院大学 人文社会科学部 情報コミュニケーション学科 についてお聞きします。

11. Q11.Q10で「1. 第一志望として受験する」「2. 第二志望として受験する」「3. 第三志望以降として受験する」を選択された方に質問です。

「清泉女学院大学 人文社会科学部 情報コミュニケーション学科（グローバルコース、経営ビジネスコース、ITコース）」を受験して合格した場合、入学を希望しますか。最もあてはまる選択肢を一つ選んでください。

1つだけマークしてください。

- 入学する 質問 14 にスキップします
- 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する  
質問 14 にスキップします
- 入学しない 質問 14 にスキップします

清泉女学院大学 人文社会科学部 文化芸術学科についてお聞きます。

12. Q12. あなたは、「清泉女学院大学 人文社会科学部 文化芸術学科（文化コース、地域づくりコース、クリエイティブコース）」が開設された場合、受験を希望しますか。最もあてはまる選択肢を一つ選んでください。

1つだけマークしてください。

- 第1志望として受験する
- 第2志望として受験する
- 第3志望以降として受験する
- 受験しない 質問 14 にスキップします

清泉女学院大学 人文社会科学部 文化芸術学科についてお聞きます。

13. Q13.Q12で「1. 第一志望として受験する」「2. 第二志望として受験する」「3. 第三志望以降として受験する」を選択された方に質問です。

「清泉女学院大学 人文社会科学部 文化芸術学科（文化コース、地域づくりコース、クリエイティブコース）」を受験して合格した場合、入学を希望しますか。最もあてはまる選択肢を一つ選んでください。

1つだけマークしてください。

- 入学する 質問 14 にスキップします
- 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する  
質問 14 にスキップします
- 入学しない 質問 14 にスキップします

#### 本アンケートについて

14. Q14. あなたは、以前本アンケートに回答した経験がありますか。\*

1つだけマークしてください。

- ある
- ない

15. Q15. 清泉女学院大学 人文社会科学部（情報コミュニケーション学科、文化芸術学科（仮称））に関してお気づきの点など、あれば記載してください。

---

---

---

---

---

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。

Google フォーム



SEISEN JOGAKUIN COLLEGE  
清泉女学院大学  
清泉女学院短期大学

NEXT STAGE  
for  
SEISEN



## 2025年4月 男女共学化

### 高校生の皆さんへ

長野市上野と長野駅東口にキャンパスをもつ清泉女学院大学では、2025年4月から全学部全学科で男女共学化するとともに、新たに人文社会科学部を設け、同学部の中に「情報コミュニケーション学科」と「文化芸術学科」を設置します。

より充実したカリキュラムとなるよう、高校生の皆さんからのお声を聞かせていただきたいと存じます。

中面の両学科の説明文をお読みになり、**右にあるQRコード** を読み取ってアンケートフォームにお進みください。回答時間の目安は、3分です。よりよい教育を提供するため、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

清泉女学院大学 経営企画室

こちらのQRコードから  
アンケートにお答えください  
よろしくお願いいたします



※本リーフレットの内容は2023年8月末時点の計画中的ものです。今後、文部科学省へ設置認可申請予定であり、変更となる場合もあります

## 人文社会科学部とは

～分野を超えた学びで「総合知」を養い、社会課題解決に挑む～

人文社会科学部は「**情報コミュニケーション学科**」と「**文化芸術学科**」の2学科で構成し、各学科とも3つの緩やかなコース制を設けます。これにより「ボーダレス」に、そして「複合的に」学びを深めます。多彩な学びの領域を横断し、幅広い視野と知識を身に付けるとともに、自由な発想と柔軟に活用していく力を育み、変化の激しい時代の複雑化する社会課題に取り組みます。分野を超えた学びで、課題解決に至る道筋を描くことができる“総合知”を養います。

こんな方にお勧めです！

### 情報コミュニケーション学科

(ケース1)

大学では異文化理解や外国語を学びたいと考えており、留学にも興味がある。国際化がさらに加速する中、デジタルリテラシーも修得しながら異文化コミュニケーションを学びたい。⇒グローバルコース

(ケース2)

これから情報化、デジタル化がさらに進むことを考えると、最低限のことは理解したうえでマーケティングや経営、ビジネスのことを深く学びたい。⇒経営ビジネスコース

(ケース3)

高校まで文系だった自分にはプログラミングなどは無理だと思っていた。しかし、初歩からIT（情報技術）やAI、データサイエンスのことを学べるチャンスがあるのなら、ぜひ学んでみたい。⇒ITコース

3つのコースで文系・理系の垣根を超えて学びます。(ケース2)のようにITのことも学びつつ自分の興味がある分野、例えばグローバルとビジネスを組み合わせた学びを探究することもできます。デジタルスキルを基盤として3つのコースで専門知識を深め、地域でもグローバルな舞台でも活躍できる力を身につけます。

#### ■想定される進路

- ・一般企業（販売促進、マーケティング、システム、国際部門など）
- ・IT企業 ・調査会社、マーケティング会社 ・旅行・観光関連企業
- ・大学院進学 ・海外留学 など

#### ■目指せる資格の例

- ◎ITパスポート試験 ◎基本情報技術者試験 ◎情報セキュリティマネジメント試験 ・上級情報処理士
- ・上級秘書士（メディカル秘書） ・日商簿記 ・証券外務員1種 ◎ファイナンシャル・プランナー（FP）
- ・TOEIC ・ハンゲル検定 など（◎は国家資格）



#### グローバルコース

国際交流、異文化理解、ハンゲル、英語などの学びが中心のコース

#### 経営ビジネスコース

デジタルマーケティング、ビジネス調査法など現代の経営ビジネスを学ぶコース

#### ITコース

初歩からコンピュータサイエンスやAI活用、プログラミングなども学べるコース



## 文化芸術学科

こんな方にお勧めです！

### 文化コース

歴史、美術、芸術、文化などの学びを深め、文化的視点を身に付けるコース

### 地域づくりコース

地域政策、地域産業、まちづくりなどを学び、公務員希望者にも対応するコース

### クリエイティブコース

デザイン、3DCG、ゲーム、アニメなどについて学び、創作も行うコース

(ケース1)

アートや芸術に興味がある。人々の営みの中から生まれてきた様々な文化芸術の歴史を学び、それをマネジメントして広く知らしめ、次の世代に繋いでいきたい。➡文化コース

(ケース2)

自分が暮らしてきた地域の「社会システム」はどうなっているのか。フィールドワークや実際にイベントを企画することで「まちづくり」について考え、地域の発展に貢献したい。➡地域づくりコース

(ケース3)

芸術学部は敷居が高くて敬遠してしまうが、モノを描いたり、創造することが好き。ポップカルチャーにも興味がある。IT技術を用いた創作活動についても学びたい。➡クリエイティブコース

3つのオープンコース制。人間が生み出してきたすべてのものを「文化芸術」ととらえて学びます。様々なフィールドワークを通して専門知識を深め、プロジェクトの企画、実践を行います。人生を豊かにする「文化芸術」。自分の「好き」や「得意」なものについて追求し、さらに未来を考える力を身に付けます。

#### ■想定される進路

- ・一般企業（商品企画、広報など） ・金融機関 ・イベント企画会社
- ・出版社 ・公務員 ・博物館等学芸員 ・図書館司書 ・大学院進学など

#### ■目指せる資格の例

- ◎学芸員 ◎司書 ・カラーコーディネーター ・美術検定 ・Webクリエイター
- ◎ITパスポート試験 ・日商PC検定 など (◎は国家資格)

## 清泉女学院大学は2025年4月に大学名を変更します

(2023年12月に新大学名を発表する予定です)

1934年11月、スペインの聖心侍女修道会から、4名の修道女（シスター）が来日、第二次世界大戦中に長野県野沢温泉村への疎開を余儀なくされたシスター達が終戦後、長野に残ることを決意したことによって、清泉が長野に誕生しました。その後1981年に短大を、2003年には大学を開設しました。

2019年には既存の「上野キャンパス」に加えて、「長野駅東口キャンパス」を設け看護学部を新設、2021年に大学院（看護学研究科）、助産学専攻科を相次ぎ開設、地域とともに歩み、地域に貢献する大学として進化してきました。そして2025年4月、共学化、新学部設置により、新たな歴史を築きます。

## ■情報コミュニケーション学科アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

情報コミュニケーション学科では、情報コミュニケーション分野に関する教育研究を通じて、「高度情報社会のなかで必要となるコミュニケーションスキルを有し、人文科学を基盤としてビジネス、グローバル、デジタルに関する知識を関連させながら学際的・総合的に学び、情報・データの活用と他者とのコミュニケーションを通じて課題解決に貢献できる人材を育成することを目指す」ため、以下のような興味と関心、学修意欲を有する者を受け入れる。

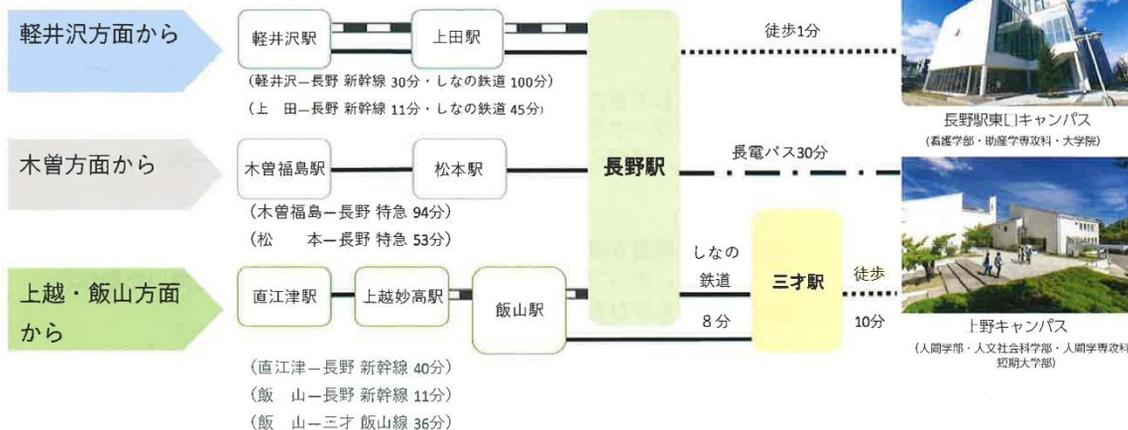
- (1) 基礎的教養・知識の学修、コミュニケーションスキルの向上に意欲的に取り組める人
- (2) 高度情報社会のなかで求められる専門的知識を探索し、資格取得や複合的分野の学びに意欲がある人
- (3) 日々の学修や活動を通して他者と積極的に関わり、そうした知識や経験を総合的に活用した社会課題の解決策を考えることに関心がある人

## ■文化芸術学科アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

文化芸術学科では、文化芸術分野に関する教育研究を通して、「文化芸術に関する諸学の幅広く学際的な知識と自らが所属する社会、地域、共同体の多様性・多元性の正しい理解に基づき、行動力をもって文化の諸活動を主体的に行い、文化芸術の創造に貢献し、文化芸術の学びを課題解決につなげられる人材を育成することを目的とする」ため、以下のような興味と関心、学修意欲を有する者を受け入れる。

- (1) 過去から現代に続く文化芸術を読み解き、創造することに関心のある人
- (2) 文化芸術をマネジメントして、社会に貢献したい人
- (3) 社会や企業で、発想力、企画力、創造力を生かして活躍したい人
- (4) 社会の様々な問題に関心を持ち、フィールドワーク等も通じて現状を分析し、解決策を考えることに関心がある人

## ● アクセス・アクセスマップ



## ● 設置概要

学部名称	人文社会科学部
学科名称	情報コミュニケーション学科 文化芸術学科
取得可能学位	学士（人文社会科学）
入学定員	情報コミュニケーション学科 40名 文化芸術学科 32名
学費	初年度 1,270,000円 2年次以降 1,020,000円
設置場所	長野県長野市上野 2丁目120-8

## ● 近隣の類似する学部がある大学

- ・信州大学 …… 文学学部
- ・富山大学 …… 芸術文化学部
- ・山梨英和大学 …… 人間文化学部
- ・敬和学園大学 …… 文学学部
- ・新潟国際情報大学 …… 国際学部



SEISEN JOGAKUIN COLLEGE  
清泉女学院大学  
清泉女学院短期大学

TEL:026-295-1314

<https://www.seisen-jc.ac.jp/>

清泉女学院大学 検索

※大学名 名称変更予定

- 人間学部 心理コミュニケーション学科  
心理コース/英語コミュニケーションコース
- 看護学部 看護学科
- 人文社会科学部 情報コミュニケーション学科 (仮称)  
文化芸術学科 (仮称)
- 専攻科 人間学専攻科  
助産学専攻科
- 大学院 看護学専攻科
- 短期大学部 幼児教育科 (2024年度までは清泉女学院短期大学)

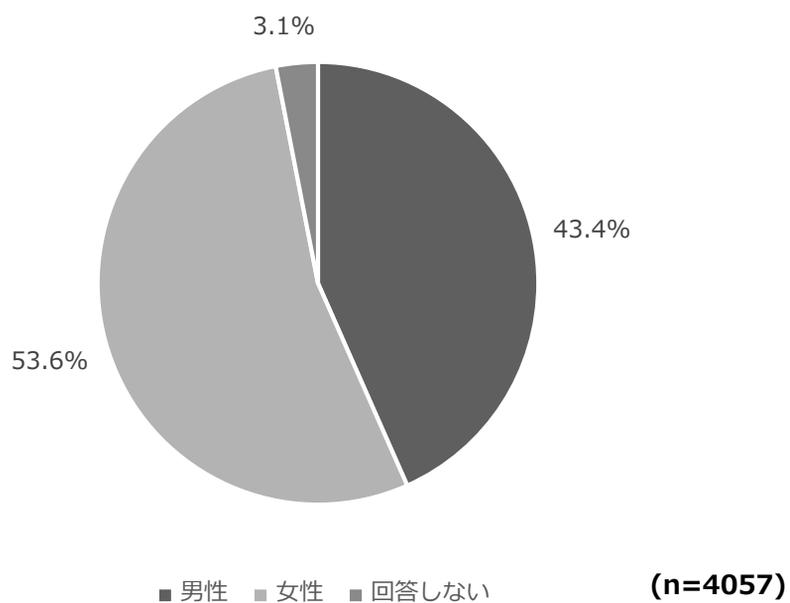
※人文社会科学部は2025年4月開設予定（設置構想中）

1	飯山高等学校
2	下高井農林高等学校
3	中野立志館高等学校
4	中野西高等学校
5	須坂東高等学校
6	須坂高等学校
7	須坂創成高等学校
8	北部高等学校
9	長野吉田高等学校
10	長野高等学校
11	長野西高等学校
12	長野商業高等学校
13	長野東高等学校
14	長野工業高等学校
15	長野西高等学校中条校
16	篠ノ井高等学校犀峡校
17	市立長野高等学校
18	長野南高等学校
19	篠ノ井高等学校
20	更級農業高等学校
21	松代高等学校
22	屋代高等学校
23	屋代南高等学校
24	坂城高等学校
25	上田千曲高等学校
26	上田高等学校
27	上田染谷丘高等学校
28	上田東高等学校
29	丸子修学館高等学校
30	蓼科高等学校
31	小諸商業高等学校
32	小諸高等学校
33	軽井沢高等学校
34	佐久平総合技術高等学校
35	岩村田高等学校
36	野沢北高等学校
37	野沢南高等学校
38	小海高等学校
39	富士見高等学校
40	茅野高等学校
41	諏訪実業高等学校
42	諏訪清陵高等学校
43	諏訪二葉高等学校
44	下諏訪向陽高等学校
45	岡谷東高等学校
46	岡谷南高等学校
47	岡谷工業高等学校
48	辰野高等学校

49	上伊那農業高等学校
50	高遠高等学校
51	伊那北高等学校
52	伊那弥生ヶ丘高等学校
53	赤穂高等学校
54	駒ヶ根工業高等学校
55	松川高等学校
56	飯田高等学校
57	飯田風越高等学校
58	飯田OIDE長姫高等学校
59	下伊那農業高等学校
60	阿智高等学校
61	阿南高等学校
62	蘇南高等学校
63	木曽青峰高等学校
64	塩尻志学館高等学校
65	田川高等学校
66	梓川高等学校
67	松本工業高等学校
68	松本県ヶ丘高等学校
69	松本美須ヶヶ丘高等学校
70	松本深志高等学校
71	松本蟻ヶ崎高等学校
72	明科高等学校
73	豊科高等学校
74	南安曇農業高等学校
75	穂高商業高等学校
76	池田工業高等学校
77	大町岳陽高等学校
78	白馬高等学校
79	松本筑摩高等学校
80	長野清泉女学院高等学校
81	長野女子高等学校
82	文化学園長野高等学校
83	長野日本大学高等学校
84	長野俊英高等学校
85	上田西高等学校
86	佐久長聖高等学校
87	東海大学付属諏訪高等学校
88	伊那西高等学校
89	飯田女子高等学校
90	東京都市大学塩尻高等学校
91	松商学園高等学校
92	松本国際高等学校
93	松本第一高等学校
94	エクセラン高等学校
95	日本ウェルネス長野高等学校

## 調査結果

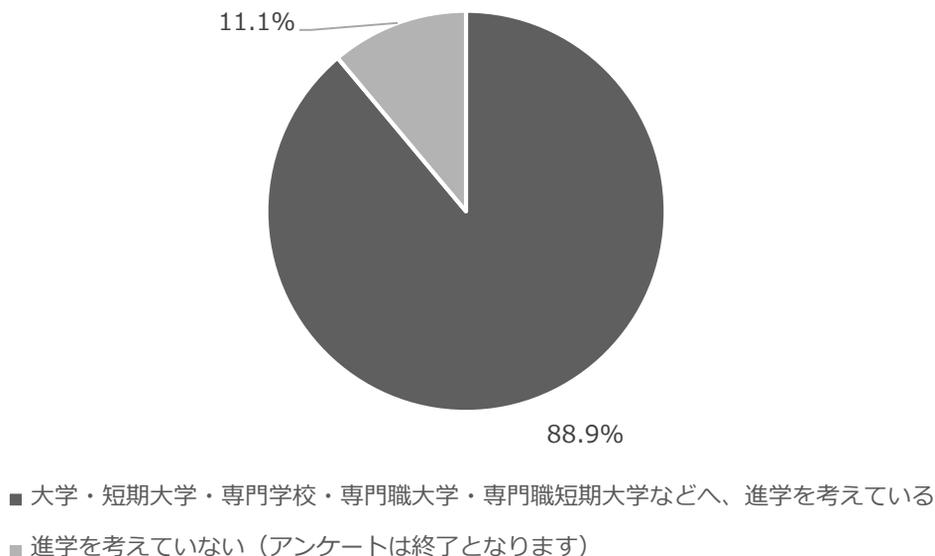
## ◆性別



## ◆高校卒業後の希望進路

Q4. ご自身の今後の進学に関するお考えを教えてください

※[大学]、「大学・短期大学」の回答は「大学・短期大学・専門学校・専門職大学・専門職短期大学などへ、進学を考えている」としてカウント

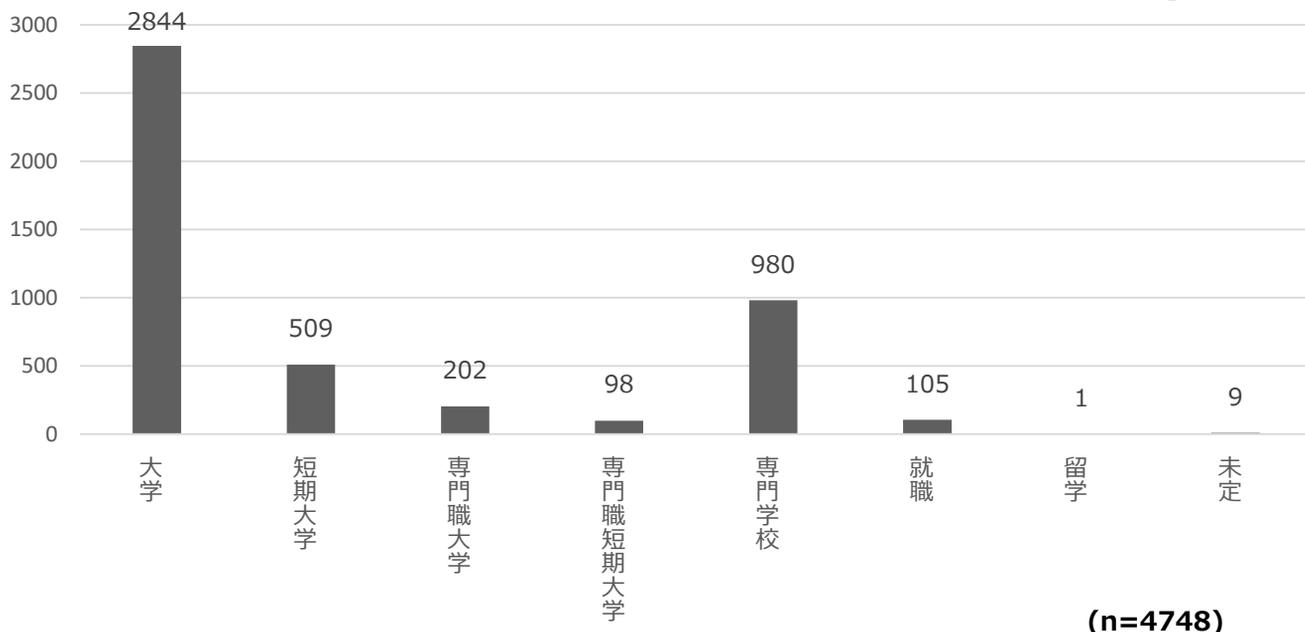


(n=4057)

## ◆高校卒業後の希望進路先

Q5. あなたは高校を卒業後、どのような進路に進みたいと思っていますか。あてはまる選択肢を全て選んで、✓をつけてください。(複数回答可)

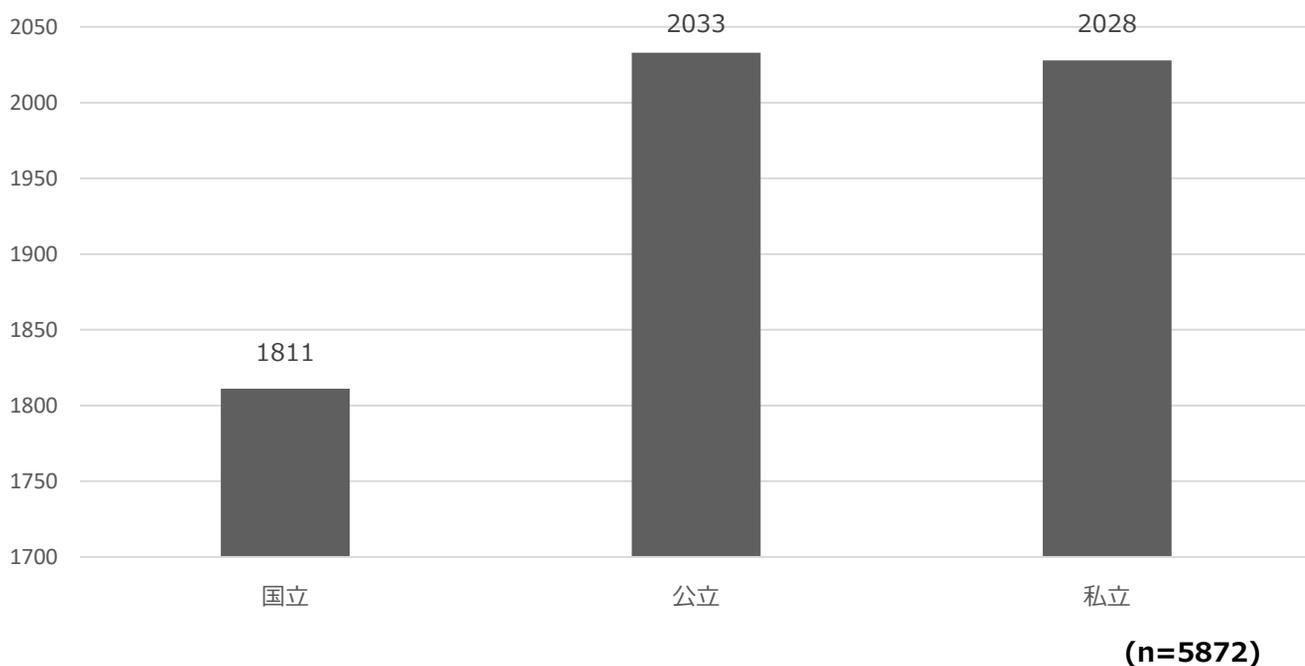
※まだ決まっていない、わからない等は「未定」としてカウント



(n=4748)

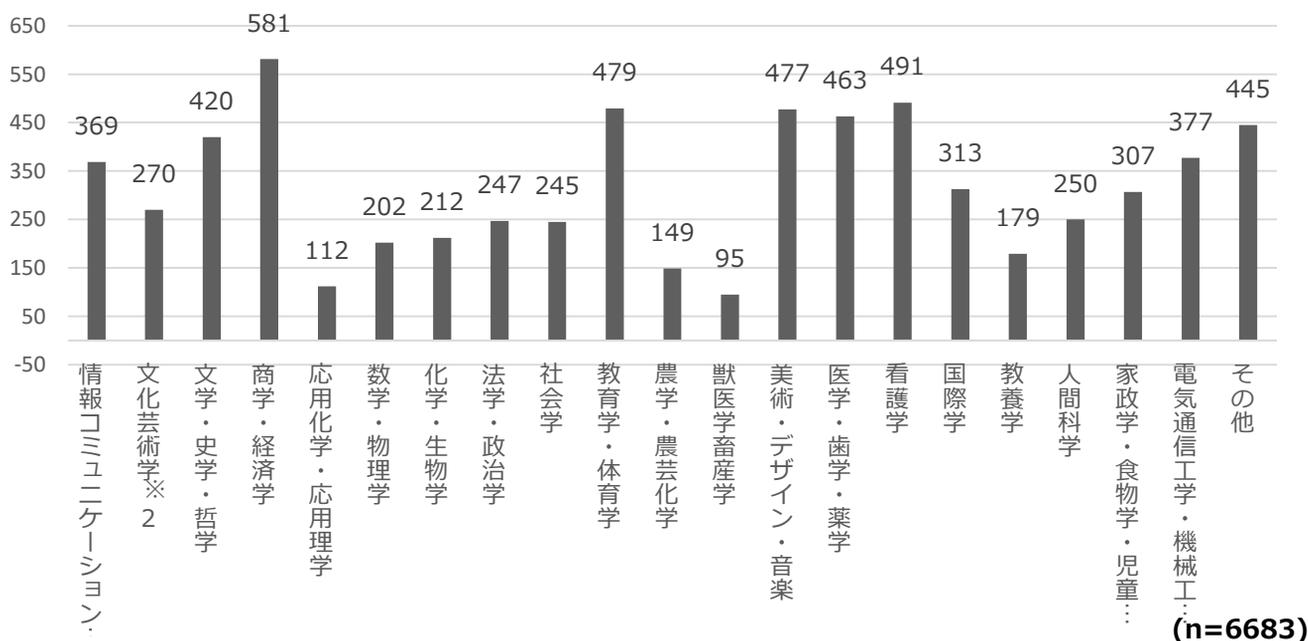
## ◆希望する設置者

Q6. あなたが志望する設置者（国立・公立・私立）の希望について、あてはまる選択肢を全て選んで、✓をつけてください。（複数回答可）



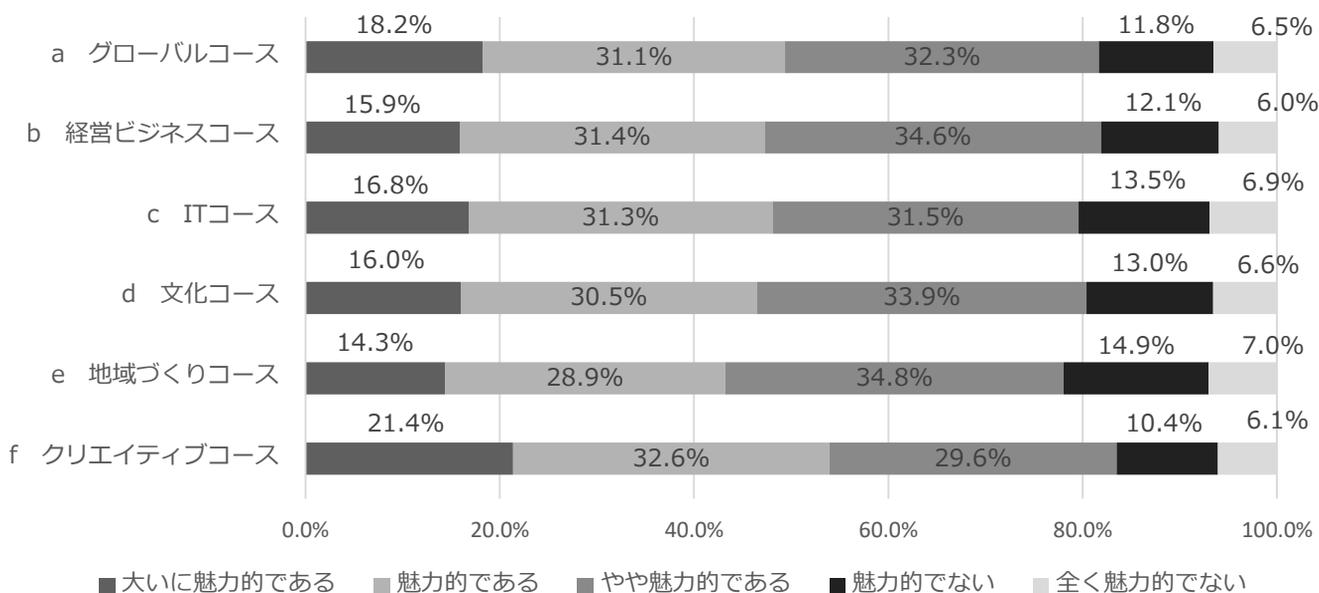
## ◆希望する学問系統

Q7. あなたはどのような学びの分野に興味がありますか。あてはまる選択肢を全て選んで、✓をつけてください。（複数回答可）



## ◆魅力のある学科のコース

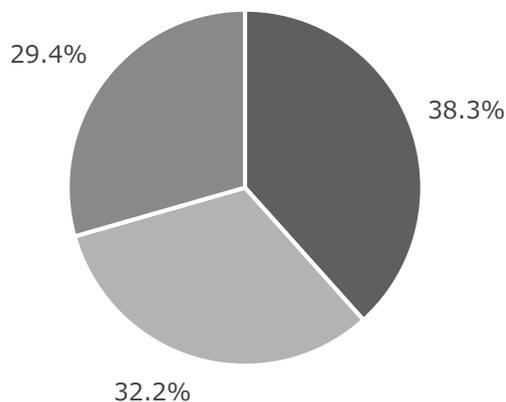
Q8. 清泉女学院大学 人文社会科学部（情報コミュニケーション学科、文化芸術学科）はそれぞれ3つのコースがあり、2025年に下記のa～fの特色をもって開設する予定です。下記のa～fがどの程度魅力があるかお答えください。



(n=3607)

## ◆希望する学科

Q9. あなたは「清泉女学院大学 人文社会科学部（情報コミュニケーション学科、文化芸術学科）」が開設された場合、どちらの学科により興味をもちますか？ 最もあてはまる選択肢を一つ選んでください。



- 情報コミュニケーション学科（グローバルコース、経営ビジネスコース、ITコース）
- 文化芸術学科（文化コース、地域づくりコース、クリエイティブコース）
- どちらにも興味がない

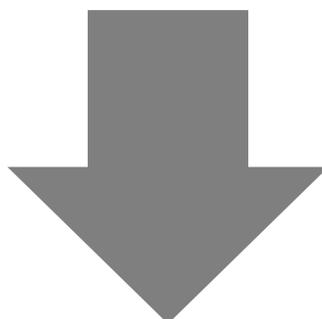
(n=3607)

### ◆清泉女学院大学へ入学見込みとなるターゲット層

Q5の高校卒業後の希望進路先とQ6の希望する設置者の回答でクロス集計を行い、清泉女子学院大学への入学見込みとなるターゲット層を抽出した。  
結果は、大学進学を希望し、私立への進学を希望するのは1586名となった。

	大学	短期大学	専門職 大学	専門職 短期大学	専門学校	就職	留学	未定	合計
合計	2,844 59.9%	509 10.7%	202 4.3%	98 2.1%	980 20.6%	105 2.2%	1 0.0%	9 0.2%	4,748
国立	1,636 69.1%	200 8.4%	97 4.1%	49 2.1%	332 14.0%	49 2.1%	1 0.0%	5 0.2%	2,369
公立	1,558 54.2%	347 12.1%	140 4.9%	85 3.0%	664 23.1%	75 2.6%	1 0.0%	7 0.2%	2,877
私立	1,586 56.2%	358 12.7%	135 4.8%	65 2.3%	606 21.5%	62 2.2%	1 0.0%	9 0.3%	2,822

「大学進学を希望」し、「私立への進学を希望」する  
と回答した1586名を抽出した。  
興味のある学問領域について、次ページでクロス集計を行う



### ◆各学科の入学見込み者数

前ページで抽出した1,586名の中から、Q7の興味のある学問領域と興味のある新設学科の回答についてクロス集計を行った。

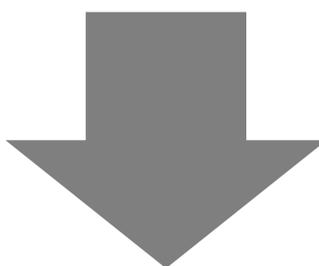
結果として、興味のある学問領域と新設学科が情報コミュニケーションと文化芸術の学生はそれぞれ142名と110名となった。

	情報コミュニケーション学※1	文化芸術学※2	文学・史学・哲学	商学・経済学	応用化学・応用理学	数学・物理学	化学・生物学	法学・政治学	社会学	教育学・体育学	農学・農芸化学
情報コミュニケーション学科	142 18.9%	48 6.4%	63 8.4%	195 26.0%	22 2.9%	38 5.1%	30 4.0%	69 9.2%	61 8.1%	68 9.1%	15 2.0%
文化芸術学科	46 8.5%	110 20.4%	121 22.4%	55 10.2%	5 0.9%	7 1.3%	13 2.4%	30 5.6%	56 10.4%	73 13.5%	23 4.3%
どちらにも興味がない	17 4.8%	13 3.6%	47 13.2%	73 20.4%	8 2.2%	18 5.0%	22 6.2%	30 8.4%	28 7.8%	86 24.1%	15 4.2%

	獣医学 畜産学	美術・デザイン・音楽	医学・歯学・薬学	看護学	国際学	教養学	人間科学	家政学・食物学・児童学・被服学	電気通信工学・機械工学・土木建築工学	その他	合計
情報コミュニケーション学科	10 1.3%	39 5.2%	73 9.7%	68 9.1%	94 12.5%	36 4.8%	38 5.1%	36 4.8%	76 10.1%	49 6.5%	751
文化芸術学科	14 2.6%	119 22.1%	54 10.0%	70 13.0%	49 9.1%	37 6.9%	67 12.4%	55 10.2%	26 4.8%	47 8.7%	539
どちらにも興味がない	9 2.5%	29 8.1%	84 23.5%	95 26.6%	36 10.1%	21 5.9%	33 9.2%	34 9.5%	32 9.0%	42 11.8%	357

興味のある学問と学科が情報コミュニケーションの学生142名と文化芸術の学生110名を抽出した。

新学科への進学意向について、次ページでクロス集計を行う



## ◆各学科の入学見込み者数

前ページで抽出した142名と110名から、Q7の希望する学問領域と興味のある新設学科の回答についてクロス集計を行った。

情報コミュニケーション学科で第1志望として受験し、入学意向がある学生は43名であった。また、文化芸術学科においては37名であった。

それぞれの学科とも定員数を超える結果となった。

### ・情報コミュニケーション学科

	入学する	志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	入学しない
第1志望として受験する	43 30.3%	0 0.0%	0 0.0%
第2志望として受験する	3 2.1%	8 5.6%	0 0.0%
第3志望以降として受験する	3 2.1%	24 16.9%	1 0.7%
受験しない	60 42.3%		

### ・文化芸術学科

	入学する	志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	入学しない
第1志望として受験する	37 33.6%	0 0.0%	0 0.0%
第2志望として受験する	3 2.7%	6 5.5%	0 0.0%
第3志望以降として受験する	1 0.9%	20 18.2%	0 0.0%
受験しない	39 35.5%		
未回答	4 3.6%		

# 人材需要に関する調査

## ▶ 調査目的

- ✓ 学校法人 清泉女学院が計画している「人文社会科学部（情報コミュニケーション学科、文化芸術学科）」の設置について、人材需要を確認する。

## ▶ 調査対象

- ✓ 企業に事前に調査協力を依頼し、許諾を得た対象事業所へ調査票を送付。
- ✓ 新卒採用に関わる人物に記入を依頼した。

## ▶ 調査期間

- ✓ 令和5年9月19日～令和5年9月30日

## ▶ 有効回収数

- ✓ 77か所の事業所から回答の依頼をし、33事業所からの回答許諾を得た
- ✓ 回答事業所数：33事業所（回収率 42.8%）

## 清泉女学院大学新学部についての採用意向アンケート

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は本学の教育活動にご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、清泉女学院大学では、より一層充実した教育を行うことを目的に2025年4月に「男女共学化」し、「人文社会科学部（情報コミュニケーション学科、文化芸術学科）」を新設する予定です。

この調査は本学の卒業生を採用頂いた法人様に対して、本学の卒業生や新学部新学科に対する印象・評価をお伺いし、「人文社会科学部（情報コミュニケーション学科、文化芸術学科）」の設置を構想する上での基礎資料とするものです。同封のリーフレットを参考にし、ご協力をお願いいたします。

なお、本アンケートに記載いただいた個人情報については、管理責任者を定めて不正アクセスや紛失、漏洩等が発生しないよう安全対策を積極的に実施し、記載いただいた回答内容については、統計処理をした上、結果のみ公表させていただくことがあります。個別の回答につきましては、第三者に提供することはありません。

本アンケートに関するお問い合わせについては下記窓口までご連絡ください。

清泉女学院大学・清泉女学院短期大学  
経営企画室

担 当：木村・広沢  
電 話：026-295-1314  
メール：keiei-kenkyu@seisen-jc.ac.jp

\* 必須の質問です

1. 貴社名をご入力ください。\*

\_\_\_\_\_

2. 回答者氏名をご入力ください\*

\_\_\_\_\_

3. 回答者メールアドレスをご入力ください。\*

\_\_\_\_\_

4. 回答者の部署名・役職名をご記入願います。

\_\_\_\_\_

5. 貴社では、本社・支店・営業所等のある県の大学（地元の大学）からの採用を望みますか。

1つだけマークしてください。

- できれば地元大学出身者を採用したい  
 こだわりはない  
 できれば県外大学出身者を採用したい

貴社で就業している本学の卒業生についてお聞きいたします。

6. 貴社で就業している本学卒業生について伺います。以下の項目について当てはまる番号をご回答ください。

主体性	：	物事に進んで取り組む力
働きかけ力	：	他人に働きかけ巻き込む力
実行力	：	目的を設定し確実に行動する力
実行力	：	目的を設定し確実に行動する力
計画力	：	課題の解決に向けた方法を明らかにし準備する力
創造力	：	新しい価値を生み出す力
発信力	：	自分の意見をわかりやすく伝える力
傾聴力	：	相手の意見を丁寧に聴く力
柔軟性	：	意見の違いや立場の違いを理解する力
状況把握力	：	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力
規律性	：	社会のルールや人との約束を守る力
ストレスコントロール力	：	ストレスの発生源に対応する力

1行につき1つだけマークしてください。

	1期待 を上回 る	2期待 どおり	3概ね 期待ど おり	4期待 を下回 る	5期待 を大き く下回 る
主体性	<input type="radio"/>				
働きかけ力	<input type="radio"/>				
実行力	<input type="radio"/>				
課題発見力	<input type="radio"/>				
計画力	<input type="radio"/>				
創造力	<input type="radio"/>				
発信力	<input type="radio"/>				
傾聴力	<input type="radio"/>				
柔軟性	<input type="radio"/>				
状況把握力	<input type="radio"/>				
規律性	<input type="radio"/>				
ストレスコントロール力	<input type="radio"/>				

7. 上記設問の項目において、貴社が重視している能力について3つ挙げてください。\*

1行につき1つだけマークしてください。

	主体性	働きかけ力	実行力	課題発見力	計画力	創造力	発信力	傾聴力	柔軟性
最も重視している	<input type="radio"/>								
2番目に重視している	<input type="radio"/>								
3番目に重視している	<input type="radio"/>								

以下より、2025年に新たに設置する新学部（人文社会科学部（情報コミュニケーション学科、文化芸術学科））についてお伺いいたします。※リーフレットをお読みいただいた後、お答えください。

まずは、情報コミュニケーション学科についてお伺いいたします。

情報コミュニケーション学科は  
高度情報社会のなかで必要となるコミュニケーションスキルを有し、  
人文科学を基盤としてビジネス、グローバル、デジタルに関する知識を関連させながら総合的に学び、  
情報・データの活用と他者とのコミュニケーションを通じて課題解決に貢献できる人材を育成  
することを目的としています。

8. 清泉女学院大学が設置構想中の「人文社会科学部 情報コミュニケーション学科 \*  
(仮称)」が養成する人材は、今後の社会においてニーズが高いと思われますか。

1つだけマークしてください。

- 人材ニーズは高い  
 人材ニーズは高くない  
 わからない

9. 清泉女学院大学が設置構想中の「人文社会科学部 情報コミュニケーション学科 \*  
(仮称)」が養成する人材を、定期的に貴社・貴機関・貴団体に採用したいと思われませんか。

1つだけマークしてください。

- 採用対象になる  
 採用対象にはならない 質問 11 にスキップします  
 わからない 質問 11 にスキップします

「採用対象になる」と回答された場合、次の質問にお答えください。

10. 毎年、何人程度採用したいと考えますか、採用可能な人数についてお答えください。

1つだけマークしてください。

- 1人  
 2人  
 3人  
 4人  
 5人  
 6人  
 7人  
 8人  
 9人  
 10人以上

続きまして、文化芸術学科についてお伺いいたします。

文化芸術学科は、  
文化に関する幅広い知識と自らが所属する社会、地域、共同体の多様性・多元性の正しい理解に基づき、  
行動力をもって文化の諸活動を主体的に行い、文化の創造に貢献し、文化の学びを課題解決につなげられる  
人材を育成  
することを目的としています。

11. 清泉女学院大学が設置構想中の「人文社会科学部 文化芸術学科（仮称）」が養成する人材は、今後の社会においてニーズが高いと思われますか。\*

1つだけマークしてください。

- 人材ニーズは高い  
 人材ニーズは高くない  
 わからない

12. 清泉女学院大学が設置構想中の「人文社会科学部 文化芸術学科（仮称）」が養成する人材を、定期的に貴社・貴機関・貴団体に採用したいと思われませんか。\*

1つだけマークしてください。

- 採用対象になる  
 採用対象にならない 質問 14 にスキップします  
 わからない 質問 14 にスキップします

「採用対象になる」と回答された場合、次の質問にお答えください

13. 毎年、何人程度採用したいと考えますか、採用可能な人数についてお答えください。

1つだけマークしてください。

- 1人 質問 14 にスキップします
- 2人 質問 14 にスキップします
- 3人 質問 14 にスキップします
- 4人 質問 14 にスキップします
- 5人 質問 14 にスキップします
- 6人 質問 14 にスキップします
- 7人 質問 14 にスキップします
- 8人 質問 14 にスキップします
- 9人 質問 14 にスキップします
- 10人以上 質問 14 にスキップします

本アンケートについて

14. 清泉女学院大学 人文社会科学部（情報コミュニケーション学科、文化芸術学科（仮称））に関してお気づきの点など、あれば記載してください。

---

---

---

---

---

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。

Google フォーム



SEISEN JOGAKUIN COLLEGE  
清泉女学院大学  
清泉女学院短期大学

NEXT STAGE  
for  
SEISEN



## 2025年4月 男女共学化

### 高校生の皆さんへ

長野市上野と長野駅東口にキャンパスをもつ清泉女学院大学では、2025年4月から全学部全学科で男女共学化するとともに、新たに人文社会科学部を設け、同学部の中に「情報コミュニケーション学科」と「文化芸術学科」を設置します。

より充実したカリキュラムとなるよう、高校生の皆さんからのお声を聞かせていただきたいと存じます。

中面の両学科の説明文をお読みにになり、**右にあるQRコード** を読み取ってアンケートフォームにお進みください。回答時間の目安は、3分です。よりよい教育を提供するため、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

清泉女学院大学 経営企画室

こちらのQRコードから  
アンケートにお答えください  
よろしくお願いいたします



※本リーフレットの内容は2023年8月末時点の計画中のものです。今後、文部科学省へ設置認可申請予定であり、変更となる場合もあります

## 人文社会科学部とは

～分野を超えた学びで「総合知」を養い、社会課題解決に挑む～

人文社会科学部は「情報コミュニケーション学科」と「文化芸術学科」の2学科で構成し、各学科とも3つの緩やかなコース制を設けます。これにより「ボーダレス」に、そして「複合的に」学びを深めます。多彩な学びの領域を横断し、幅広い視野と知識を身に付けるとともに、自由な発想と柔軟に活用していく力を育み、変化の激しい時代の複雑化する社会課題に取り組みます。分野を超えた学びで、課題解決に至る道筋を描くことができる“総合知”を養います。

こんな方にお勧めです！

### 情報コミュニケーション学科

(ケース1)

大学では異文化理解や外国語を学びたいと考えており、留学にも興味がある。国際化がさらに加速する中、デジタルリテラシーも修得しながら異文化コミュニケーションを学びたい。⇒グローバルコース

(ケース2)

これから情報化、デジタル化がさらに進むことを考えると、最低限のことは理解したうえでマーケティングや経営、ビジネスのことを深く学びたい。⇒経営ビジネスコース

(ケース3)

高校まで文系だった自分にはプログラミングなどは無理だと思っていた。しかし、初歩からIT（情報技術）やAI、データサイエンスのことを学べるチャンスがあるのなら、ぜひ学んでみたい。⇒ITコース

3つのコースで文系・理系の垣根を超えて学びます。(ケース2)のようにITのことも学びつつ自分の興味がある分野、例えばグローバルとビジネスを組み合わせた学びを探究することもできます。デジタルスキルを基盤として3つのコースで専門知識を深め、地域でもグローバルな舞台でも活躍できる力を身に付けます。

#### ■想定される進路

- ・一般企業（販売促進、マーケティング、システム、国際部門など）
- ・IT企業 ・調査会社、マーケティング会社 ・旅行・観光関連企業
- ・大学院進学 ・海外留学 など

#### ■目指せる資格の例

- ◎ITパスポート試験 ◎基本情報技術者試験 ◎情報セキュリティマネジメント試験 ・上級情報処理士
- ・上級秘書士（メディカル秘書） ・日商簿記 ・証券外務員1種 ◎ファイナンシャル・プランナー（FP）
- ・TOEIC ・ハンゲル検定 など（◎は国家資格）



#### グローバルコース

国際交流、異文化理解、ハンゲル、英語などの学びが中心のコース

#### 経営ビジネスコース

デジタルマーケティング、ビジネス調査法など現代の経営ビジネスを学ぶコース

#### ITコース

初歩からコンピュータサイエンスやAI活用、プログラミングなども学べるコース



## 文化芸術学科

こんな方にお勧めです！

### 文化コース

歴史、美術、芸術、文化などの学びを深め、文化的視点を身に付けるコース

### 地域づくりコース

地域政策、地域産業、まちづくりなどを学び、公務員希望者にも対応するコース

### クリエイティブコース

デザイン、3DCG、ゲーム、アニメなどについて学び、創作も行うコース

#### (ケース1)

アートや芸術に興味がある。人々の営みの中から生まれてきた様々な文化芸術の歴史を学び、それをマネジメントして広く知らしめ、次の世代に繋いでいきたい。➡文化コース

#### (ケース2)

自分が暮らしてきた地域の「社会システム」はどうなっているのか。フィールドワークや実際にイベントを企画することで「まちづくり」について考え、地域の発展に貢献したい。➡地域づくりコース

#### (ケース3)

芸術学部は敷居が高くて敬遠してしまうが、モノを描いたり、創造することが好き。ポップカルチャーにも興味がある。IT技術を用いた創作活動についても学びたい。➡クリエイティブコース

3つのオープンコース制。人間が生み出してきたすべてのものを「文化芸術」ととらえて学びます。様々なフィールドワークを通して専門知識を深め、プロジェクトの企画、実践を行います。人生を豊かにする「文化芸術」。自分の「好き」や「得意」なものについて追求し、さらに未来を考える力を身に付けます。

#### ■想定される進路

- ・一般企業（商品企画、広報など） ・金融機関 ・イベント企画会社
- ・出版社 ・公務員 ・博物館等学芸員 ・図書館司書 ・大学院進学など

#### ■目指せる資格の例

- ◎学芸員 ◎司書 ・カラーコーディネーター ・美術検定 ・Webクリエイター
- ◎ITパスポート試験 ・日商PC検定 など (◎は国家資格)

## 清泉女学院大学は2025年4月に大学名を変更します

(2023年12月に新大学名を発表する予定です)

1934年11月、スペインの聖心侍女修道会から、4名の修道女（シスター）が来日、第二次世界大戦中に長野県野沢温泉村への疎開を余儀なくされたシスター達が終戦後、長野に残ることを決意したことによって、清泉が長野に誕生しました。その後1981年に短大を、2003年には大学を開設しました。

2019年には既存の「上野キャンパス」に加えて、「長野駅東口キャンパス」を設け看護学部を新設、2021年に大学院（看護学研究科）、助産学専攻科を相次ぎ開設、地域とともに歩み、地域に貢献する大学として進化してきました。そして2025年4月、共学化、新学部設置により、新たな歴史を築きます。

## ■情報コミュニケーション学科アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

情報コミュニケーション学科では、情報コミュニケーション分野に関する教育研究を通じて、「高度情報社会のなかで必要となるコミュニケーションスキルを有し、人文科学を基盤としてビジネス、グローバル、デジタルに関する知識を関連させながら学際的・総合的に学び、情報・データの活用と他者とのコミュニケーションを通じて課題解決に貢献できる人材を育成することを目指す」ため、以下のような興味と関心、学修意欲を有する者を受け入れる。

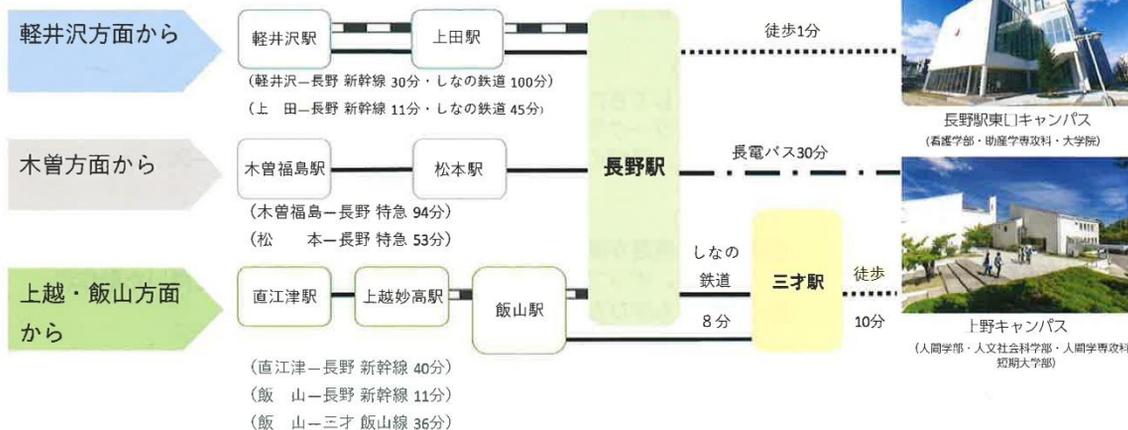
- (1) 基礎的教養・知識の学修、コミュニケーションスキルの向上に意欲的に取り組める人
- (2) 高度情報社会のなかで求められる専門的知識を探究し、資格取得や複合的分野の学びに意欲がある人
- (3) 日々の学修や活動を通して他者と積極的に関わり、そうした知識や経験を総合的に活用した社会課題の解決策を考えることに関心がある人

## ■文化芸術学科アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

文化芸術学科では、文化芸術分野に関する教育研究を通して、「文化芸術に関する諸学の幅広く学際的な知識と自らが所属する社会、地域、共同体の多様性・多元性の正しい理解に基づき、行動力をもって文化の諸活動を主体的に行い、文化芸術の創造に貢献し、文化芸術の学びを課題解決につなげられる人材を育成することを目的とする」ため、以下のような興味と関心、学修意欲を有する者を受け入れる。

- (1) 過去から現代に続く文化芸術を読み解き、創造することに関心のある人
- (2) 文化芸術をマネジメントして、社会に貢献したい人
- (3) 社会や企業で、発想力、企画力、創造力を生かして活躍したい人
- (4) 社会の様々な問題に関心を持ち、フィールドワーク等も通じて現状を分析し、解決策を考えることに関心がある人

## ● アクセス・アクセスマップ



## ● 設置概要

学部名称	人文社会科学部
学科名称	情報コミュニケーション学科 文化芸術学科
取得可能学位	学士（人文社会科学）
入学定員	情報コミュニケーション学科 40名 文化芸術学科 32名
学費	初年度 1,270,000円 2年次以降 1,020,000円
設置場所	長野県長野市上野 2丁目120-8

## ● 近隣の類似する学部がある大学

- ・信州大学 …… 文学学部
- ・富山大学 …… 芸術文化学部
- ・山梨英和大学 …… 人間文化学部
- ・敬和学園大学 …… 文学学部
- ・新潟国際情報大学 …… 国際学部



SEISEN JOGAKUIN COLLEGE  
清泉女学院大学  
清泉女学院短期大学

TEL:026-295-1314

<https://www.seisen-jc.ac.jp/>

清泉女学院大学 検索

※大学名 名称変更予定

- 人間学部 心理コミュニケーション学科  
心理コース/英語コミュニケーションコース
- 看護学部 看護学科
- 人文社会科学部 情報コミュニケーション学科 (仮称)  
文化芸術学科 (仮称)
- 専攻科 人間学専攻科  
助産学専攻科
- 大学院 看護学専攻科
- 短期大学部 幼児教育科 (2024年度までは清泉女学院短期大学)

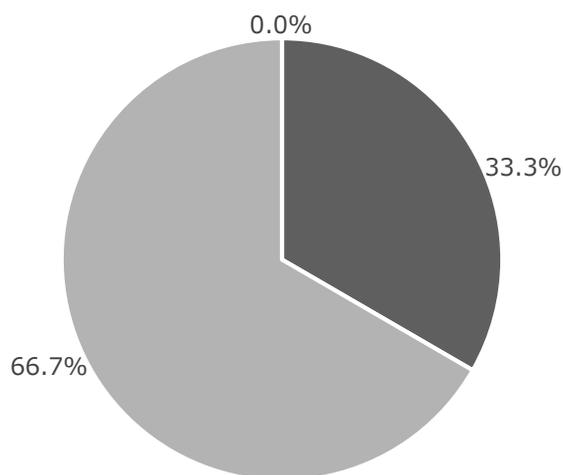
※人文社会科学部は2025年4月開設予定（設置構想中）

1	ユーグループ
2	株式会社スズキ自販長野
3	アスザック株式会社
4	東京海上日動火災保険株式会社
5	株式会社ツルヤ
6	長野県信用組合
7	ホテル国際 2 1 株式会社
8	北野建設株式会社
9	長野証券株式会社
10	長野県労働金庫
11	信州名鉄運輸株式会社
12	長野日産自動車 (株)
13	株式会社ながの東急百貨店
14	株式会社アルプスツール
15	株式会社ユウワ
16	株式会社シーシーディ
17	JA長野県グループ
18	株式会社 長野銀行
19	オリオンシステム株式会社
20	東日本旅客鉄道株式会社
21	大日本法令印刷株式会社
22	長野信用金庫
23	株式会社八光 笹屋ホテル
24	株式会社 T O S Y S
25	株式会社本久
26	株式会社モリキ
27	株式会社高見澤
28	株式会社鈴木
29	株式会社アルプスパホーム
30	フレックスジャパン株式会社
31	長野県警察
32	社会福祉法人敬老園

# 調查結果

## ◆地元大学出身者の採用の傾向

Q.貴社では、本社・支店・営業所等のある県の大学（地元の大学）からの採用を望みますか。

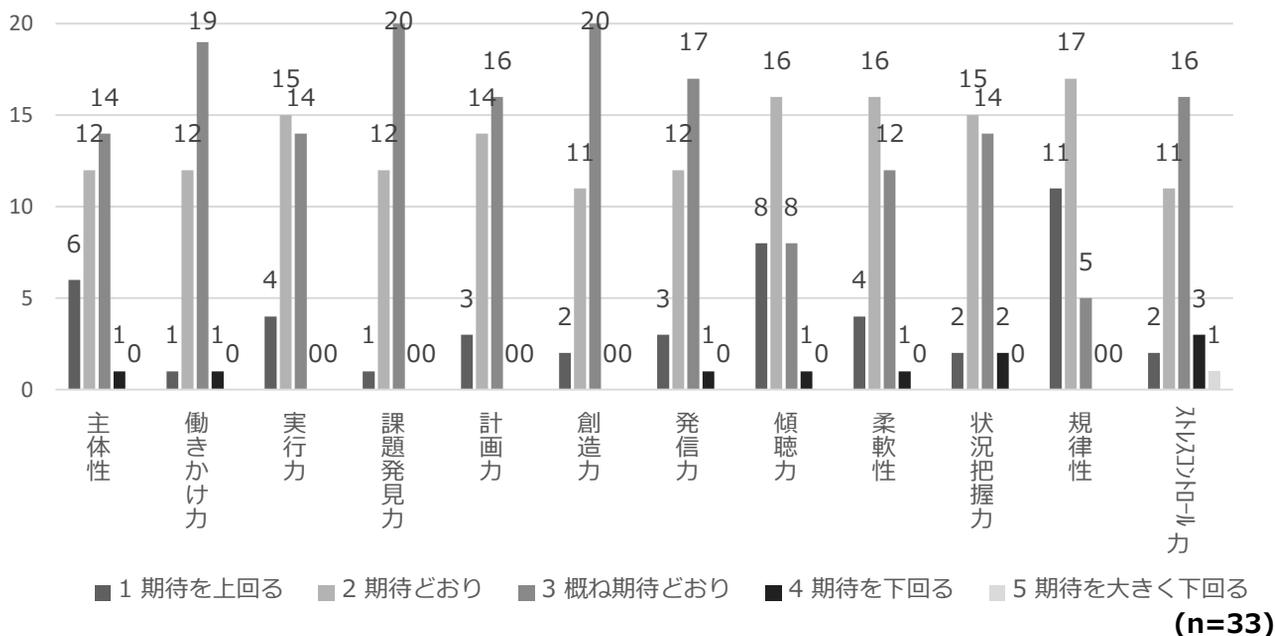


■ できれば地元大学出身者を採用したい ■ こだわりのない ■ できれば県外大学出身者を採用したい

(n=33)

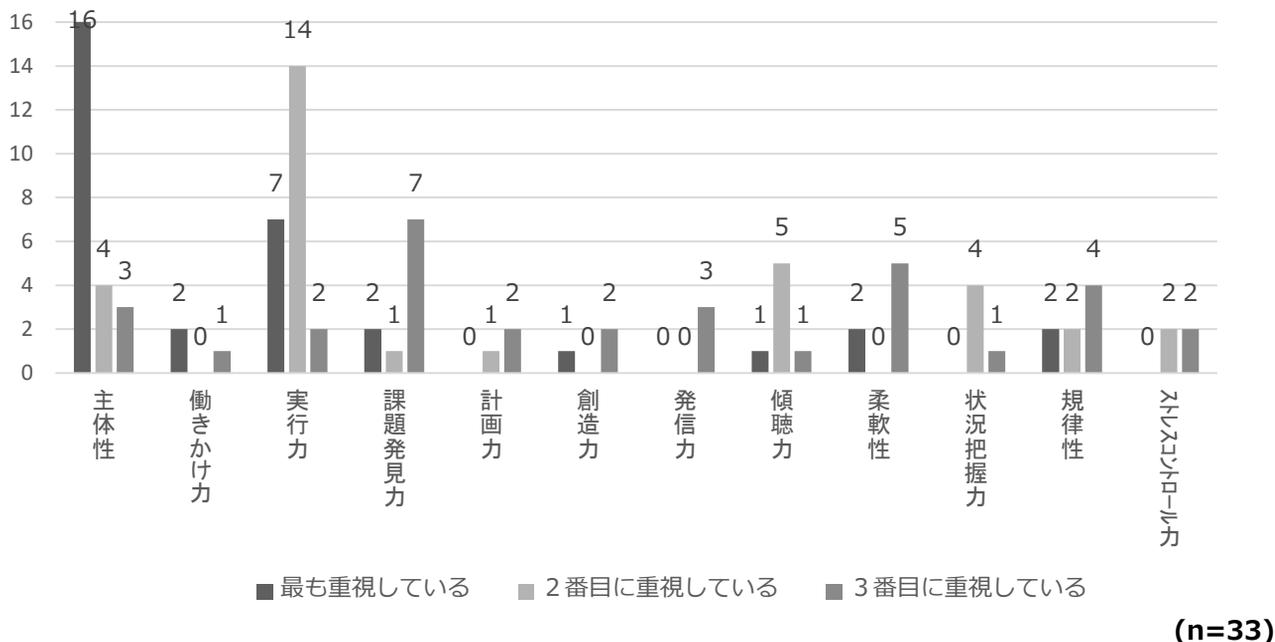
## ◆卒業生の就業後の能力

Q.貴社で就業している本学卒業生について伺います。  
以下の項目について当てはまる番号をご回答ください。



## ◆企業で重視している能力

Q.上記設問の項目において、貴社が重視している能力について3つ挙げてください。

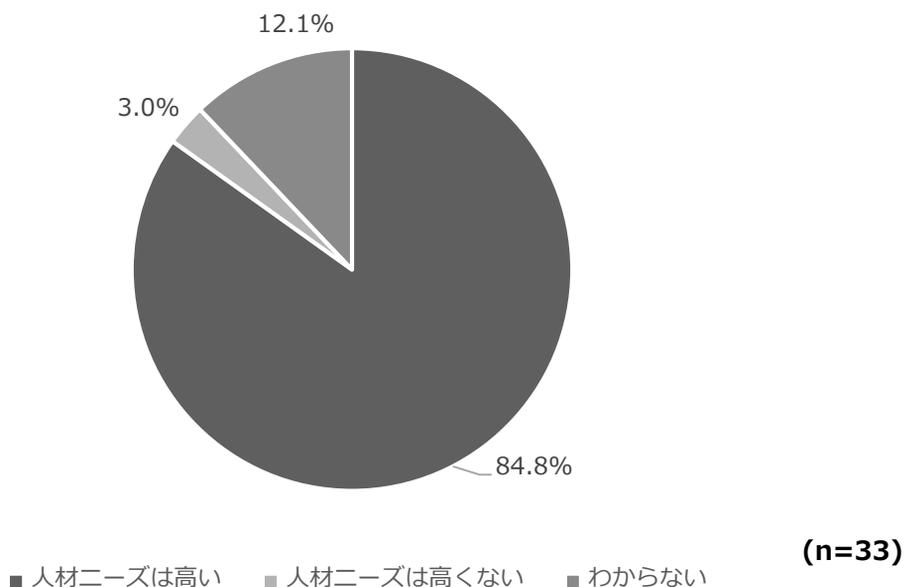


## ◆項目一覧

項目一覧	
主体性	物事に進んで取り組む力
働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力
実行力	目的を設定し確実に行動する力
計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかに準備する力
想創造力	新しい価値を生み出す力
発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力
傾聴力	他人の意見を丁寧に聴く力
柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力
状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力
規律性	社会のルールや人との約束を守る力
ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力

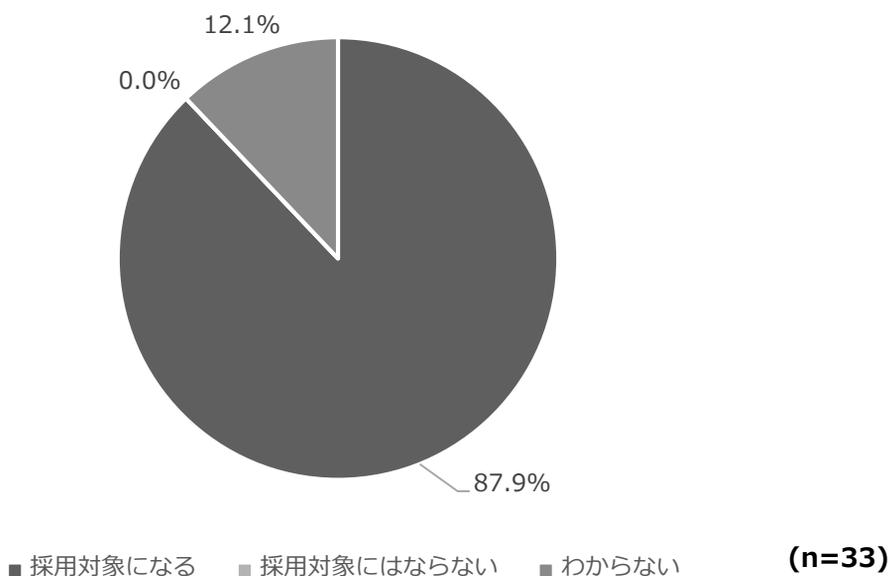
## ◆情報コミュニケーション学科の人材ニーズ

Q4. 清泉女学院大学が設置構想中の「人文社会科学部 情報コミュニケーション学科（仮称）」が養成する人材は、今後の社会においてニーズが高いと思われますか。



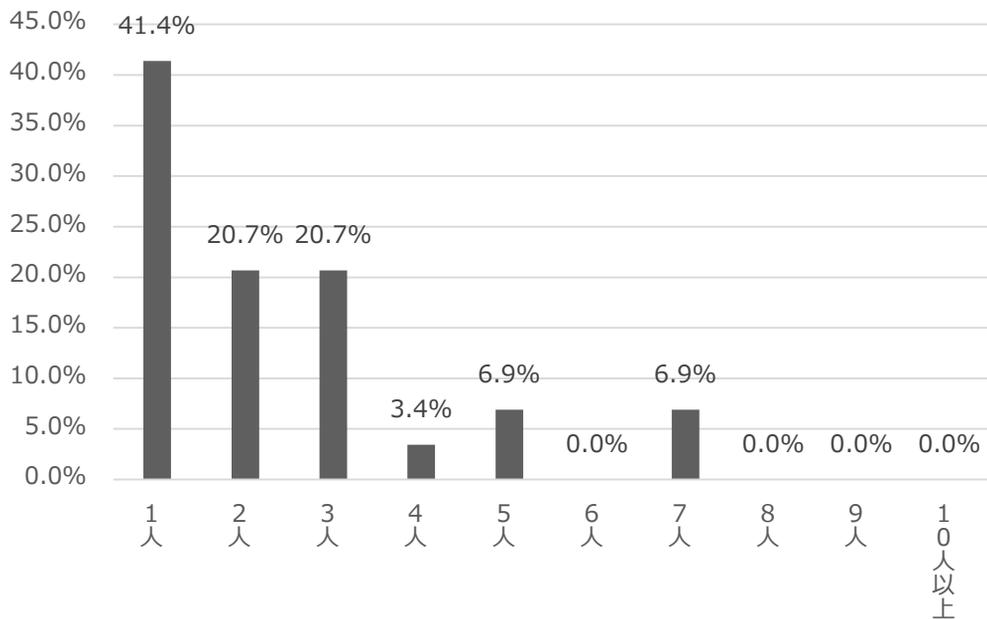
## ◆情報コミュニケーションを卒業した学生の採用意向に関する調査

Q. 清泉女学院大学が設置構想中の「人文社会科学部 情報コミュニケーション学科（仮称）」が養成する人材を、定期的に貴社・貴機関・貴団体で採用したいと思われませんか。



「採用対象になる」を回答した29事業所を抽出

Q. 毎年、何人程度採用したいと考えますか、採用可能な人数についてお答えください。

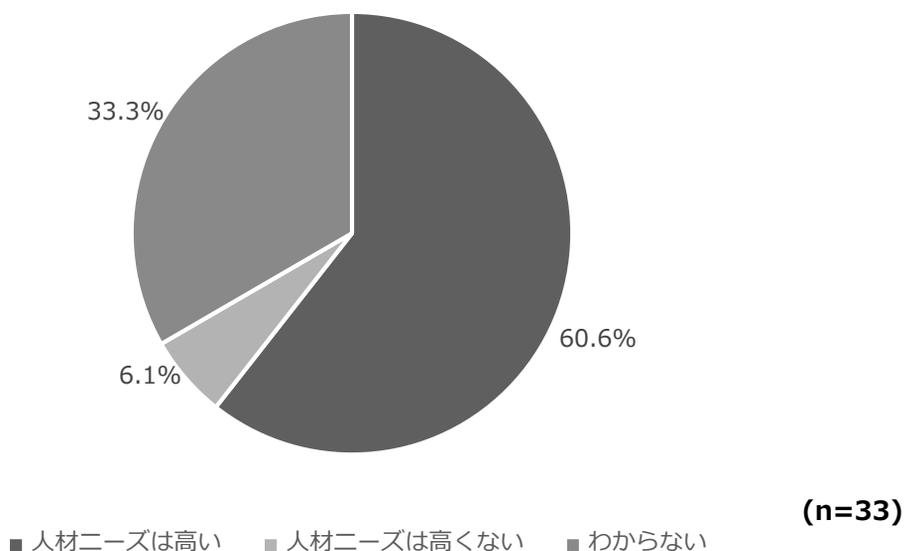


総数 70名  
29事業所

(n=29)

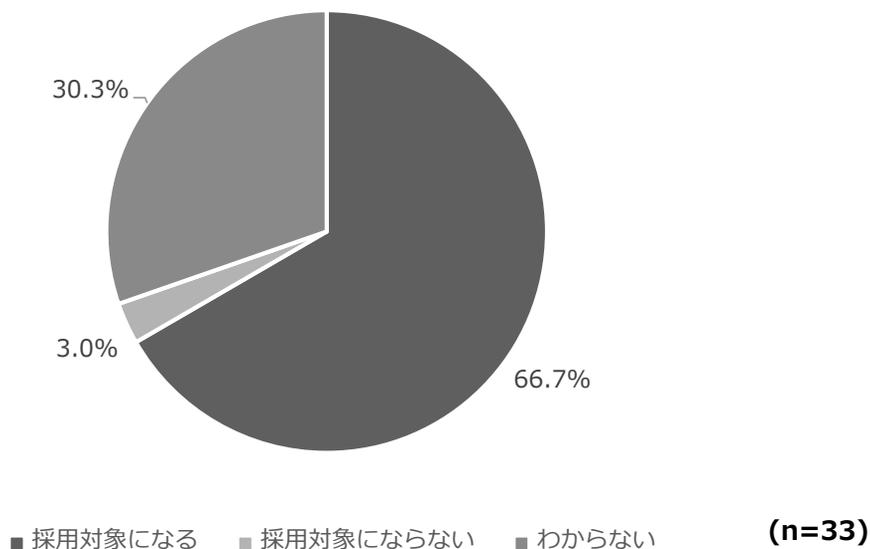
## ◆文化芸術学科の人材ニーズ

Q. 清泉女学院大学が設置構想中の「人文社会科学部 文化芸術学科（仮称）」が養成する人材は、今後の社会においてニーズが高いと思われますか。



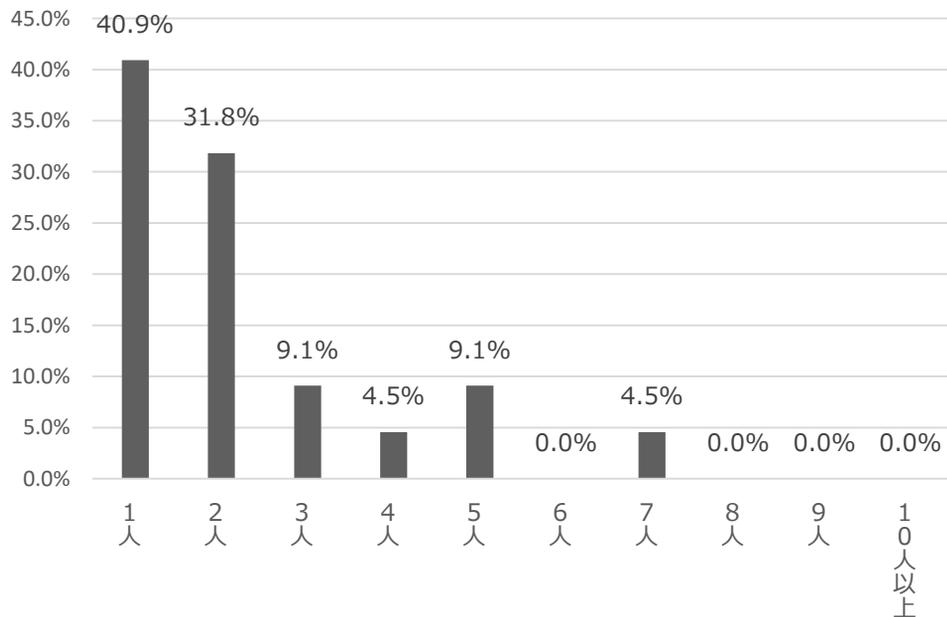
## ◆文化芸術学科を卒業した学生の採用意向に関する調査

Q. 清泉女学院大学が設置構想中の「人文社会科学部 文化芸術学科（仮称）」が養成する人材を、定期的に貴社・貴機関・貴団体で採用したいと思われませんか。



「採用対象になる」を回答した22事業所を抽出

Q. 毎年、何人程度採用したいと考えますか、採用可能な人数についてお答えください。



総数 50名  
22事業所

(n=22)

## ◆まとめ

- ① 地元大学出身者の採用傾向
  - 回答企業の意向として、「できれば地元大学出身者を採用したい」が33.3%、「こだわりはない」が66.7%であった。
  - 採用にこだわりがないが過半数以上となったが、**約3割の企業が地元大学出身者を採用したい意向である。**
- ② 卒業生の能力
  - 回答企業では、本学卒業生の能力として、「規律力」、「傾聴力」、「主体性」が「期待を上回る能力」として回答している企業が多かった。
  - また、企業が重視している能力は「主体性」、「実行力」であった。
  - 「主体性」は企業が重視している能力と、清泉女学院大学の卒業生が評価されている能力が一致している。
- ③ 「情報コミュニケーション学科」の人材ニーズ
  - **「情報コミュニケーション学科」の人材ニーズについては、84.8%の企業が「人材ニーズは高い」と回答しており、企業からのニーズは高い結果となった。**
- ④ 「情報コミュニケーション学科」卒業生に対する採用意向・採用想定人数
  - 「情報コミュニケーション学科」の卒業生を「採用対象になる」と答えた企業は、87.9%（33企業中、29企業）となった。
  - **「情報コミュニケーション学科」の卒業生を「採用対象になる」と答えた29企業に毎年採用可能人数を質問した結果、採用可能人数の合計は70名となった。**以上から安定した人材需要があることがうかがえる。
- ⑤ 「文化芸術学科」の人材ニーズ
  - **「文化芸術学科」の人材ニーズについては、60.6%の企業が「人材ニーズは高い」と回答しており、企業からのニーズは過半数以上からニーズがある結果となった。**
- ⑥ 「文化芸術学科」卒業生に対する採用意向・採用想定人数
  - 「文化芸術学科」の卒業生を「採用対象になる」と答えた企業は、66.7%（33企業中、22企業）となった。
  - **「文化芸術学科」の卒業生を「採用対象になる」と答えた22企業に毎年採用可能人数を質問した結果、採用可能人数の合計は50名となった。**以上から安定した人材需要があることがうかがえる。

## 教 員 名 簿

学 長 又 は 校 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	タムラ シュンスケ 田村 俊輔 <令和2年11月>		Doctor of Philosophy (in Developmental Psychology) (米国)		清泉女学院大学 学長 (平成15年4月～令和8. 3)

## 審査意見への対応を記載した書類（7月）

### 目次

1. 本学全体において、大学設置基準第 10 条に定める基幹教員数のうち、半数以上は原則として教授とする規定を満たしていないため、適切に改めること。 .....2
2. 本学の校地面積において、大学設置基準第 37 条の規定を満たしていないため、適切に改めること。 .....5

(是正事項) 清泉女学院大学

1. 本学全体において、大学設置基準第 10 条に定める基幹教員数のうち、半数以上は原則として教授とする規定を満たしていないため、適切に改めること。

(対応)

以下による人間学部心理コミュニケーション学科と看護学部看護学科の教員数の記入相違によるものであり、修正して申請する。

(新旧対照表等)

基本計画書(3 ページ) (見え消しで修正点を示す)

学部等の名称		基幹教員				
		教授	准教授	講師	助教	計
新設分	人間学部 心理コミュニケーション学科	5 4人 (5)(4)	3 4人 (3)(4)	2 人 (2)	0 1人 (0)(1)	10 11人 (10)(11)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 4 (5)(4)	3 4 (3)(4)	2 (2)	0 1 (0)(1)	10 11 (10)(11)
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	小計(a～b)	5 4 (5)(4)	3 4 (3)(4)	2 (2)	0 1 (0)(1)	10 11 (10)(11)
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a, b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	計(a～d)	5 4 (5)(4)	3 4 (3)(4)	2 (2)	0 1 (0)(1)	10 11 (10)(11)
	人文社会科学部 情報コミュニケーション学科	5 人 (5)	1 人 (1)	2 人 (2)	0 人 (0)	8 人 (8)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (5)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	8 (8)
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	小計(a～b)	5 (5)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	8 (8)
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a, b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	計(a～d)	5 (5)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	8 (8)
人文社会科学部 文化芸術学科	5 人 (5)	1 人 (1)	2 人 (2)	1 人 (1)	9 人 (9)	
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (5)	1 (1)	2 (2)	1 (1)	9 (9)	
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	

小計 (a～b)	5 (5)	1 (1)	2 (2)	1 (1)	9 (9)
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計 (a～d)	5 (5)	1 (1)	2 (2)	1 (1)	9 (9)
看護学部 看護学科	9 7人 (9)(7)	5 人 (5)	4 人 (4)	9 10人 (9)(10)	27 26人 (27)(26)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	8 6 (8)(6)	3 (3)	3 2 (3)(2)	1 0 (1)(0)	15 11 (15)(11)
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (aに該当する者を除く)	1 (1)	2 (2)	1 2 (1)(2)	8 10 (8)(10)	12 15 (12)(15)
小計 (a～b)	9 7 (9)(7)	5 (5)	4 (4)	9 10 (9)(10)	27 26 (27)(26)
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計 (a～d)	9 0 (9)(0)	5 0 (5)(0)	4 0 (4)(0)	9 0 (9)(0)	27 0 (27)(0)
計	24 21 (24)(21)	10 11 (10)(11)	10 (10)	10 12 (10)(12)	54 (54)

(是正事項) 清泉女学院大学

2. 本学の校地面積において、大学設置基準第 37 条の規定を満たしていないため、適切に改めること。

(対応)

基本計画書の校地等区分の内容について誤認があり、「校舎敷地」に含めるべき空を「その他」に参入してしまった。校地等の記載内容をただし区分に則って修正するとともに、令和 6 年 4 月に決定した変更事項を反映した内容で、再度申請を行う。

(新旧対照表等)

・基本計画書(3 ページ) (見え消しで修正点を示す)

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	清泉女学院短期大学(必要面積 2,000.00 m <sup>2</sup> )と共用 [収容定員: 200 人] 借用面積 1,621.00 m <sup>2</sup> 借用期間 44 年 11 ヶ月
	校舎敷地	1,512.64 m <sup>2</sup> <del>1,621.00 m<sup>2</sup></del>	12,871.56 m <sup>2</sup> <del>6,542.27 m<sup>2</sup></del>	— m <sup>2</sup>	14,384.20 m <sup>2</sup> <del>8,163.27 m<sup>2</sup></del>	
	その他	108.36 m <sup>2</sup> <del>0 m<sup>2</sup></del>	6,963.17 m <sup>2</sup> <del>13,292.46 m<sup>2</sup></del>	— m <sup>2</sup>	7,071.53 m <sup>2</sup> <del>13,292.46 m<sup>2</sup></del>	
合計	1,621.00 m <sup>2</sup>	19,834.73 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	21,455.73 m <sup>2</sup>		